

No.	出土位置	規 模 (cm)		平面形	覆 土	備 考 (重複関係・出土遺物・他)
		長径×短径×深さ				
43	A<7	22×22×30		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	
44	A<7	24×20×9		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。	
45	B<9	56×48×16		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	古墳土師器丸胴甕片。
46	A<9	50×36×30		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) パミス多く含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス含む。 3. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。	武蔵甕片。
47	A<9	40×(20)×31.5		楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・パミス細粒含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子砂多く含む。	
48	A<9	50×34×47.5		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス細流含む。 2. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。	
49	A<9	40×(26)×20.5		楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/4)	
50	A<6	28×20×25		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。	M4に切られる。
51	A<7	44×36×43.5		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。	M4を切る。 M4に切られる。
52	A<7	26×24×33.5		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック含む。	
53	A<8	22×18×26.5		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。	
54	A<8	20×20×17		円形	"	M4との新旧関係不明。
55	A<9	24×18×54.5		楕円形	P29と同じ。	
56	C<1	56×44×27		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 0.5cm大パミス含む。	M2を切る。弥生中期壺・甕片
57	A<7	24×16×17		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	M5を切る。
58	A<7	20×20×21		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	M5を切る。
59	A<7	24×18×30		楕円形	1. 褐色土層 (10YR4/4) ロームブロック含む。	M5を切る。
60	A<9	36×32×28		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・炭化物粒子含む。	
61	C<1	44×40×23.5		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・炭化物粒子含む 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック含む。	
62	A<6	44×30×20		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム多く含む。	
63	A<6	30×30×30		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・パミス5mm大含む。	
64	A<6	36×28×27		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子・パミス~1cm大含む。	
65	A<6	30×28×23		円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ロームブロック含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。	
66	A<6	28×22×35		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック・パミス・炭化物粒子含む。	
67	A<7	44×36×41		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。	
68	A<7	24×24×26		円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。	
69	A<7	46×36×67		楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く・パミス含む。 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。	武蔵甕片・土師器杯片
70	A<7	30×28×15		円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子・パミス含む。	
71	A<7	24×20×46		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 炭化物含む。	
72	B<8	28×26×19		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。	
73	B<8	30×22×26		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多く含む。	
74	B<8	28×22×27		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子含む。	
75	B<8	26×24×23.5		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子・パミス含む	
76	B<8	46×34×39		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色砂多く含む。	
77	B<8	36×32×31		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子多く含む。	
78	B<8	32×32×21		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 小石含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	土師器甕片。
79	B<8	32×24×24		楕円形	1. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・小石含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) 黄褐色砂多く含む。	
80	B<8	28×22×17		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多く含む。 2. 褐色土層 (10YR4/4) 黄褐色砂多く含む。	
81	B<8	34×30×19		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 2. 暗褐色土層 (10YR3/3)	
82	B<9	48×34×37		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黄褐色砂多く含む。	土師器片
83	B<9	34×34×22		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	
84	B<9	34×26×24		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子多く含む。	
85	A<8	26×16×21		楕円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3)	
86	A<8	42×40×39		円形	1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 小石多く含む。 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子多く含む。	

第3表 西一本柳遺跡V出土土器観察表

H1号住居址

挿図番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
8-1	土師器甕	— (6.5) 7.0	武蔵甕底部。	外面 胴部・底部ヘラ削り。 内面 ナデ。	完全実測。1/2残存。 色調 5YR3/3 (暗赤褐色) カマド出土。
8-2	土師器甕	(22.7) (6.5) 7.0	武蔵甕。台付か。	外面 胴上部横位のヘラケズリ・胴下半部斜位のヘラケズリ→口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	回転実測。1/2残存。 色調 2.5YR5/4 (にぶい赤褐色)

H6号住居址

挿図番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
9-1	土師器小甕	(15.0) (16.0) (6.8)	接点ないが同一個体。	外面 口縁部横ナデ。胴部・底部ヘラケズリ 内面 "。胴部・底部ヘラケズリ→ ナデ。	回転実測。 色調 7.5YR6/4 (にぶい橙色)
9-2	土師器甕	(23.0) (9.5) —	武蔵甕。 口縁部大きく外反し、「く」の字形態。	外面 口縁部横ナデ。胴部ヘラケズリ。 内面 口縁部横ナデ。胴部ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR5/4 (にぶい赤褐色)

H4号住居址

挿図番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
10-1	土師器杯	(12.4) (4.2) (9.6)	丸底。須恵器杯蓋模倣杯。	外面 口縁部横ナデ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 2.5Y6/6 (橙色)
10-2	土師器杯	15.4 5.0 12.0	丸底。須恵器杯蓋模倣杯。	外面 口縁部横ナデ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナデ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 10YR5/4 (にぶい黄褐色)
10-3	土師器杯	(15.4) (2.3) (13.0)	丸底。須恵器杯蓋模倣杯。	外面 口縁部横ナデ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナデ。	回転実測。底部1/2残存。 色調 2.5Y6/6 (橙色)
10-4	土師器碗	14.6 4.5 12.0	丸底。須恵器杯蓋模倣杯。 内面黒色処理。	外面 口縁部横ナデ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 口縁部横ナデ。底部大まかなミガキ。 黒色処理。	完全実測。ほぼ完存。 色調 7.5YR5/3 (にぶい褐色) 内面7.5YR1.7/1 (黒色)
10-5	土師器杯	12.0 4.7 13.0	丸底。須恵器杯身模倣杯。	外面 口縁部横ナデ。底部手持ちヘラケズリ→大 まかなミガキ。 内面 横ナデ。	完全実測。完形。 色調 7.5YR4/4 (褐色) 内外面少し煤付着。
10-6	土師器杯	12.4 4.2 13.0	丸底。須恵器杯身模倣杯。薄手。	外面 口縁部横ナデ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 横ナデ。	完全実測。完形。 色調 7.5YR5/4 (にぶい褐色) 胎土緻密。焼成橙色仕上げ。
10-7	土師器鉢	— (4.4) 6.0	厚手。	外面 胴部・底部ヘラケズリ。 内面 ナデ。→雑なミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 5YR6/6 (橙色)
10-8	土師器甌	— 25.0 10.8	胴部円筒形。	外面 胴部縦ハケ。 内面 胴部横方向のハケ→上部縦方向ヘラナデ。	完全実測。口縁部欠損。 色調 5YR6/6 (褐色)
10-9	土師器甕	(20.4) 12.5 —	丸胴甕。	外面 口縁部横ナデ。胴部ヘラケズリ→疎らかなミ ガキ。 内面 口縁部横ナデ。胴部ナデ。ミガキ所々あり。	回転実測。1/8残存。 色調 7.5YR7/4 (にぶい褐色)
10-10	土師器甕	— (2.5) 7.8	丸胴甕底部か。	外面 ミガキ。底部ミガキ磨減。 内面 ナデ。→ミガキ?	完全実測。底部のみ残存。 色調 5YR6/6 (褐色)
11-11	土師器鉢	(12.4) (11.5) —		外面 口縁部横ナデ。胴部縦方向ヘラケズリ。 内面 横方向ハケ→口縁部横ナデ。	回転実測。1/3残存。 色調 10YR7/6 (明黄褐色)
11-12	土師器小甕	14.7 10.8 —	丸底。底にカヤの圧痕あり。	外面 胴部・底部ヘラケズリ。→口縁部横ナデ。 内面 ナデ→口縁部横ナデ。	完全実測。 色調 7.5YR6/4 (にぶい褐色) 胎土 砂粒多く含む。

10-13	土師器 長胴甕	(17. 0) (15. 2) —	口縁部短く外反。	外面 口縁部横ナデ→胴部縦方向のヘラケズリ。 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ。	回転実測。1/7残存。 色調 5YR 5/4 (にぶい赤褐色) 胎土 7mm大の小石含む。
10-14	土師器 長胴甕	(21. 0) (22. 1) —	口縁部大きく外反。	外面-胴部ヘラケズリ。→口縁部横ナデ 内面-胴部ナデ。→口縁部横ナデ。	回転実測。1/2残存。底部なし。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄褐色) 胎土 緻密。
10-15	土師器 長胴甕	18. 2 34. 4 5. 0	口縁部短く外反。	外面-胴部縦方向・底部ヘラケズリ。→口縁部横ナデ。 内面-口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	完全実測。完形。 色調 10YR 8/6 (黄褐色)

### H7号住居址

挿図 番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
13-1	土師器 杯	(13. 5) (3. 8) (11. 8)	丸底。須恵器杯蓋模倣杯。 口縁部沈線状のロクロ痕あり。	外面 口縁部横ナデ。底部手持ちヘラケズリ。底部に蓋状圧痕1本。 内面 横ナデ。	完全実測。完形。 色調 5YR 5/8 (明赤褐色)
13-2	土師器 杯	(15. 4) 4. 0 (9. 4)	丸底。口径に比して底径が小さく浅い底部に口縁は外稜をもって大きく外反する。	外面 口縁部丁寧なミガキ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 5YR 6/8 (橙色)
13-3	土師器 杯	(15. 1) 4. 6 (10. 4)	丸底。口径に比して底径が小さく浅い底部に口縁は外稜をもって大きく外反する。厚手。	外面 口縁部丁寧なミガキ。底部手持ちヘラケズリ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 2.5Y 6/8 (橙色)
12-4	土師器 鉢	17. 3 12. 0 11. 6	丸底。全体にゆがむ。厚手。	外面 口縁部ヨコナデ、→ミガキ。胴部ヘラケズリ→ミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測。2/3残存。 色調 5YR 6/8 (橙色)
13-5	土師器 鉢	19. 0 11. 4 7. 0	底部丸底。 下部内外面に炭化物付着。	外面 口縁部ヨコナデ、→胴部ヘラケズリ、→口縁部わずかにミガキ。 内面 口縁部ヨコナデ、→ミガキ。	完全実測。完形。 色調 2.5YR 5/6 (明赤褐色)
13-6	土師器 鉢	(14. 8) (10. 0) —	口縁部短く外形。	外面 口縁部ヨコナデ、胴部ミガキ。 内面 口縁部ヨコナデ、胴部ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR 3/3 (暗赤褐色)
13-7	土師器 手捏	(3. 5) 2. 6 —		内外面 押圧痕	部分実測。1/3残存。 色調。2. 5YR 3/2 (暗赤褐色)
13-8	土師器 鉢	(4. 4) 6. 0	丸底。底部中央径3cm窪む。	外面ヘラケズリ→ミガキ。 内面ミガキ、黒色処理。	回転実測。底部残存。 色調 7. 5YR 6/6 (橙色)
13-9	土師器 鉢	— (5. 4) (7. 2)		外面-胴部ヘラケズリ、底部ミガキ。 内面-ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR 5/6 (明赤褐色)
13-10	土師器 長胴甕	15. 9 23. 6 6. 9	中型品。口縁部短く外反。	外面 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ→ミガキ 底部ヘラケズリ。 内面-口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	完全実測。完形。 色調 10YR 6/6 (黄褐色)
12-11	土師器 長胴甕	18. 9 32. 0 5. 5	口縁部短く外反。	外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部木葉痕。 内面-口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	完全実測。 色調 2.5YR 5/6 (明赤褐色)

### H3号住居址

挿図 番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
15-1	高杯	(9. 4) 5. 6 5. 5	小型品。	外面 ミガキ、赤色塗彩。 内面 杯部ミガキ、赤色塗彩。脚部ナデ→わずかにミガキ。	回転実測。脚部完存。 色調 5YR 5/6 (明赤褐色)
15-2	高杯	— (4. 1) —		外面 ミガキ、赤色塗彩。 内面 杯部ミガキ、赤色塗彩。脚部ナデ	完全実測。頸部完存。 色調 10R 4/6 (赤色)
15-3	鉢	(17. 6) 5. 6 (7. 0)		外面 ミガキ、赤色塗彩。底部ナデ。 内面 ミガキ、赤色塗彩。	回転実測。1/3残存。色調 10R 4/8 (赤色)

挿 図 番 号	器種	法 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
15-4	鉢	— (1. 8) (6. 4)		外面 杯部赤色塗彩、底部ナデ。 内面 赤色塗彩。	回転実測。1/3残存。 色調 10YR 6/4 (にぶい黄橙色)
15-5	甌	15. 0 9. 8 6. 1	焼成前穿孔単口甌。	外面 口縁部横ナデ→雑なミガキ、底部ナデ。 →ミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測。3/4残存。 色調 10YR 6/6 (明黄褐色)
15-6	壺	(16. 2) (8. 1) —	口縁部残存。	外面 口縁部ハケ→横ナデ、口唇部LR縄文。 頸部LR縄文→平行沈線。 内面 ミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 7. 5YR 7/6 (橙色)
15-7	壺	— (6. 6) —	頸部のみ残存。	外面 頸部平行沈線3本→波状文。胴部懸垂文。 (櫛描波状文→沈線区画)、ハケ→ミガキ。 内面 頸部横ナデ、胴部ハケ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR 7/3 (にぶい黄橙色)
欠番					
15-9	壺	— (12. 5) —	底部で輪状に残り、器台として二次利用 した可能性あり。	外面 頸部LR縄文→平行沈線4本、胴上部ハケ →ミガキ。 内面 頸部ナデ、胴部ハケ。	完全実測。頸部完存。 色調 10YR 8/4 (浅黄色)
15-10	壺	— (1. 3) (6. 0)	塗彩の壺底部。	外面 ミガキ、底部に塗彩わずかに付着。 内面 ハケ。	回転実測。1/3残存。 色調 10YR 7/3 (にぶい黄橙色)
15-11	壺	— (1. 6) (7. 1)	無彩壺。	外面 ミガキ。 内面 剥落。	完全実測。底部残存。 色調 10YR 8/4 (浅黄褐色)
15-12	壺	— (3. 0) (7. 4)	底部に線刻あり。3mm大の砂粒付着。	外面 ミガキ。底部線刻。 内面 ナデ。	回転実測。2/3残存。 色調 7. 5YR 8/4 (浅黄褐色)
15-13	壺	— (4. 1) (9. 0)	胴下部が膨れる器形。	外面 ミガキ。 内面 ハケ→底部ナデ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR 7/3 (にぶい黄橙色)
16-14	壺	— (11. 2) 8. 8	胴下半のみ。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 ハケ→底部ナデ。	完全実測。底部完存。 色調 5YR 6/6 (橙色)
16-15	壺	(14. 4) (3. 2) (9. 6)	胴下半のみ。胴部最大径が低い位置に ある。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 剥落著しい。	完全実測。胴下部底部残存。 色調 5YR 4/3 (黄褐色)
16-16	壺	— (18. 5) 9. 0	胴中下半。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 ハケ。剥落著しい。	完全実測。ほぼ完存。 色調 7.5YR 6/6 (橙色)
17-17	甕	(13. 8) (7. 7) —	小型品。受け口状口縁。	外面 口唇部LR縄文、口縁LR縄文、胴部横方 向の櫛描き波状文、縦の櫛で区画志中程に 円形の貼付文。 内面 ミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 5YR 6/8 (橙色)
17-18	甕	(7. 0) 2. 0 6. 0	大型品。受け口状口縁。	外面 口唇部・口縁部LR縄文、頸部櫛描き麻状 文、胴部縦の羽状条痕文、櫛単位は4本、 下部ハケ→ミガキ。 内面 ハケ→疎らかなミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄褐色)
17-19	台付甕	— (5. 3) (9. 2)	脚部のみ。	外面 繁ぎ部はハケ→ナデ、脚部横ナデ。 内面 胴部ミガキ、脚部ハケ横ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR 5/6 (明赤褐色)
17-20	甕	— (1. 6) (6. 8)	底部のみ。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 7. 5YR 7/6 (橙色)
17-21	甕	— (2. 6) (7. 2)	底部のみ。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 7.5YR 3/2 (黒褐色)
17-22	甕	— (2. 6) (7. 2)	底部のみ。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測。底部完存。 色調 7. 5YR 3/2 (黒褐色)



H5号住居址

挿図番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
18-1	高坏?	(12. 8) (2. 8) —	小型品杯部のみ。口縁に三角突起付く。口縁に小穿孔あり。	外面 ミガキ、赤色塗彩。 内面 ミガキ、赤色塗彩。	回転実測。1/4残存。 色調 2.5 YR 5/6 (明赤褐色)
18-2	鉢	(23. 0) (7. 6) —	口縁端部内湾、外面に突起付く。2個の小孔あり。	外面 ミガキ、赤色塗彩。 内面 ミガキ、赤色塗彩。	回転実測。1/2残存。 色調 1.0 R 4/6 (赤色)
18-3	高坏?	(17. 0) (9. 0) —	背部の器高が深い。杯部のみ。	外面 ミガキ、赤色塗彩。 内面 ミガキ、赤色塗彩。	回転実測。1/4残存。 色調 1.0 R 4/8 (赤色)
18-4	壺	(4. 8) (4. 2) —	円筒状の口縁。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 横ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 5 YR 6/6 (橙色)
18-5	壺	— (16. 7) 4. 6	小型の壺。	外面 頸部櫛描き糜状文(等間隔止め)、1本の波状文。胴部ミガキ。 内面 ハケ・ナデ。	完全実測。 色調 10 YR 8/3 (浅黄橙色)
18-6	壺	(10. 3) 20. 7 (6. 0)	小型の壺。外反する口縁。	外面 口縁部横ナデ。頸部LR縄文→平行沈線2本、胴上部ミガキ、下部底部ヘラナデ。 底部 回転糸切り。	完全実測。ほぼ完形。 色調 1.0 YR 8/4 (浅黄橙色)
18-7	壺	11. 1 (11. 1) —	中型品。口頸部残存。口縁部全体に外反。	外面 ハケ→口縁部横ナデ、口唇部LR縄文、頸部下部分LR縄文→頸部平行沈線3本。胴部ハケ→弱いミガキ 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。口～頸部残存。 色調 1.0 YR 8/3 (浅黄橙色)
18-8	壺	14. 4 0. 9 (9. 4)	大型品。胴上部が細長い。	外面 ハケ→口縁部横ナデ、口唇部LR縄文、頸部LR縄文→平行沈線2本・波状文1本→弱いミガキ。 内面 口～頸部ハケ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。口～頸部残存。 色調 1.0 YR 6/3 (にぶい橙色)
18-9	壺	(15. 0) (2. 2) —	口縁のみ。	外面 横ナデ、口唇部LR縄文、口縁部ミガキ。 内面 横ナデ、ミガキ。	回転実測。1/8残存。 色調 7.5 YR 7/6 (橙色)
19-10	壺	— (20. 8) —	口縁端部・胴下部欠損。口縁部と胴部は図面上の接合。	外面 口縁部ミガキ。頸部沈線1本。胴部ハケ→ミガキ。 内面 口縁部ミガキ。胴部ヘラナデ。	回転実測。口縁・胴上部残存。 色調 7.5 YR 6/4 (にぶい橙色)
19-11	壺	— (8. 5) (10. 7)	20-10の胴下部か。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測。胴下部・底部残存。 色調 7.5 YR 6/4 (にぶい橙色)
19-12	甗	(18. 4) (22. 2) 7. 4	胴中位で図面接合。	外面 頸部櫛描糜状文→口縁部胴上半櫛描波状文(9本単位)、胴下部・底部ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。底部完存外1/4残存。 色調 10 YR 6/4 (にぶい黄橙色)
19-13	台付甗	— (11. 1) 6. 6	小型の台付甗。	外面 頸部櫛描糜状文、胴部波状文、脚部ナデ。 内面 胴部ミガキ、脚部ナデ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 7.5 YR 7/8 (橙色)
19-14	甗	— (2. 0) (3. 6)	小型甗底部。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 7.5 YR 7/4 (にぶい橙色)
19-15	甗	(17. 5) 20. 4 7. 0	中型品。受け口状口縁。	外面 口唇部LR縄文。口～頸部櫛描波状文、胴上部横方向の羽状条痕文胴下部ハケミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 2.5 YR 3/4 (暗赤褐色)
19-16	壺	— (27. 8) 11. 4	口頸部欠損。大型品。薄い塗彩。	外面 ハケ→胴上半ミガキ赤色塗彩、下部・底部ミガキ。 内面 胴中位ハケ→上半ナデ、底部ミガキ。	回転実測。底部完存外1/4残存。 色調 7.5 YR 4/6 (赤色)
19-17	甗	— (25. 4) (11. 2)	大型品。	外面 ハケ→ミガキ。 内面 ハケ→ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 7.5 YR 7/4 (にぶい橙色)

H8号住居址

20-1	壺	— (25. 0) —	中型品。	外面 頸部LR縄文→平行沈線、胴上半ミガキ、剥落著しい。 内面 口縁部ミガキ、内面ナデ剥落著しい。。	完全実測。口～胴上半残存。 色調 1.0 YR 6/4 (にぶい黄橙色)
------	---	-------------------	------	---	--

M1号溝状遺構

挿 図 番 号	器 種	法 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
42-1	杯 (古墳)	(14. 4) (4. 0) (11. 0)	須恵器蓋模倣杯。	外面 口縁部横ナデ、底部手持ちヘラケズリ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄橙色)
42-4	高坏 (古墳)	(13. 6) 11. 0 (9. 0)	須恵器模倣高坏。	外面 杯部口縁部横ナデ、下部ヘラケズリ→ナ デ、脚部縦ヘラケズリ→ナデ、裾部横ナデ 内面 杯部ミガキ黒色処理、脚部ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 7.5YR 8/4 (浅黄橙色)
42-2	杯 (古墳)	(12. 0) (5. 0) -	内面に上方に稜をもって短く外形。	外面 口縁部横ナデ。底暗文様のミガキ。 内面 口縁部横ナデ。体部暗文様のミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 5YR 6/8 (橙色)
42-3	杯 (古墳)	(11. 2) (6. 3) -	半球形で口縁部が内湾する。	外面 口縁部横ナデ。底部ナデ。 内面 口縁部横ナデ、ナデ。	回転実測。1/3残存。 色調 2.5YR 4/6 (赤褐色)
42-5	高坏 (古墳)	(15. 0) (4. 4) -	高坏杯部。口縁直線的に外形。	外面 口縁部横ナデ、暗文様のミガキ。 内面 口縁部横ナデ暗文様のミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 5YR 3/6 (暗赤褐色)
42-6	高坏 (古墳)	- 8. 4 (13. 0)	高坏脚。円錐形裾部外反。	外面 裾部横ナデ。体部ナデ→暗文様のミガキ。 内面 裾部横ナデ。体部ナデ。輪積痕顕著。	完全実測。2/3残存。 色調 5YR 3/6 (暗赤褐色)
42-7	小型丸底 (古墳)	- (8. 0) -	体部張る。	外面 ヘラケズリ→ナデ。 内面 ハケ。	回転実測。1/3残存。 色調 2.5YR 4/6 (赤褐色)
42-8	壺 (古墳)	(17. 6) (6. 5) -	有段口縁の壺。	外面 横ナデ。 内面 横ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR 7/4 (にぶい黄橙色)
42-9	甕 (古墳)	(8. 2) 1. 9 (6. 6)	ハケ甕。	外面 ハケ→口縁部横ナデ。 内面 ハケ→口縁部横ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 5YR 6/4 (にぶい橙色)
42-10	甕 (古墳)	(22. 0) (7. 5) -	くの字形態口縁甕、ナデ調整壺。	外面 口縁部横ナデ、胴部ナデ。 内面 口縁部横ナデ、胴部ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR 6/4 (にぶい黄橙色)
42-11	甕 (古墳)	- (5. 2) (6. 4)	10の底部か。	外面 ハケナデ→一部ミガキ？。 内面 ハケ→ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR 6/4 (にぶい黄橙色)
42-12	甕 (古墳)	- (4. 0) (6. 5)	底部。	外面 ナデ？。 内面 ナデ。回転実測。1/2残存。 色調 7.5Y 7/4 (にぶい橙色)	回転実測。1/2残存。 色調 7.5YR 4/3 (褐色)
42-13	甕 (古墳)	- (3. 8) (11. 6)	底部。	外面 ナデ→ミガキ。 内面 ナデ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR 7/3 (にぶい黄橙色)
42-14	甕 (古墳)	- (3. 8) (11. 6)	底部。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 7.5YR 6/4 (橙色)
42-15	甕 (古墳)	- (2. 3) (5. 8)	底部に1孔あく。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR 4/2 (灰黄褐色)
42-16	高坏 (弥生)	(22. 8) (3. 3) (5. 8)	口縁に4カ所突起付く。	外面 ミガキ・赤色塗彩。 内面 ミガキ・赤色塗彩。	回転実測。1/2残存。 色調 7.5YR 4/6 (赤色)
42-17	甕 (弥生)	21. 6) (15. 0) -		外面 頸部縞描き廉状文、口縁部・胴上部波状文 (10本)。 内面 ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 10YR 4/2 (灰黄褐色)
42-18	壺 (弥生)	- (7. 0) -	頸部のみ残存。	外面 頸部LR縄文、平行沈線3本。口縁・胴部 ミガキ。 内面 胴部ハケ。	

M7号溝状遺構

挿図番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
43-1	壺 (弥生)	34.6 (15.0) —	受け口の口縁。	外面 頸部櫛描き麻状文、口縁部赤色塗彩ミガキ。 内面 赤色塗彩ミガキ。	回転実測。1/2残存。 色調 7.5YR3/6 (灰黄褐色)
43-2	壺 (弥生)	(12.4) (3.2) —	外反する口縁。	外面 口縁端部LR縄文、口縁部横ナデ→ミガキ。 内面 横ナデ→ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR7/3 (にぶい黄橙色)
43-3	壺 (弥生)	(14.8) (3.8) —	外反する口縁。	外面 口縁端部LR縄文、口縁部横ナデ→ミガキ。 内面 横ナデ→ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR7/3 (にぶい黄橙色)

M2号溝状遺構

挿図番号	器種	法量	器の特徴	成形・調整	備考
44-1	高杯 (弥生)	(16.0) (7.8) —	杯口縁部外反。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩、脚部ナデ。	回転実測。1/3残存。 色調 10R4/6 (赤色)
44-2	杯 (弥生)	15.8 6.3 4.4	片口付く。口縁部2小孔あく。	外面 ミガキ 赤色塗彩、底部ミガキ。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	完全実測。ほぼ完存。 色調 10R4/6 (赤色)
44-3	鉢 (弥生)	(21.0) 7.2	底部欠損、甑か鉢か。	外面 ミガキ。 内面 ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR7/4 (にぶい黄褐色)
44-4	鉢 (弥生)	(20.0) (11.0) —	底部欠損。	外面 ミガキ、摩耗している。 内面 ミガキ。	回転実測。1/6残存。 色調 10YR7/4 (にぶい黄褐色)
44-5	台付甕 (弥生)	— (2.5) (5.2)	脚部のみ。裾折り返す。	外面 ナデ。 内面 ナデ。	回転実測。1/2残存。 色調 7.5YR6/4 (にぶい橙色)
44-6	甕 (弥生)	20.1 25.1 6.7	波状文乱れる。焼き締まりがわるい。 器形ゆがむ。	外面 頸部麻状文(10本)口縁から胴中位まで波状文(5本)上から下へ、胴下部・底部ミガキ。 内面 ミガキ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 10R5/4 (にぶい黄褐色)
44-7	台付甕 (弥生)	(5.1) (9.0)	脚部のみ。2孔あり。	外面 ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 2.5YR6/6 (橙色)
44-8	壺 (弥生)	12.8 (9.2) —	口頸部のみ。	外面 ハケ→ナデ→口縁部横ナデ→口唇部・頸部LR縄文→平行沈線(3本)。 内面 口縁部横ナデ、ナデ。	完全実測。口頸部残存。 色調 7.5YR7/6 (橙色)
44-9	壺 (弥生)	(21.0) 9.0	胴から底部部のみ。	外面 ミガキ、剥落する。 内面 ナデ、ハケ目残る。	完全実測。口頸部残存。 色調 10YR8/4 (黄褐色)

M5号溝状遺構(弥生時代)

47-1	杯	(15.0) 5.8 5.5	口縁部に焼成前2小孔あり。無彩。	外面 口縁部横ナデ→わずかにミガキ 底部摩耗。 内面 ハケ→わずかにミガキ。	回転実測。杯部1/4残存。 色調 7.5YR6/4 (にぶい橙色)
47-2	杯	(17.2) 7.5 4.7	口縁端部外面カ所に穴付き突起残る。 淡い赤色塗彩。	外面 ミガキ 赤色塗彩。底部ミガキ。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	回転実測。1/3残存。 色調 7.5R3/4 (暗赤色)
47-3	杯	(9.0) (4.1) —	口縁端部面取り。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	回転実測。1/6残存。 色調 7.5R3/4 (暗赤色)
47-4	杯	— 1.0 5.6	底部のみ。	外面 ミガキ 赤色塗彩。底部ハケ→ミガキ。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	完全実測。底部完存。 色調 2.5YR4/6 (赤褐色)
47-5	高杯	— (6.0) (10.0)	脚部。淡い赤色塗彩わずかに残る。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩、脚部ナデ。	完全実測。1/2残存。 色調 7.5YR7/6 (橙色)
47-6	蓋杯	(3.1) (3.3) —	つまみ部残る。	外面 ナデ。 内面 ハケ→粗いミガキ。	完全実測。つまみ完存。 色調 10YR3/4 (暗赤褐色)
47-7	高杯	5.7 (3.6) —	高杯の杯下部を削り口縁としている。2次利用。 淡い赤色塗彩。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 杯部ミガキ 赤色塗彩、脚部ナデ。	完全実測。頸部完存。 色調 7.5YR3/4 (暗赤褐色)
47-8	深鉢	(9.6) (4.8) —	頸部に焼成前2小孔あり。 淡い赤色塗彩。	外面 ミガキ 赤色塗彩。 内面 ミガキ 赤色塗彩。	回転実測。1/3残存。 色調 2.5YR5/4 (にぶい赤褐色)
47-9	深鉢	(15.5) 14.7 6.6	口縁部受け口、肩に段あり。 赤色塗彩剥落部多い。	外面 ミガキ 赤色塗彩。底部ミガキ。 内面 口～胴中位ミガキ赤色塗彩、下部ミガキ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 10R4/8 (赤色)

挿図 番号	器種	法量	器形の特徴	成形・調整	備考
47-10	壺	(13. 2) (17. 7) —	頸部細く、緩やかな外稜を持つ受け口縁。淡い赤色塗彩。	外面 口縁部横ナデ→口唇部・頸部・胴中位上部帯状にLR縄文→頸部平行沈線3本・波状文2本、口縁部・胴上部縄文帯以外赤色塗彩(ハケ塗彩?)まれにミガキ。 内面 口縁部赤色塗彩→胴部ナデ。	完全実測。口~胴上半残存。 色調 10R4/8 (赤色)
47-11	壺	— (7. 0) (5. 0)	小型品。胴下部残存。淡い赤色塗彩。	外面 赤色塗彩ミガキ、胴下部ミガキ、底部ナデ。 内面 ハケ、ナデ。	回転実測。1/3残存。 色調 10R4/8 (赤色)
47-12	壺 (弥生)	(2. 5) (7. 0) 4. 1	極小型の無頸壺。無彩。	外面 ナデ→ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測。口縁一部欠損。 色調 10YR8/4 (浅黄橙色)
47-13	壺	(2. 5) (7. 0) 4. 1	極小型の無頸壺。無彩。	外面 ナデ→ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測。完形。 色調 10YR6/4 (にぶい黄橙色)
47-14	壺	8. 2 (4. 7) —	小型品。外反する口縁部残存。	外面 口縁部横ナデ→わずかにミガキ。赤色塗彩少し残る。 内面 横ナデ。→ミガキ。赤色塗彩少し残る。	完全実測。口縁部残存。 色調 7. 5YR7/4 (にぶい橙色)
47-15	壺	7. 6 13. 8 5. 0	小型品。短く外反する口縁。	外面 口縁部横ナデ→頸部から胴部ハケ→ミガキ、底部へラ削り後わずかにミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 7. 5YR7/4 (にぶい橙色)
47-16	壺	(10. 5) (10. 2) —	中型の短く外反する口縁、細頸。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ、頸部LR縄文→平行沈線2本 胴上部ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 10YR6/3 (にぶい黄橙色)
47-17	壺	(11. 9) (6. 8) —	中型の外反する口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ、頸部LR縄文→平行沈線3本、赤色顔料付着。 内面 口縁部ハケ→横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	回転実測。1/2残存。 色調 7. 5YR7/4 (にぶい橙色)
47-18	壺	3. 3 14. 6 7. 1	口縁部欠損後削り2次利用。外面全体塗彩、胴中位に顔面状突起1個付き、反対は欠損して不明。	外面 ミガキ、淡い赤色塗彩。底部へラ削り。 内面 胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 7. 5R4/6 (赤色)
47-19	壺	(14. 8) (4. 2) —	中型の外反する口縁。	外面 ハケ→横ナデ。 内面 横ナデ。	回転実測。口縁1/2残存。 色調 7. 5YR6/4 (にぶい橙色)
47-20	壺	(15. 6) (5. 3) —	中型の短く外反する口縁。太頸。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ、頸部横沈線。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR7/3 (にぶい橙色)
47-21	壺	(19. 8) (4. 9) —	L字状受け口の口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁上部LR縄文→平行波状文2本、円形貼付文。 内面 口縁部ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR6/3 (にぶい黄橙色)
47-22	壺	(11. 4) (13. 2) —	中型の短く外反する口縁。口唇部に突起4カ所に付く(1欠損)。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ、突起貼付、頸部沈線1本、ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 10YR7/4 (にぶい黄橙色)
47-23	壺	(14. 8) (12. 7) —	大型の短く外反する口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁部横ナデ、わずかにミガキ、頸部LR縄文→平行沈線2本 胴上部LR縄文→わずかにミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 10YR6/6 (明黄褐色)
47-24	壺	(15. 3) (11. 9) —	大型の短く外反する口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ミガキ、頸部LR縄文 胴上部ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR7/3 (にぶい黄橙色)
47-25	壺	16. 2 (11. 5) —	L字状受け口の口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ→2本波状文沈線、頸部→平行沈線2本→LR縄文、口縁下部・胴上部ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 7. 5YR7/6 (橙色)
47-26	壺	(14. 7) (11. 6) —	中型の外反する口縁。	外面 口縁部ハケ→横ナデ、頸部LR縄文→平行沈線4本→波状文2本2回 胴上部ミガキ。 内面 口縁部→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。欠損多い。 色調 10YR7/2 (にぶい黄橙色)
47-27	壺	13. 2 17. 5 (7. 0)	中型の大きく外反する口縁。口唇部に突起付く。赤色塗彩(2. 5YR3/6暗赤褐色)の痕残る。細頸。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ→ミガキ、頸部LR縄文→平行沈線間に連続山形文、胴中位縄文→平行沈線5本、波状沈線、弧状沈線3本、山形・波状沈線各1本→胴上半・下部ミガキ赤色塗彩。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。上半残存。 色調 10YR6/3 (にぶい黄橙色)
47-28	壺	— (24. 1) —	口縁・底部欠損。	外面 頸部LR縄文→平行沈線2本 胴上部ハケ→ミガキ。 内面 胴部ナデ。	完全実測。ほぼ完形。 色調 7. 5YR7/4
48-29	壺	— (4. 1) (8. 5)	28の底部か、胴から底部残存。	外面 胴部ミガキ、底部摩耗し不明。 内面 ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR1. 7/1 (黒色)

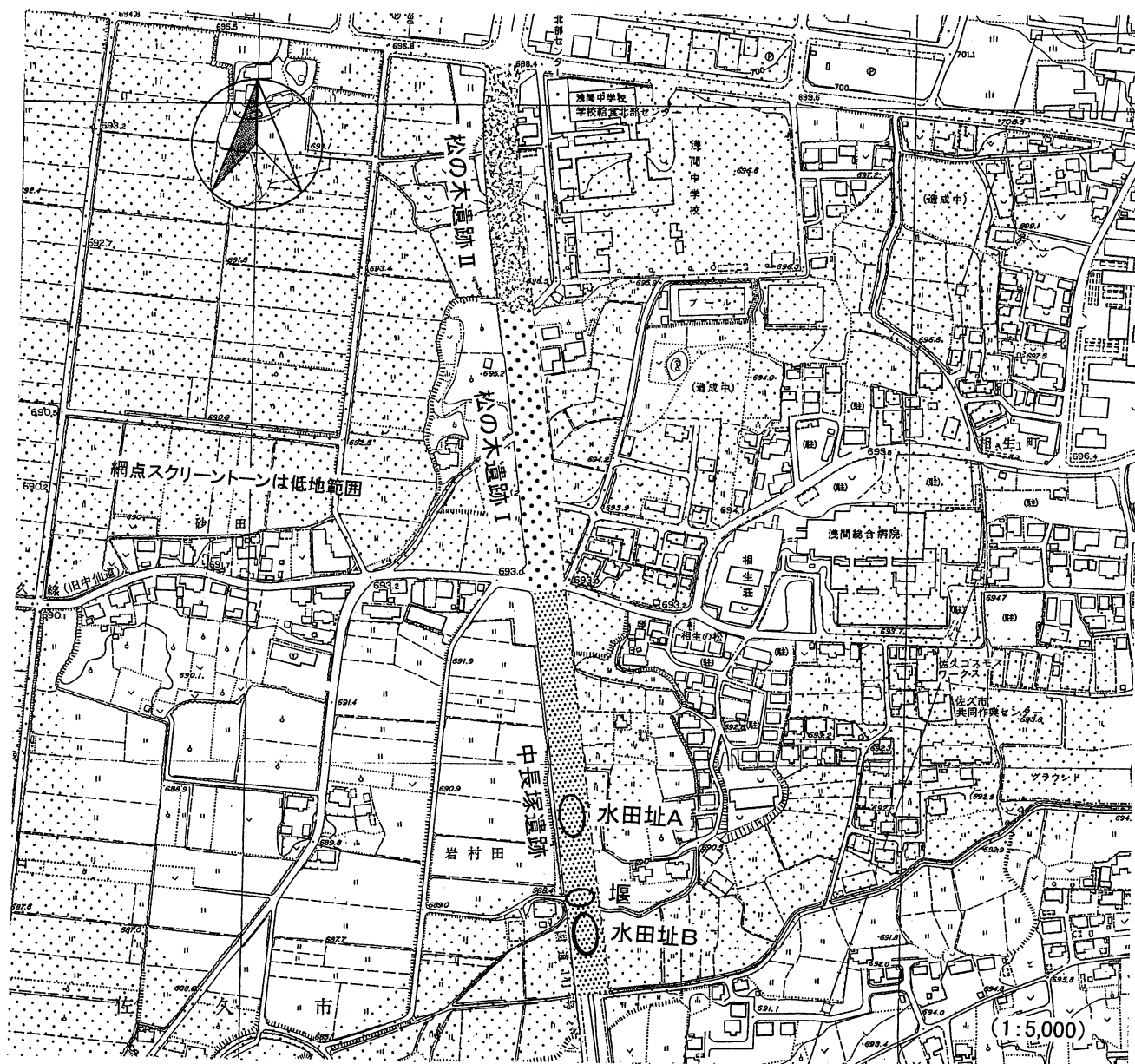
挿 番 号	器 種	法 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
48-30	壺	(15. 8) (8. 7) —	中型の外反する口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ、頸部LR縄文→平行沈線4本間に波状文。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。1/2残存。 色調 10YR8/2 (灰白色)
48-31	壺	— (7. 0) —	頸部のみ。赤色塗彩(7. 5R4/6赤)	外面 頸部LR縄文→波状文1本、懸垂文(楯5本縦線を押し引き文で区画)→沈線押し引き文。 内面 ナデ。	破片実測。破片。 色調 10YR6/4 (にぶい黄橙色)
48-32	壺	— (12. 7) —	口縁欠損部転用して二次利用か。	外面 口縁部ハケ→ミガキ、頸部LR縄文→平行沈線4本、波状文1本 胴上部ハケ→ミガキ。 内面 口縁部ハケ→ミガキ、胴部ナデ。わずかに赤色塗彩わずかに残る。	完全実測。1/2残存。 色調 10YR8/3 (浅黄橙色)
48-33	壺	— (27. 5) (10. 5)	口縁欠損。	外面 頸部LR縄文→沈線1本 胴部ミガキ。底部ナデ、粗押圧痕2粒あり 内面 剥落著しい。	完全実測。ほぼ残る。 色調 10YR6/3 (にぶい黄橙色)
48-34	壺	— (12. 2) —	頸部のみ。	外面 頸部LR縄文→平行沈線4本、波状文沈線1本 胴上部ミガキ。 内面 ナデ。	完全実測。ほぼ残る。 色調 10YR7/4 (にぶい黄橙色)
48-35	壺?	(12. 8) (5. 8) —	無文。	外面 口縁部ミガキ。 内面 口縁部ミガキ。	部分実測。破片。 色調 10YR7/4 (にぶい黄橙色)
48-36	壺	— (10. 3) —	細頸壺。	外面 口縁部ハケ、頸部LR縄文→平行沈線6本、波状文、平行沈線2本 胴上部ミガキ。 内面 口縁部ミガキ、胴部剥落著しい。	完全実測。頸部完存。 色調 10YR8/1 (灰白色)
48-37	壺	(13. 2) (25. 5) (7. 5)	中型の外反する口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ→ミガキ 頸部LR縄文→沈線 波状沈線 胴上部ミガキ。わずかに赤色顔料付着。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。底部欠損。 色調 10YR7/3 (にぶい黄橙色)
48-38	壺	(12. 3) 27. 9 (9. 0)	中型の直線的に外傾する口縁。	外面 口唇部剥落 口縁部ミガキ、頸部LR縄文 胴部ミガキ。 内面 剥落著しい。	完全実測。ほぼ完形。 色調 10YR8/2 (灰白色)
48-39	壺	— (20. 0) —	大型の壺、胴部のみ残存。	外面 頸部LR縄文→平行沈線5本、波状沈線2本 胴上部ミガキ。 内面 剥落著しい。	完全実測。胴部のみ完存。 色調 10YR6/4 (にぶい黄橙色)
48-40	壺	— (20. 2) —	大型の壺。	外面 頸部LR縄文→平行沈線3本 胴上部ハケ→ミガキ。 内面 ハケ。	完全実測。1/2残存。 色調 7. 5YR6/4 (にぶい橙色)
48-41	壺	— (32. 5) —	大型品。頸~胴部残存。	外面 口縁部ハケ→ミガキ、頸部LR縄文→平行沈線3本、連続山形文、胴上部ハケ→懸垂文(楯描文→沈線区画)他ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ナデ。	完全実測。口縁・胴下部残存。 色調 7. 5YR7/6 (橙色)
49-42	壺	(16. 9) (32. 2) —	大型の短く外反する口縁。	外面 口唇部LR縄文 口縁部ハケ→横ナデ、頸部LR縄文→平行沈線4本 胴部ハケ→ミガキ。淡い赤色塗彩わずかに残る。 内面 口縁部横ナデ。他剥落著しい。	完全実測。口縁から胴中位残存。 色調 10YR8/2 (灰白色)
49-43	壺	— (2. 0) (6. 9)	底部のみ。	外面 胴部ミガキ赤色塗彩、底部ナデ。 内面 ハケ、ナデ。	回転実測。1/4残存。 色調 10R4/8 (赤色)
49-44	壺	— (25. 9) (8. 0)	胴から底部残存。胴張りが算盤玉状に張る。	外面 胴部ハケ→ミガキ、底部ナデ。 内面 ハケ、ナデ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 10YR7/4 (にぶい黄橙色)
49-45	壺	— (7. 4) (9. 0)		外面 胴下部ミガキ。底部? 内面 ハケ、剥落著しい。	回転実測。底部完存。 色調 10YR1. 7/1 (黒色)
48-46	壺	— (12. 6) 9. 4	胴から底部。	外面 胴部ハケ→ミガキ、底部削り→ミガキ。 内面 ハケ。	回転実測。1/4残存。 色調 10YR8/3 (浅黄橙色)
49-47	壺	— (16. 2) 9. 4	胴から底部。	外面 胴部ミガキ、底部ナデ。 内面 ハケ。	完全実測。1/4残存。 色調 7. 5YR7/6 (橙色)
49-48	壺	— (15. 8) (11. 8)	胴から底部。	外面 胴部縦波状沈線→ミガキ、底部摩耗し不明。 内面 ハケ。	回転実測。1/4残存。 色調 7. 5YR7/6 (橙色)
49-49	甕	14. 5 (8. 4) —	台付甕か、受け口状口縁。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ、LR縄文→連続山形文(反時計回り)、胴上部LR縄文→コの字重ね文→頸部楯描き簾状文→円形貼付文 内面 ミガキ。	完全実測。口縁から胴上半完存。 色調 7. 5YR6/3 (にぶい褐色)
49-50	台付甕	14. 8 18. 8 8. 7	受け口状口縁	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ、LR縄文→波状文2本組、胴上部コの字重ね文、胴下部ハケ→ミガキ、脚ナデ。 内面 ミガキ、脚部ナデ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 5YR7/3 (にぶい橙色)

挿 図 番 号	器 種	法 量	器 形 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	備 考
49-51	甕	(14. 4)	胴部のみ。	外面 胴上部LR縄文→コの字重ね文、胴下部ハケ→ミガキ、 内面 ミガキ、	破片実測。胴部1/3残存。 色調 7. 5 YR 6/4 (にぶい橙色)
49-52	台付甕	10. 4 (9. 2)	受け口状口縁。脚欠損。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ、胴上~中 位部櫛描斜走条痕文(7本単位)、胴下 部ハケ→ナデ→ミガキ 内面 口縁部横ナデ→ミガキ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 7. 5 YR 6/3 (浅黄橙色)
49-53	台付甕	14. 8 (13. 9) 6. 5	受け口状口縁。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ、胴上~中 位部櫛描斜走条痕文(3本単位)、胴下 部ハケ→ナデ→ミガキ、脚部ミガキ。 内面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ミガキ、脚部 ナデ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 10 YR 6/4 (にぶい黄橙色)
49-54	甕	(16. 9) (3. 9)	台付甕か。受け口状口縁のみ残る。	外面 口唇部LR縄文、口縁部LR縄文→櫛描き 波状文(2本単位)、頸部櫛描簾状文 内面 口縁部ミガキ。	回転実測。1/3残存。 色調 7. 5 YR 7/4 (にぶい橙色)
49-55	甕	(14. 8) (5. 7)	受け口状口縁。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ→櫛描波状 文(2本単位)、胴上部櫛描波状文(6本 単位)。 内面 ミガキ。	部分実測。1/4残存。 色調 7. 5 YR 7/4 (にぶい橙色)
49-56	甕	(14. 6) (8. 5)	無文の甕。受け口状口縁。	外面 口縁部横ナデ、胴部ハケ→雑なミガキ 内面 ミガキ。	部分実測。1/4残存。 色調 7. 5 YR 4/3 (褐色)
49-57	甕	(16. 9) (3. 9)	台付甕か。口縁部欠損。	外面 頸部櫛描簾状文(8本単位)、胴部コの字 重ね文→円形貼付文 内面 ミガキ。	部分実測。1/2残存。 色調 10 YR 8/4 (浅黄橙色)
49-58	台付甕	4. 8 4. 1 5. 1	台付甕脚転用品か。	外面 ミガキ 内面 底部ミガキ、脚ナデ	完全実測。ほぼ完形。 色調 2. 5 YR 5/6 (明赤褐色)
49-59	台付甕	4. 2 3. 5 (3. 2)	台付甕転用品。上端部擦って疑似口縁を 作り出している。	外面 ミガキ。 内面 底部ミガキ、脚部ナデ、わずかに磨く。	完全実測。1/2残存。 色調 7. 5 YR 7/4 (にぶい橙色)
49-60	台付甕	(6. 0) (3. 6)	台付甕転用品。上端部擦って疑似口縁。	外面 ミガキ。 内面 底部ミガキ、脚ナデ。	回転実測。ほぼ完存。 色調 7. 5 YR 8/3 (浅黄橙色)
49-61	台付甕	(4. 0) (6. 8)	脚部のみ。	外面 ナデ。 内面 底部ミガキ、脚ナデ。	完全実測。完存。 色調 5 YR 6/6 (橙色)
49-62	甕	(14. 0) (22. 5)	口縁部無文の甕。受け口状口縁。器肉が 薄い。	外面 口縁部横ナデ→ミガキ、胴部ハケ→ナデ、 胴上部斜走条痕文(5本単位)、頸部簾状 文→胴下部ミガキ。 内面 ミガキ。	部分実測。1/8残存。 色調 7. 5 YR 6/4 (にぶい橙色)
49-63	甕	(16. 4) (5. 4)	受け口状口縁。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ→ミガキ、 頸部櫛描簾状文(6本単位) 胴上部 櫛描横線文 内面 ミガキ。	部分実測。1/4残存。 色調 7. 5 YR 3/2 (黒褐色)
50-64	甕	21. 8 (14. 7)	短く折れる口縁。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ、胴上~中 位部櫛描斜走条痕文(4本単位)→頸部 簾状文(8本) 縄文→コの字重ね文→頸部 櫛描簾状文→ 円形貼付文 内面 口縁部ミガキ。胴部ハケ→ナデ→雑なミガ キ	回転実測。口縁から胴上半1/2 残存。 色調 10 YR 7/4 (にぶい黄橙色)
50-65	甕	(12. 2) 9. 8	65の下部か。	外面 胴上部櫛描斜走条痕文、胴下部ハケ→ミガ キ。 内面 ミガキ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 10 YR 6/4 (にぶい橙色)
50-66	甕	23. 8 (25. 0)	短く外反する口縁。	外面 口縁部横ナデ、頸部簾状文、胴部ハケ→ナ デ、上部櫛描斜走条痕文(5本単位)、ミ ガキ。 内面 ミガキ。	完全実測。底部欠損。 色調 10 YR 7/4 (にぶい黄橙色)
50-67	甕	19. 9 24. 1 7. 5	受け口状口縁。	外面 口唇部LR縄文、口縁部横ナデ→LR縄文 胴部櫛描斜走条痕文(5本単位) 下部ミガ キ 内面 底部ミガキ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 10 YR 8/3 (浅黄橙色)
50-68	甕	(23. 0) 8. 5	口縁部欠損。	外面 口縁部横ナデ、胴部ハケ→ナデ、頸部櫛描 横線文、胴上部波状文(5本単位)、下部 ミガキ、底部ナデ 内面 ミガキ。	完全実測。ほぼ完存。 色調 7. 5 YR 5/4 (にぶい褐色)

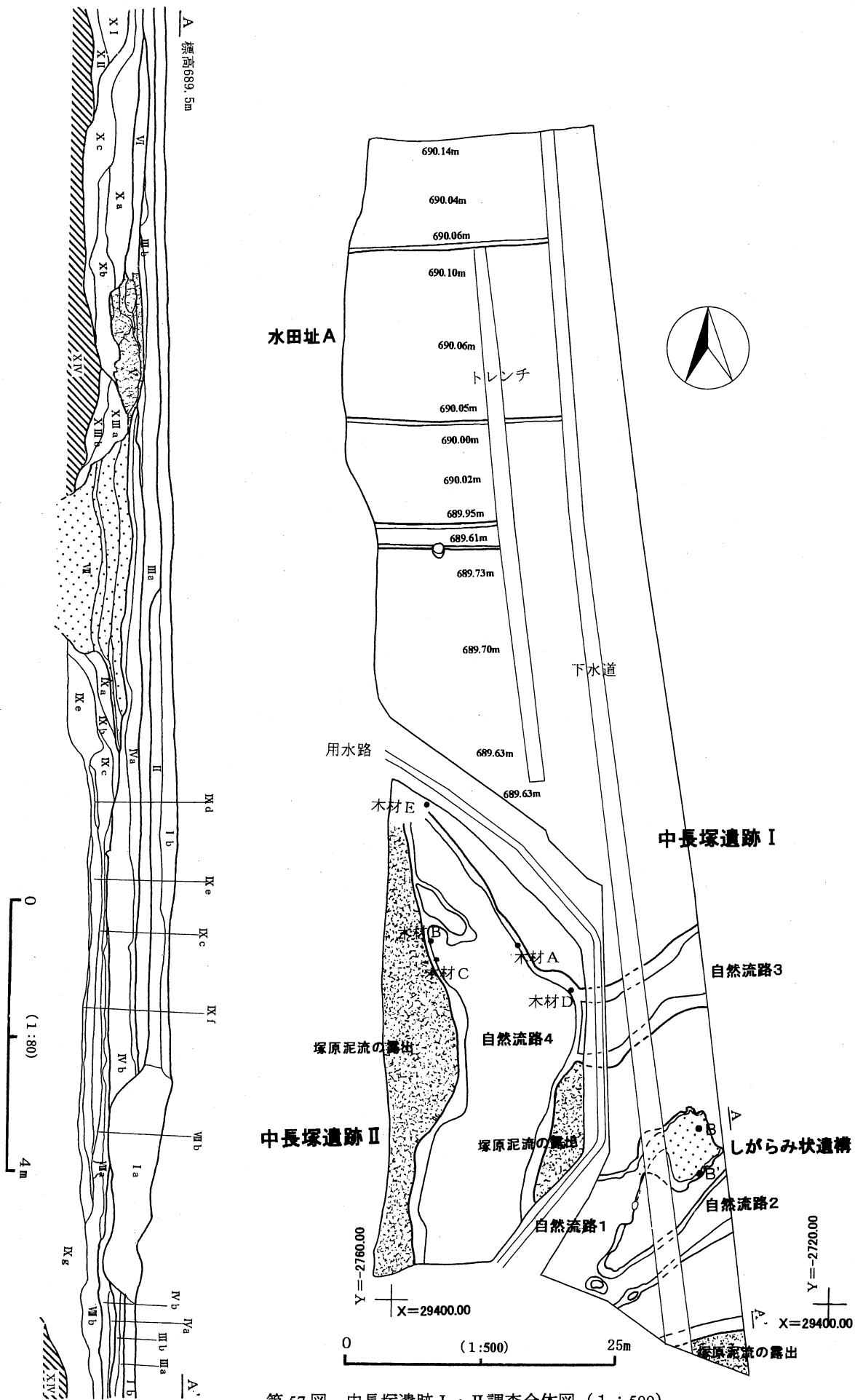
## 第Ⅱ章 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ

### 第1節 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱの遺構

中長塚遺跡は、岩村田市街地の西方、約0.8kmの低地に所在し、付近は広く水田地帯として利用されている地域である。周辺には弥生時代から平安時代の多くの遺跡が所在する。特に北西に位置する濁り遺跡からは調査区一面に大規模な古代の水田址が発見され、周辺の古代集落の生産活動を考える上で貴重な発見であった。また、本遺跡では平成5年下水道工事に伴う立ち合い調査で、古い堰跡らしき木組みが発見されている。今回、佐久建設事務所が国補道路改良工事（国道141号佐久市長土呂バイパス）を行うことになり、佐久建設事務所と長野県文化課および佐久市教育委員会の協議の結果、記録保存調査を実施することになった。調査は佐久建設事務所より委託を受けた佐久市教育委員会が中長塚遺跡Ⅰ（平成8年度）・中長塚遺跡Ⅱ（平成10年度）の現場調査を実施した。



第56図 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ位置図（1：5,000）



第 57 図 中長塚遺跡 I・II 調査全体図 (1:500)



中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱの調査では、水田址Aと水田址B及びしがらみ状遺構、自然流路が検出された。

水田址Aは調査区のほぼ中央、現水田下50cmから検出された。第Ⅷb層上面において畦畔状の高まり、段差が直線的に認められた。現水田から第Ⅷa層の間に少なくとも2面の水田面が考えられそうである。水田址Aの確認面とその上部の第Ⅷa層より第5表の13世紀から15世紀の陶磁器が出土し、近世陶磁器とのほとんどはⅡ層の下部からの出土である。

水田址Bは調査区の南側部から検出され、西流する前川のかつての流路であったと思われる。砂・シルトの堆積が

### しがらみ状遺構検出地区の東面層序

- I 層 現在の水田耕作土と畦畔及び水路
- I a層 黒色土 (10YR2/1)
- I b層 黒褐色土 (10YR3/2)
- II 層 黒褐色土 (10YR3/1) 粘質強。
- III 層 2面目の水田
- III a層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強、白色の軽石多量に含む。
- III b層 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質強、酸化鉄の集積。
- IV 層 3枚目の水田
- IV a層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強、白色の軽石多量に含む。
- IV b層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質強縦に酸化鉄の集積。
- V 層 自然流路1
- 粘質土・シルト・細砂・粗砂がみられる。
- VI 層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強、白色の軽石、細砂多く含む。
- VII 層 自然流路2
- 下層より褐灰色細砂、黒褐色シルト含む粘質土、黒褐色シルト、灰黄褐色の細砂、灰黄褐色の細砂と粘質土が堆積している。
- VIII 層 4枚目の水田?
- VIII a層 灰黄褐色土 (10YR4/1) 細砂。
- VIII b層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質強、細砂多く含む。
- IX 層 自然流路2より古い自然流路
- IX a層 黒褐色土 (10YR3/2) 細砂。
- IX b層 黒褐色土 (10YR3/2) 細砂。粘質土。
- IX c層 黒褐色土 (10YR3/2) 粗い砂層。小礫多量。
- IX d層 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫層。
- IX e層 にぶい黄褐色土 (10YR3/2) 細砂。粘質土。
- IX f層 暗褐色土 (10YR3/3) シルト粘質土。
- IX g層 黒褐色土 (10YR2/2) 小礫層。
- X 層 自然流路1
- X a層 黒色土 (10YR1.7/1) 粘質強。
- X b層 黒褐色土 (10YR3/2) 細砂に粘質土のブロックを含む。
- X c層 黒褐色土 (10YR3/2) 強粘土。
- X I 層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、少量の細砂含む。
- X II 層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土、少量の細砂含む。
- X III 層 しがらみ状遺構の構築土。
- X III a層 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質強、粗砂と小礫 (0.5~1cm)
- X III b層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 酸化鉄集積、礫 (5~10cm) 多い。50cm前後の礫も少量みられる。
- XIV 層 浸食された浅間第1軽石流の堆積物?
- 灰白色 (10YR8/2)・暗緑灰色 (10GY3/1)・黒褐色 (10YR3/2) をしている。

1mあまりみられた。I a層・I b層は現在の水田である。II a層以下のプラント・オパール分析でII a・II b・III・IV層から5,000個/g以上が検出された。畦畔状の直線的な高まりがみられたのは、IV層上面である。IV層は水田址AのIII a層にあたり、17世紀前半から19世紀の近世陶磁器が出土している。

しがらみ状遺構は、自然流路1の流れに対して斜めに構築されている。自然流路は4本あるが、4は現在の幹線水路の旧路であり、他の3本は中世陶磁器が包含されるⅧa・Ⅷb層より下位にある。自然流路1のV層、しがらみ状遺構下部のピットから第77図5~10、12~17の弥生時代後期後半の甕が出土した。いずれも摩耗していない。

しがらみ状遺構は杭を両側に打ち込み、横木をわたす構造であったようである。地形は南西に傾斜しており、井堰の機能を持つのであれば出水口は西側にならう。貯水の機能を持つものかは、西側が下水道工事で消滅しており不明である。

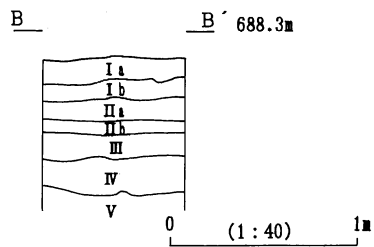
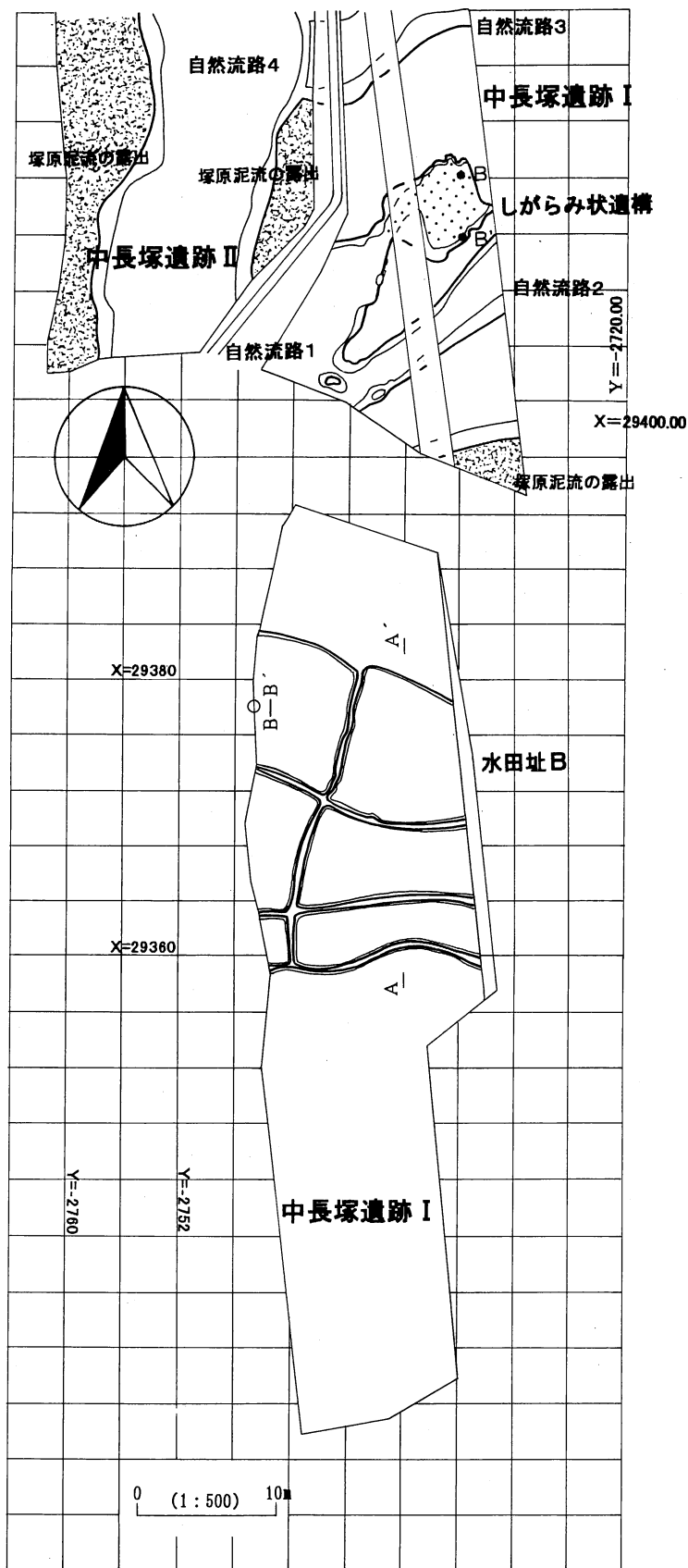
杭は第61図2~5・8・35・115の板材の先端を尖らせたものや、46・47・96の自然木を使用している。板材は、1m前後である。

横木には2mを越す板材や自然木がみられる。103はもっとも長いもので3.1mを測る。100の丸木(コナラ)は2mあり、先端を尖らせている。住居の柱材であろうか。1(サワラ)の板材は2.75mで2カ所に柄穴を持ち住居の横架材であろうか。一つは貫通し、他は貫通していない。

180点の出土木材の115点を樹種同定した。多い順にコナラ節、ヤナギ属、クヌギ節、クリ、サワラ、クロベ、ヤマグワ、モモ、モミ属、オニグルミであった。

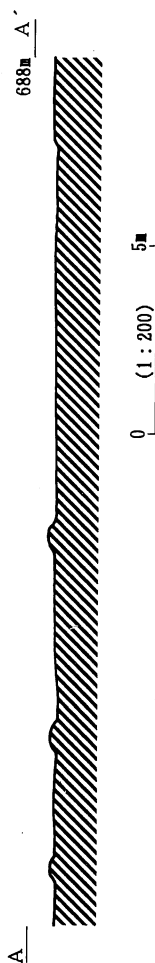
建築材とみられる板材・角材は、コナラ節45%、サワラ15%、クリ15%、クヌギ節13%で善光寺平の弥生時代建築材と比較するとサワラの割合が高いのが特徴的である。

第78図4は、しがらみ状遺構の下部より出土した柄と鋤身を一木で作成した一木鋤である。肩は水平でなく鋤身の大きさに対して柄が細い作りである。樹種はヤマグワ鋤身の長さ36cm2.4cmを計測する。

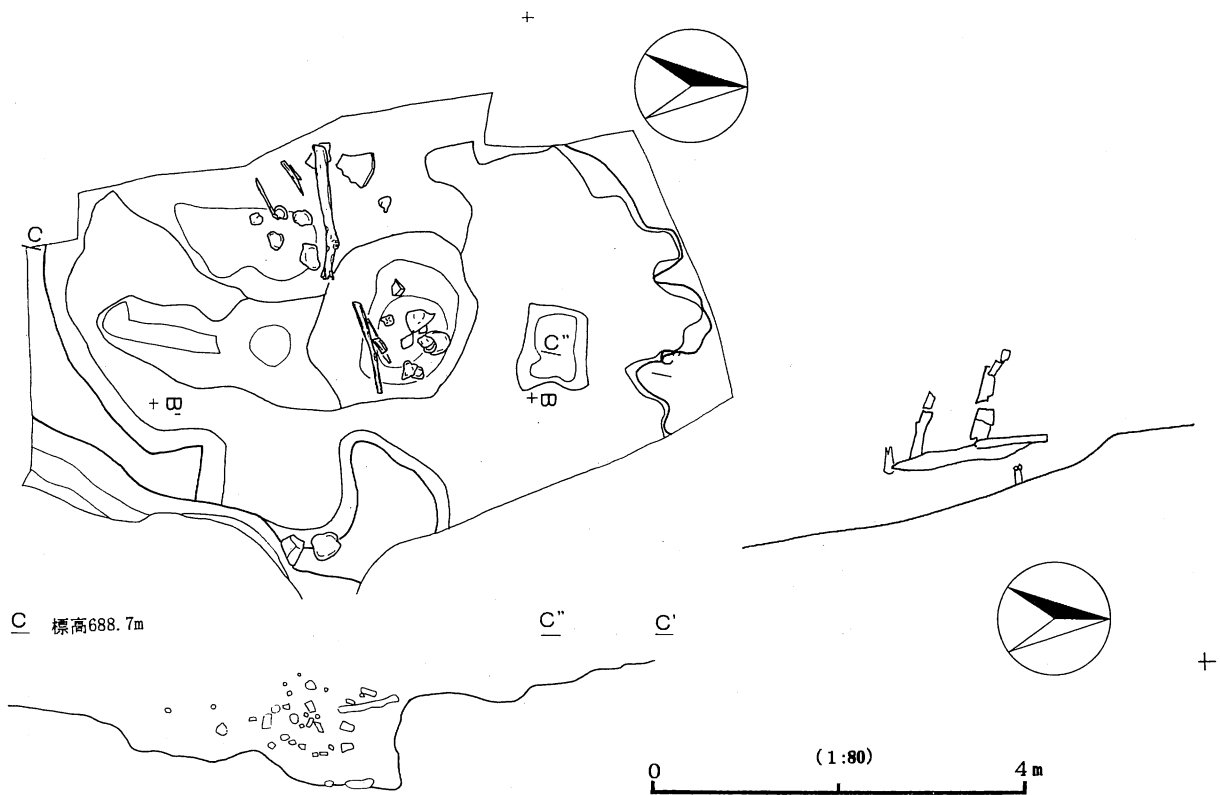


中長塚遺跡 I 水田址 B 層序

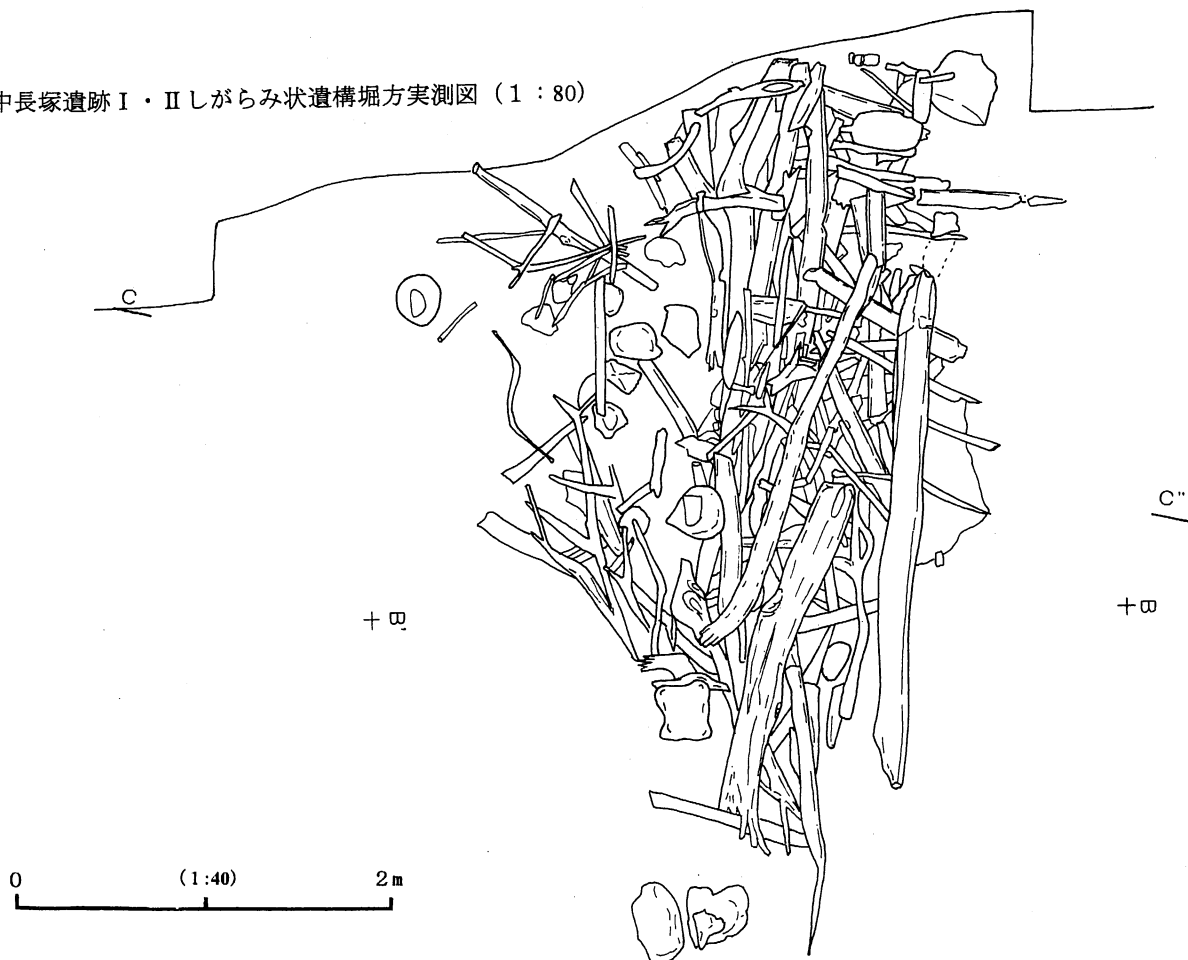
I a層	黒褐色土(10YR2/3)	水田耕土(砂質土)
I b層	赤褐色土(5YR4/6)	水田耕土(砂質土)
II a層	黒褐色土(10YR2/3)	水田耕土(砂質土)
II b層	赤褐色土(5YR4/6)	水田耕土(砂質土)
III層	黒褐色土(10YR3/1)	
IV層	黒色土(10YR2/1)	B地区のIIIa層
V層	褐灰色土(10YR4/1)	B地区のXIV層



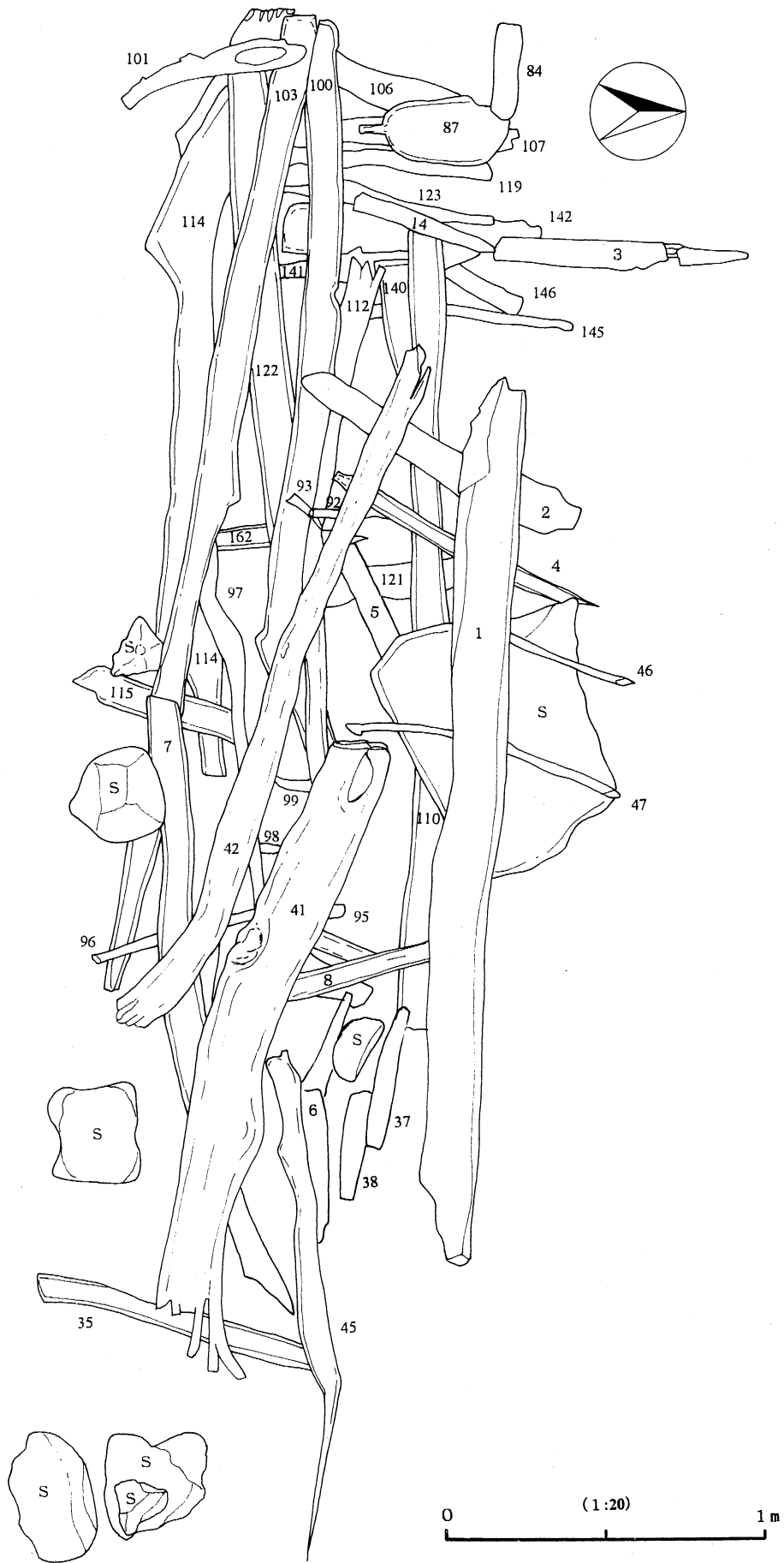
第 58 図 中長塚遺跡 I・II 調査全体図 (1:500)



第59図 中長塚遺跡I・IIしがらみ状遺構堀方実測図(1:80)



第60図 中長塚遺跡I・IIしがらみ状遺構構築材出土状況(1:40)



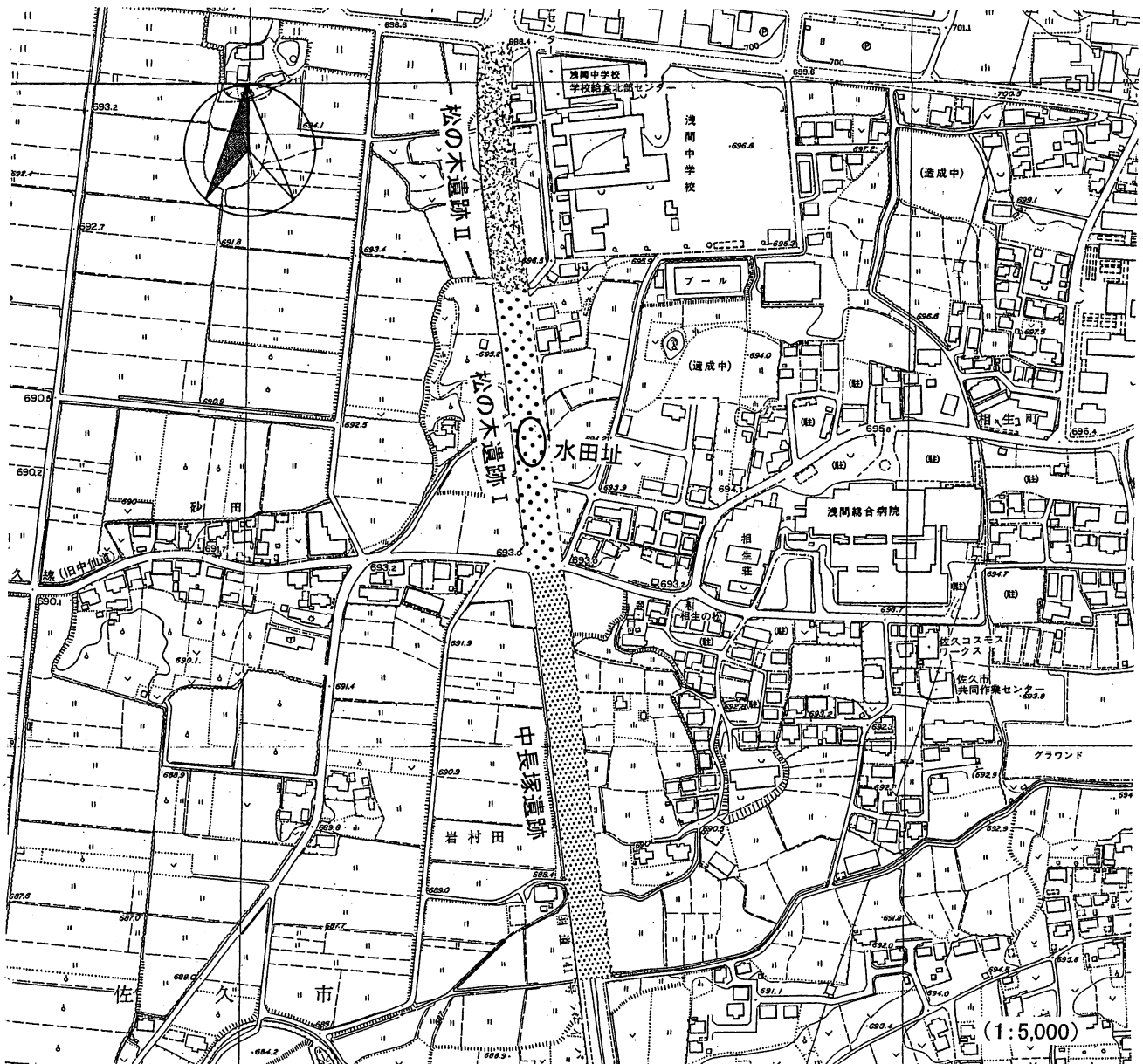
第 61 図 中長塚遺跡 I・II しがらみ状遺構構築材出土状況 (1:20)

## 第2節 松の木遺跡 I・IIの遺構

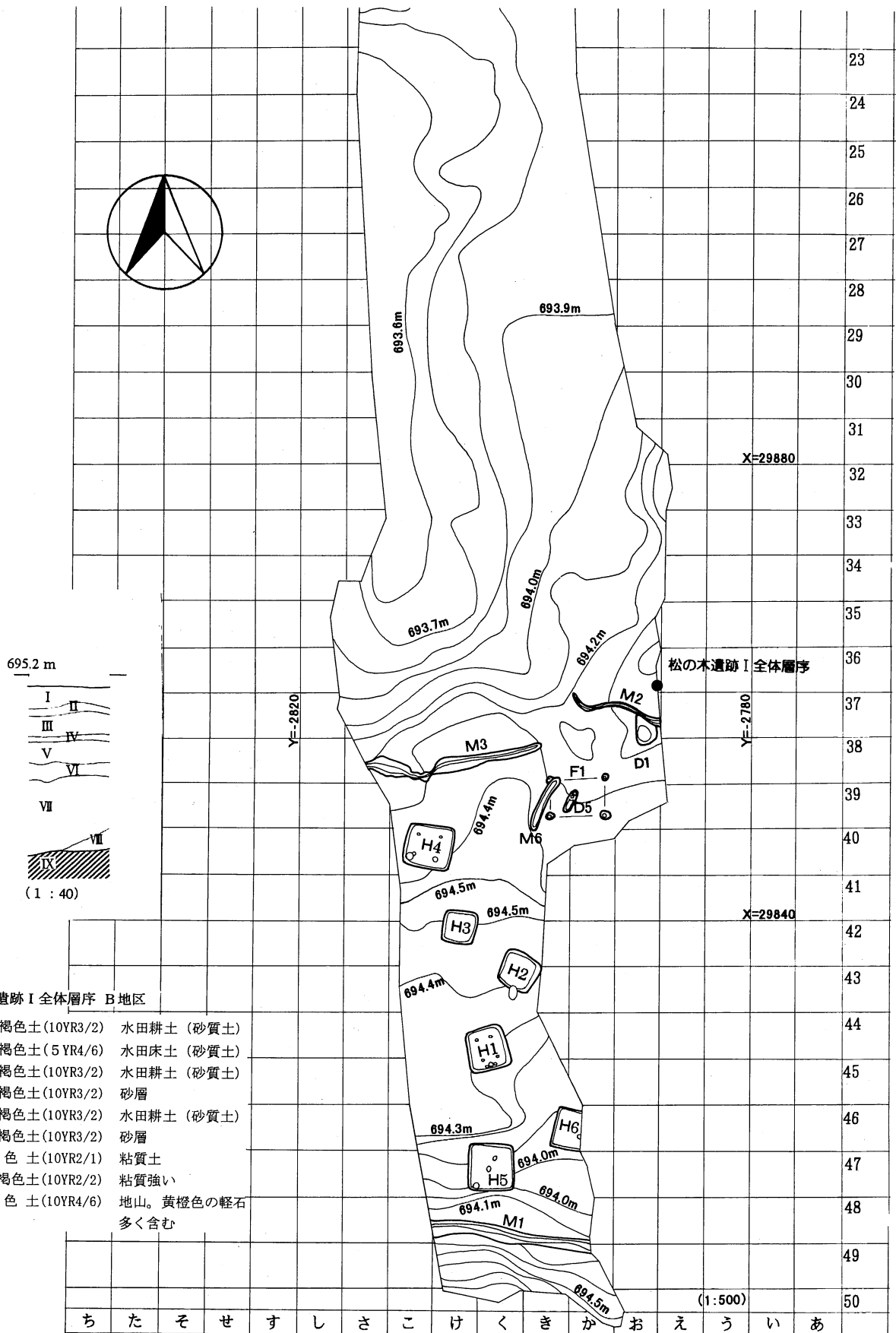
松の木遺跡は、佐久市立浅間中学校の西側にあつて、標高は695 mを測る。付近は新幹線佐久平駅周辺区画事業によって地形が大きく変化している。遺跡付近では、田切り地形が消滅し、一見平坦な地形を見せているが、塚原泥流の残丘が埋没しており決して単調な地形でないことが、いくたの発掘調査によりわかってきている。残丘周辺の平坦地と北東から残丘に伸びる微香地、それを取り巻く低湿地といった地形が随所にみられる。

残丘周辺の平坦地および微高地上から、おもに弥生時代後期後半、弥生時代後期末から古墳時代初頭の集落が調査されている。付近では、松の木遺跡Ⅲ、清水田遺跡Ⅱ、下伯母塚遺跡、辻の前遺跡で5～10棟程度の竪穴住居址が検出されている。

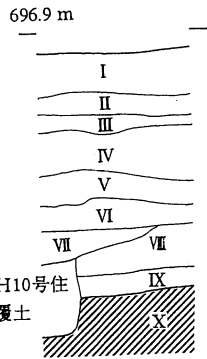
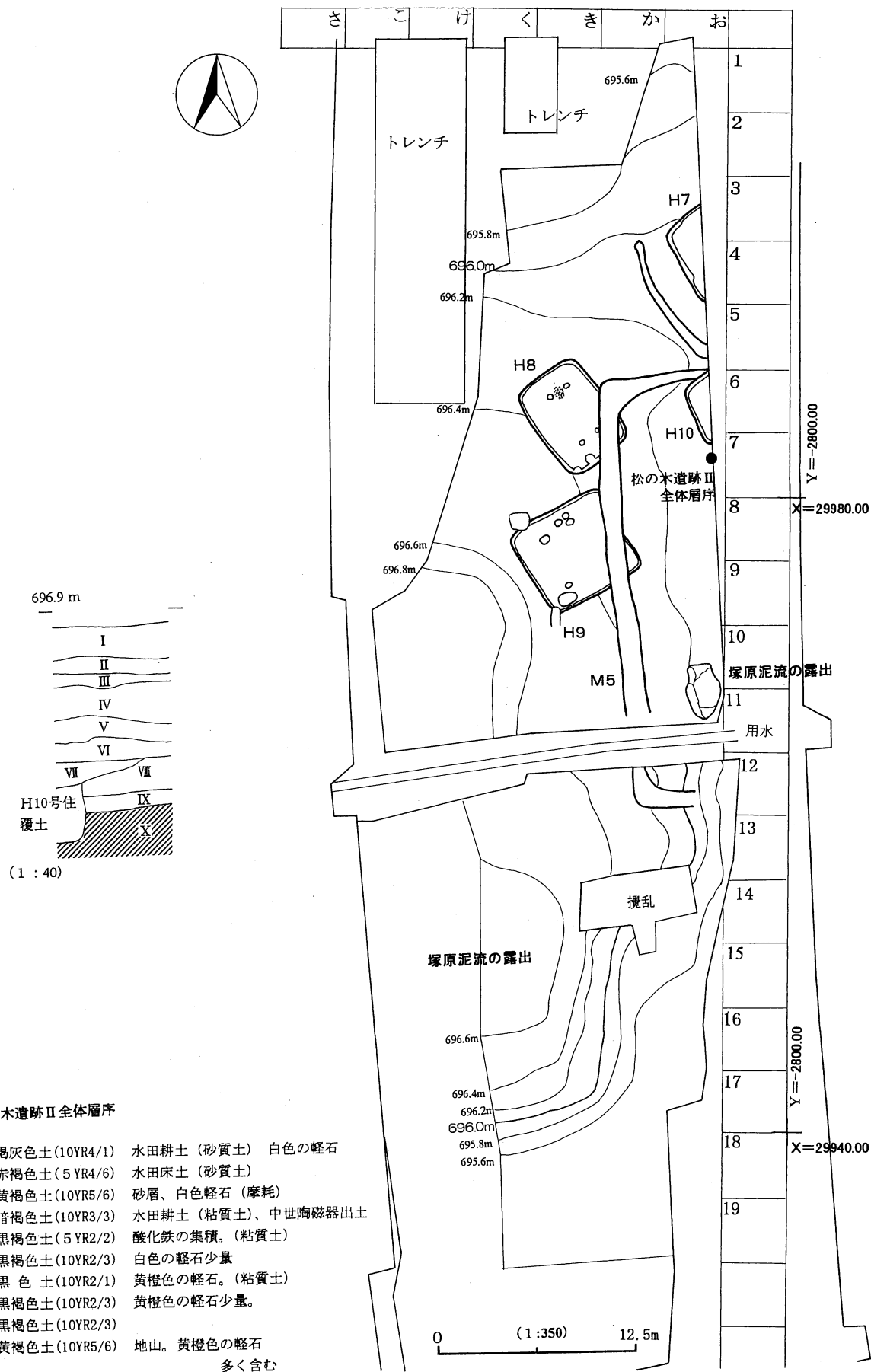
今回の調査は、国道141号バイパスの道路用地幅25m延長400m内を2年度にわたり調査した。低地を挟んだ南と北側に塚原泥流の残丘が存在し、いずれもその北側部分の周囲を低地に囲まれた平坦地から弥生時代後期後半、弥生時代末、古墳時代の竪穴住居址等が検出された。



第62図 松の木遺跡 I・II位置図 (1:5,000)



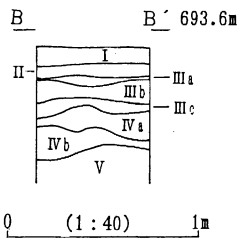
第 63 図 松の木遺跡 I 調査全体図 (1 : 500)



松の木遺跡Ⅱ全体層序

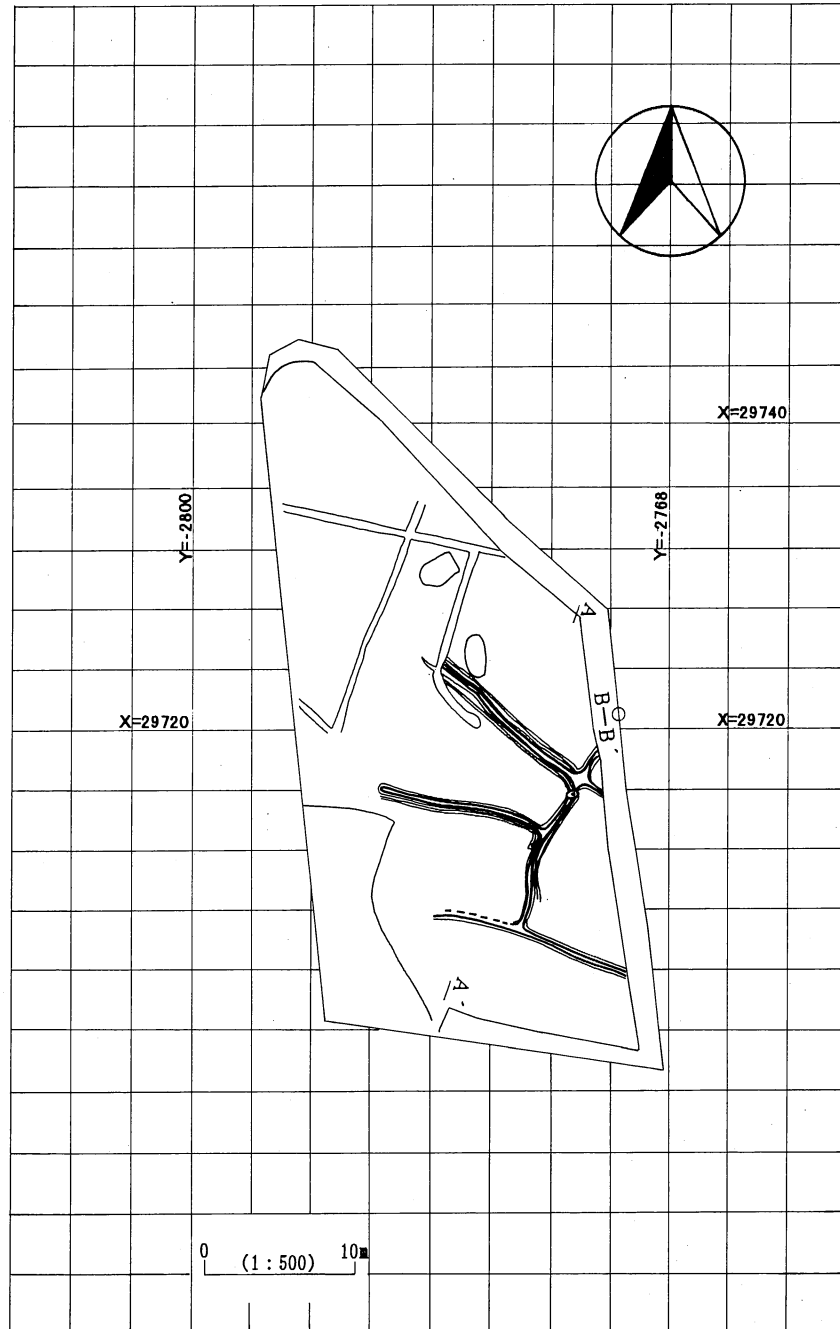
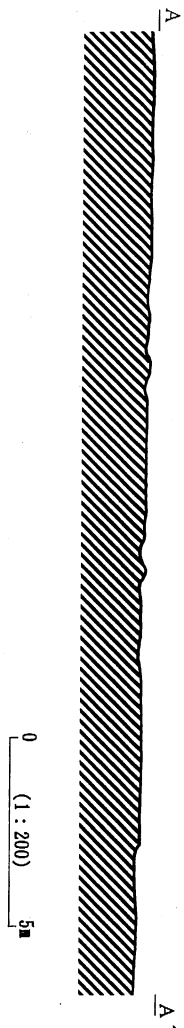
- I層 褐灰色土(10YR4/1) 水田耕土(砂質土) 白色の軽石
- II層 赤褐色土(5 YR4/6) 水田床土(砂質土)
- III層 黄褐色土(10YR5/6) 砂層、白色軽石(摩耗)
- IV層 暗褐色土(10YR3/3) 水田耕土(粘質土)、中世陶磁器出土
- V層 黒褐色土(5 YR2/2) 酸化鉄の集積。(粘質土)
- VI層 黒褐色土(10YR2/3) 白色の軽石少量
- VII層 黒色土(10YR2/1) 黄橙色の軽石。(粘質土)
- VIII層 黒褐色土(10YR2/3) 黄橙色の軽石少量。
- IX層 黒褐色土(10YR2/3)
- X層 黄褐色土(10YR5/6) 地山。黄橙色の軽石  
多く含む

第64図 松の木遺跡Ⅱ調査全体図 (1 : 350)



松の木遺跡 I 全体層序 A 地区

- I 層 黒褐色土(10YR3/2) 水田耕土(砂質土)
- II 層 赤褐色土(5YR4/6) 水田床土(砂質土)
- IIIa層 褐色土(10YR4/4) 砂層
- IIIb層 黒褐色土(10YR3/2) 砂質土
- IIIc層 褐色土(10YR4/4) 砂と礫
- IVa層 黒色土(10YR2/1) 粘質有り、上面が水田址A。上面より北宋銭、中・近世陶磁器出土
- IVb層 黒色土(10YR3/1) 粘質有り。B地区のV層
- V 層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質強い。B地区のVI層



第 65 図 松の木遺跡 I 水田址実測図 (1 : 500)



## (1) 竪穴住居址

### 1 H1号住居址

本住居址は、え・おー 45・46 グリッド、全体層序Ⅷ層中およびⅨ層上面から、検出された。規模は、南北 3.86m 東西 3.64m の南北にわずかに長い長方形を呈する。壁高は 30～52cm を測り、長軸方位は N-18°-W を示す。覆土は 7 層に分層されたが、2・5 層が大半を占める。床面は 13 層を埋め戻して構築されているが堀方は浅い。全体に堅い。

ピットは 7 個検出され、P 1～P 4 が支柱穴である。深さ 17～29cm で、長方形に配される。P 5～P 7 は南壁下中央にあり、深さ 23cm を測る。入り口施設に関するものであろう。特に P 7 は中に向けて斜めに掘られている。

炉は北側支柱穴の P 1 と P 2 の中央に位置する。炉内より出土した 81 図 17 甕片の内外面に煤の付着があり、土器敷き炉とみられる。

遺物は壺 (第 82 図 30)、ひさご壺 (81 図 9)、櫛描波状文を持つ甕ないしは台付甕 (10・15、17～20)、外面ハケ調整される甕・台付甕 (11・12、21・23～28)、高坏 (2～7)、手捏土器 (8) が図示できた。Ⅱ区覆土よりモモ、イネ 6 点、ムギ類 1 点の炭化種子が出土した。

東海系等の外来性土器群の 2・4・5・7・9・11 は、覆土上層か 2 層中の出土である。12 の台付甕口辺部には、櫛描文の名残りのような横線文がわずかにみえる。7 の高坏は、東海の廻間式のⅡ～Ⅲ期前半、2 は廻間式のⅡ期のものに似る。2 は外面に沈線で区画された中に、櫛による刺突が施される。8 の底部には小孔がみられる。弥生時代後期末の様相を持つ、乱れた櫛描波状文と簾状文が施される甕等が、本址に帰属するものである。

### 2 H2号住居址

本住居址は、う・えー 43・44 グリッド、全体層序Ⅷ層中およびⅨ層上面から、検出された。規模は、南北 3.4m 東西 3.36m のやや不整な隅丸方形を呈し、壁高は 12～26.5cm を測り、長軸方位は N-60°-W を示す。覆土は 3 層に分層されたが、1 層が大半を占める。床面は 5 層を埋め戻して構築されている。堀方は浅く、全体に柔らかい。

ピットは、北壁角に 1 個検出され、ピットを中心に両壁中央まで壁溝がみられる。炉址は、ない。遺物は甕 (第 83 図 5～8)、鉢 (10)、高坏 (3)、鉢または高坏 (1・2) 等が図示できた。4 は、大形の鉢ともよぶのか、外側に短く折り返される口縁端部を持ち、体部内外面ミガキされ特に外面は、斜めの丁寧なミガキがみられる。9 はおそらく甕の器形となろうが、箱清水式の甕にみられる通常のミガキでなく、まことに丁寧な横方向のミガキである。

### 3 H3号住居址

本住居址は、おー 42・43 グリッド、全体層序Ⅸ層上面から、検出された。規模は、南北 3.0m 東西 3.12m の隅丸方形を呈し、壁高は 8～195cm を測り、長軸方位は S-82°-E を示す。覆土は 3 層に分層されたが、1 層が大半を占める。床面は 6 層を埋め戻して構築されている。堀方は浅く、全体に柔らかく平坦でない。ピットは、検出されない。炉址は東壁近くにあり、地床炉である。遺物は少量で、台付甕 (第 83 図 2・3)、高坏 (1・4) が図示できた。2 は、内面に 2～3 状の平行線の中に連続する「ハ」の字がヘラミガキ状に施されている。遺物は少ないが外来系の要素の強いものである。2 の高坏は廻間式Ⅱ期に該当しようか。

### 4 H4号住居址

本住居址はお・かー 40・41 グリッド、全体層序Ⅸ層上面から検出された。規模は、南北 3.88m 東西 4.3m の東西に長い隅丸長方形を呈し、壁高は 23～45cm を測り、長軸方位は S-82°-E を示す。覆土は 7 層に分層されたが、2・3・5 層が大半を占める。床面は 14 層を埋め戻して構築されている。全体に堅い。

ピットは床面上から 5 個検出され、P 1～P 4 が支柱穴である。深さ 12.5～36cm で、方形に配される。P 5 は南西壁下にあり、深さ 27cm を測る。底面に張り付いた貯蔵されたかのような粘土がみられた。P 1 と P 2 には、径 16cm の柱痕が認められた。床下から 4 個のピットが検出された。P 7 と P 6 は古い支柱穴であろうか。

炉は、ない。

遺物は少量で、甕 (第 83 図 1)、壺 (第 84 図 2) が図示できた。イネの炭化種子がⅠ区床上 2 点、Ⅳ区床上から 7 点、出土した。1 は P 4 の上面、2 は P 1 と P 4 の間の覆土 3 層下部から出土した。1 は、外面口辺部に縦の胴部に羽状の櫛描文が、頸部には櫛描簾状文が施される。口縁端部は外側に折り返されている。2 は、球形の胴部を持つ

壺で赤色塗彩は、みられない。箱清水式土器特有の頸部の「T」字文もなく、申し訳程度の櫛描横線が施されている。弥生時代後期末の様相をみせている。

## 5 H5号住居址

本住居址はえ・おー47・48グリッド、全体層序Ⅷ層から検出された。規模は、南北4.06m 東西4.0mの隅丸方形を呈し、壁高は0～9cmを測り、長軸方位はNを示す。確認面が覆土と類似していたことと、上部を耕作により削平されていたため、覆土は1層しかない。床面は5層を主に埋め戻して構築されている。全体に柔らかい。

ピットは床面上から3個検出された。P1は深さ20cmを測り柱穴であろうか。P2が北西壁下に、P3が南西壁下にあり、深さ18cm、40cmを測る。床下から6個のピットが検出された。

床面ほぼ中央に僅か1.5cmの掘り込みの中に焼土がみられ、炉の存在を思わせる。

遺物は、甕（第84図7～9）、小形甕（4・5）、高坏（1・2）が図示できた。イネの炭化種子がⅠ区堀方から4点、Ⅱ区堀方から23点、Ⅲ区堀方から27点、Ⅳ区堀方から4点、ムギ類Ⅱ区堀方から1点、コムギがⅢ区堀方から1点出土した。3は高坏か器台の脚であろうか。内面に輪積み痕を残す。11は壺であろうか、赤色塗彩されず外面丁寧なミガキが施される。6は甕の器形であるが、内外面丁寧にミガキされる。

甕にくずれながらも箱清水式の特徴を残すが、他の器種には東海系などの新しい要素がみられる。

## 6 H6号住居址

本住居址は、い・うー47グリッド、全体層序Ⅷ層から検出された。規模は、南北3.66m 東西(2.6)mのおよそ隅丸長方形を呈し、壁高は4～20cmを測り、長軸方位はN-12°-Eを示す。

覆土は4層に分層された。焼失住居であり、3層は多量の炭化材で上部の2層には焼土がみられた。このことは、屋根に土が被覆されていたことを思わせる。

床面は8層を埋め戻して構築されている。全体に柔らかい。

ピットは床面上から19個検出された。P1～P4が支柱穴である。深さ14.5～23cmで、やや不整な方形に配される。南壁下に2個のピットがあり、入り口施設に関したものであろう。深さ11cm、15cmを測る。西壁下に直線上に15個の小ピットがある。壁立てに関するものか。西壁下に深さ5～10cmの壁溝がみられる。

遺物は、台付甕（第85図5・6）、小形甕？鉢？（3）、器台（1）、甑（2）、ミニユチアの手捏土器が図示できた。イネとオオムギの炭化種子が1点ずつ床上から出土している。2は高温により焼け土が癒着し、器形も歪んでしまっている。

箱清水式の土器はみられず、外来系の土器が主体を占める。1の器台は、東海の廻間式Ⅱ期によく似るものである。

## 7 H7号住居址

本住居址は、おー3・4グリッド、全体層序Ⅷ層上面から検出された。規模は、南北(4.84m) 東西(28)mを測るが半分以上は、調査対象地外にある。P1の位置から長方形を呈するとみられる。壁高は35～38cmを測り、長軸方位はN-30°-Wを示す。覆土は6層に分層された。

深さ21cmのP1は、位置から支柱穴であろう。

遺物は、弥生時代後期末とみられるくずれた櫛描波状文が施された甕（第85図1）が図示できたのみである。

## 8 H8号住居址

本住居址はか～くー5～7グリッド、全体層序Ⅷ層上面から検出された。M5号溝状遺構に南東コーナー付近を破壊される。規模は、南北6.56m 東西4.6mの隅丸長方形を呈し、壁高は30～42cmを測り、長軸方位はN-35°-Wを示す。覆土は5層に分層された。床面はⅩ層を堅く敲き締めて構築されている。堀方はない。

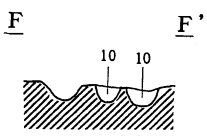
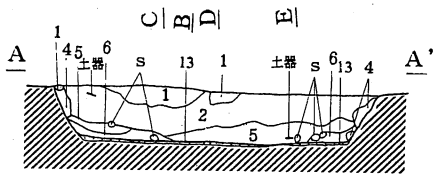
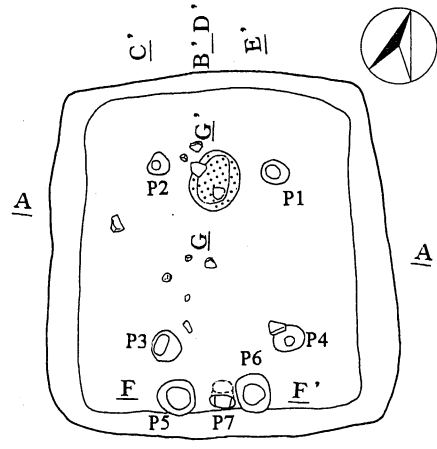
ピットは10個検出され、P1～P4が支柱穴である。深さ55～66cmと深く、長方形に配される。南壁下に3個のピットがあり、入り口施設に関したものであろう。深さP7が31cm、15cmを測る。

炉は北側支柱穴のP1とP2の中央に位置する。炉内には壺（第86図6）底部が埋設され、南側には炉縁石が2個みられた。

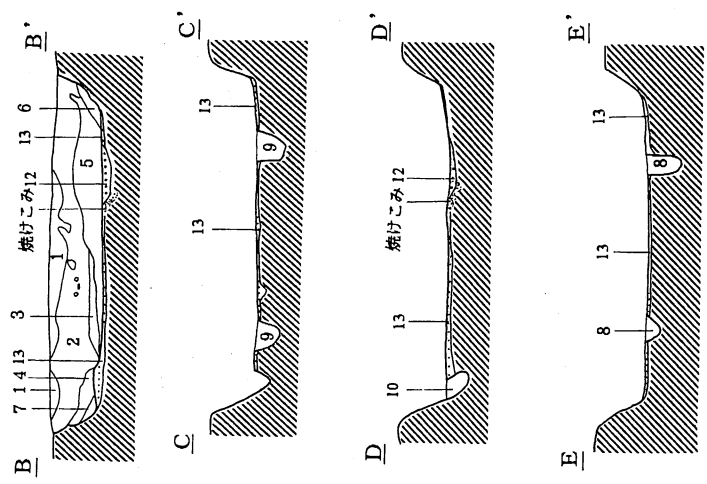
遺物は、甕（第85図3、第86図4）、台付甕壺（2）、無頸壺（1）、土製円盤（1・2）等が図示できた。

7の土製円盤は高坏か壺口辺部片を、8は壺口辺部片の周囲を加工したものである。弥生時代後期後半に比定されよう。

# H 1号住居址



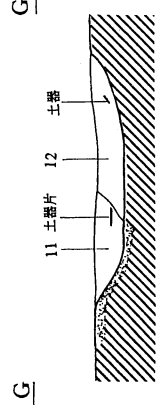
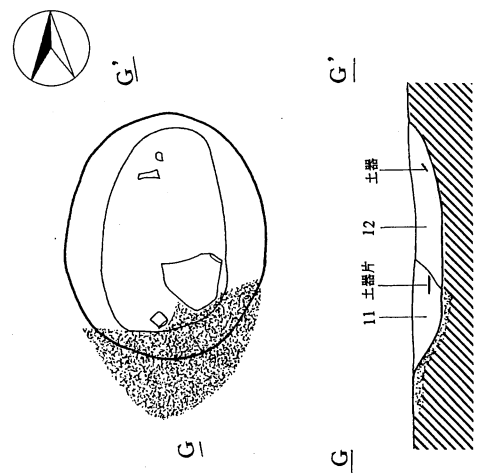
標高 694.4 m  
(1:80) 2 m



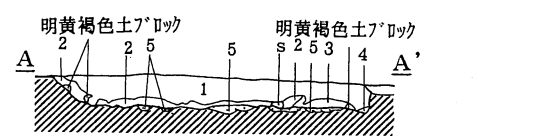
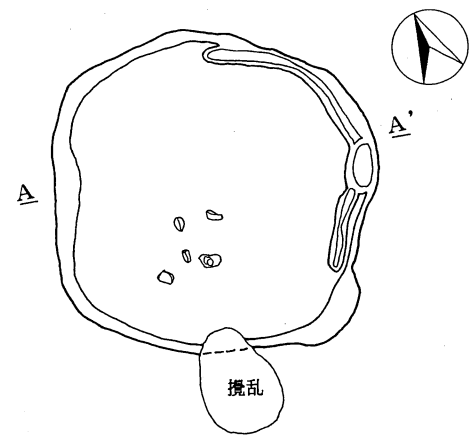
- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色・にぶい赤褐色の軽石多量、黒色土のブロック多量を含む。
- 2層 黒褐色土(10YR3/1) 黄褐色・にぶい赤褐色の軽石多量、黒色土のブロック少量、明黄褐色土多量、炭を少量含む。
- 3層 黒色土(10YR2/1) 炭少量。
- 4層 褐色土(10YR4/4) 黄褐色・にぶい赤褐色の軽石多量。
- 5層 黒色土(10YR2/1) 黄褐色・にぶい赤褐色の軽石多量、炭少量。
- 6層 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色・にぶい赤褐色の軽石少量。
- 7層 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土の小ブロック少量。
- 8層 黒褐色土(10YR2/3) 明黄褐色土の小ブロック多量。
- 9層 黒褐色土(10YR2/3) 柔らかい。
- 10層 黒褐色土(10YR2/2) 焼土粒子少量。
- 11層 黒褐色土(10YR2/2) 炭多量。
- 12層 黒色土(10YR2/1) 炭多量。
- 13層 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土の小ブロック含む。(床下埋め土)

H 1号住居址実測図

# H 2号住居址



標高 693.9 m  
(1:30) 0.5 m



標高 694.5 m  
(1:80) 2 m

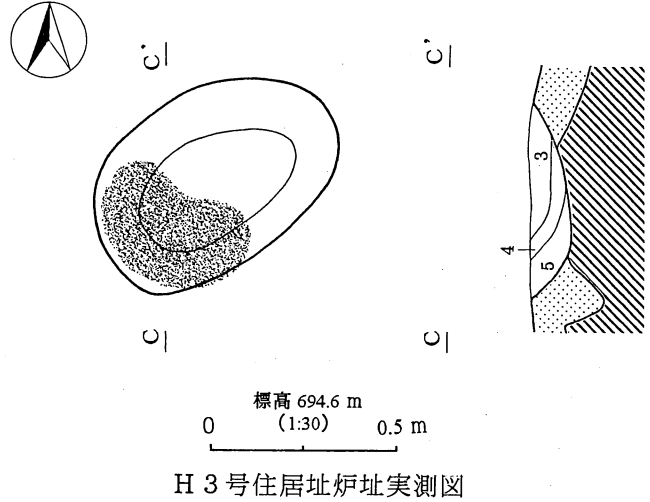
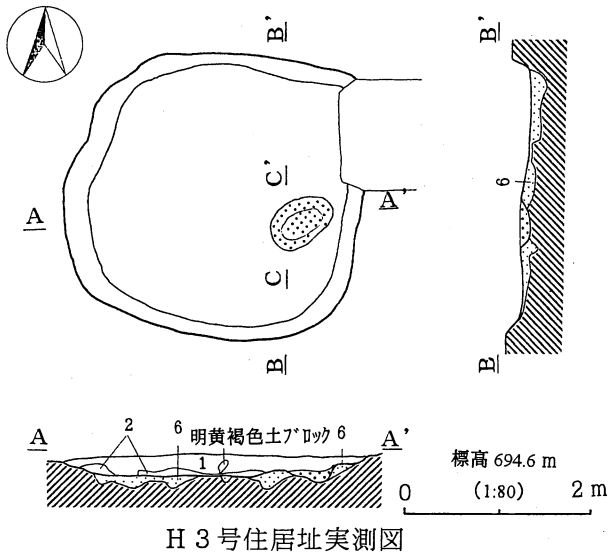
- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 炭少量。
- 2層 暗褐色土(10YR3/3) 明黄褐色土のブロック多量。
- 3層 黒褐色土(5YR2/1) 焼土・ローム粒子少量。
- 4層 にぶい赤褐色土(5YR4/3) 焼土ブロック・灰。
- 5層 黒褐色土(5YR3/1) 炭・ローム粒子を含む。
- 6層 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック・ローム粒子を含む。

H 1号住居址炉址実測図

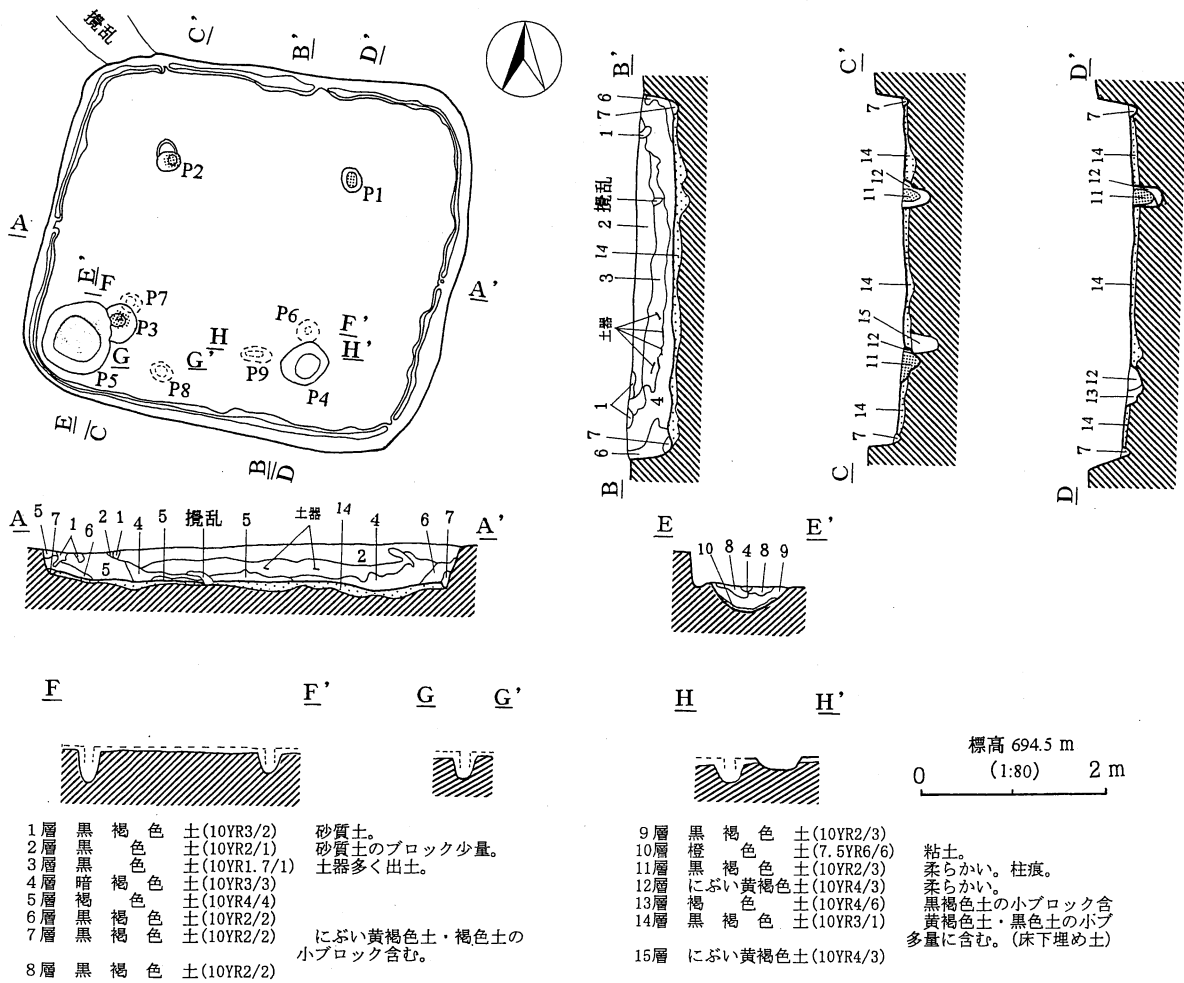
H 2号住居址実測図

第 66 図 松の木遺跡 H 1号住居址、H 2号住居址実測図

### H 3号住居址

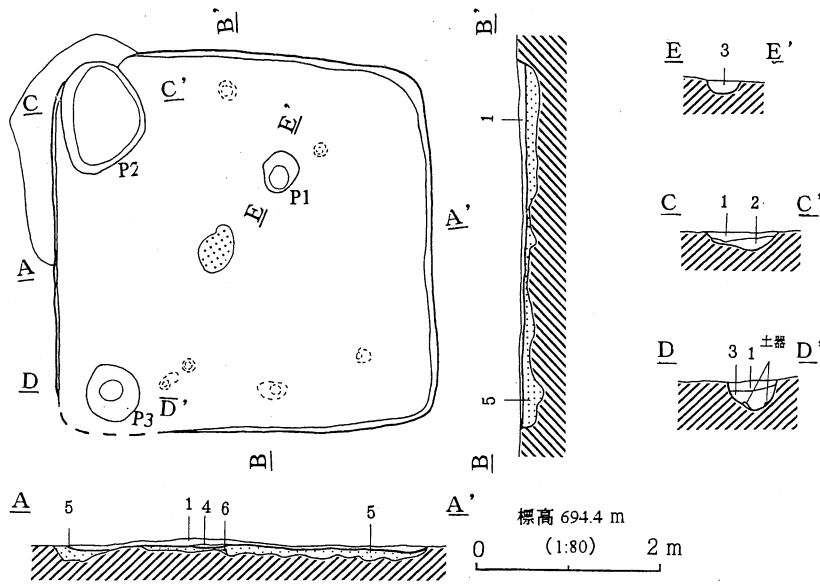


### H 4号住居址



第 67 図 松の木遺跡H 3号住居址、H 4号住居址実測図

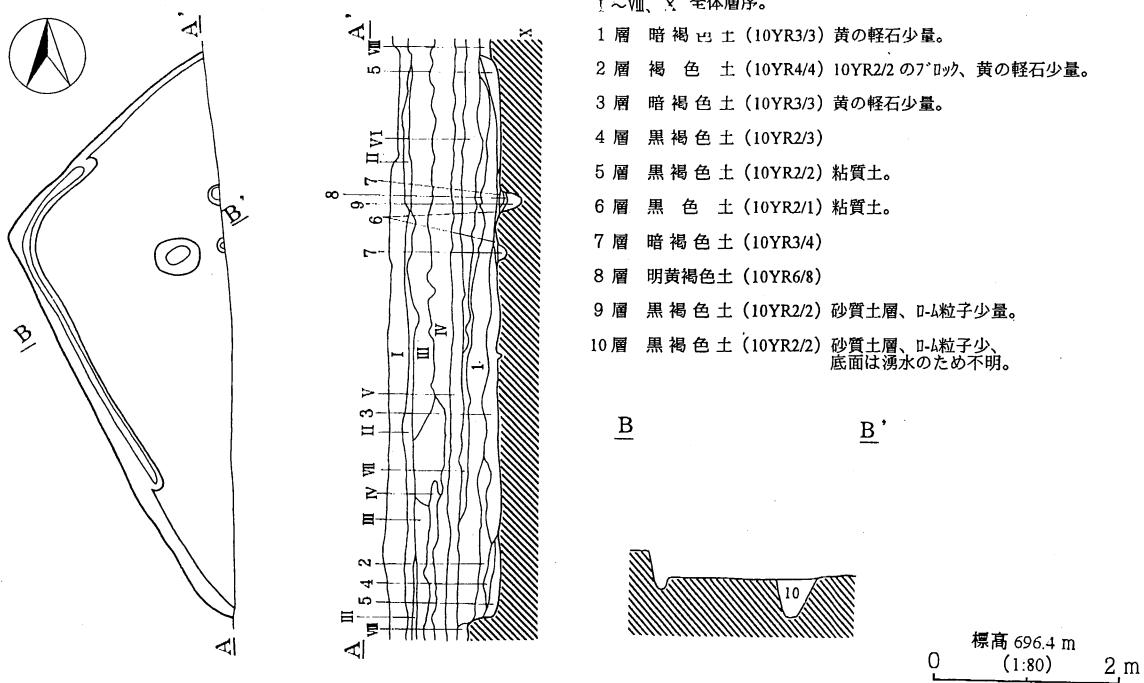
### H 5号住居址



- 1層 黒色土(10YR2/1) ローム粒子少量
- 2層 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック少量。
- 3層 黒色土(10YR2/1) ローム粒子少量。
- 4層 淡橙色土(5 YR8/4) 焼土
- 5層 黒褐色土(10YR2/2) にぶい黄褐色土の小ブロック、黄褐色の軽石を多量に含む
- 6層 淡橙色土(5 YR8/4) 焼土。

H 5号住居址実測図

### H 7号住居址

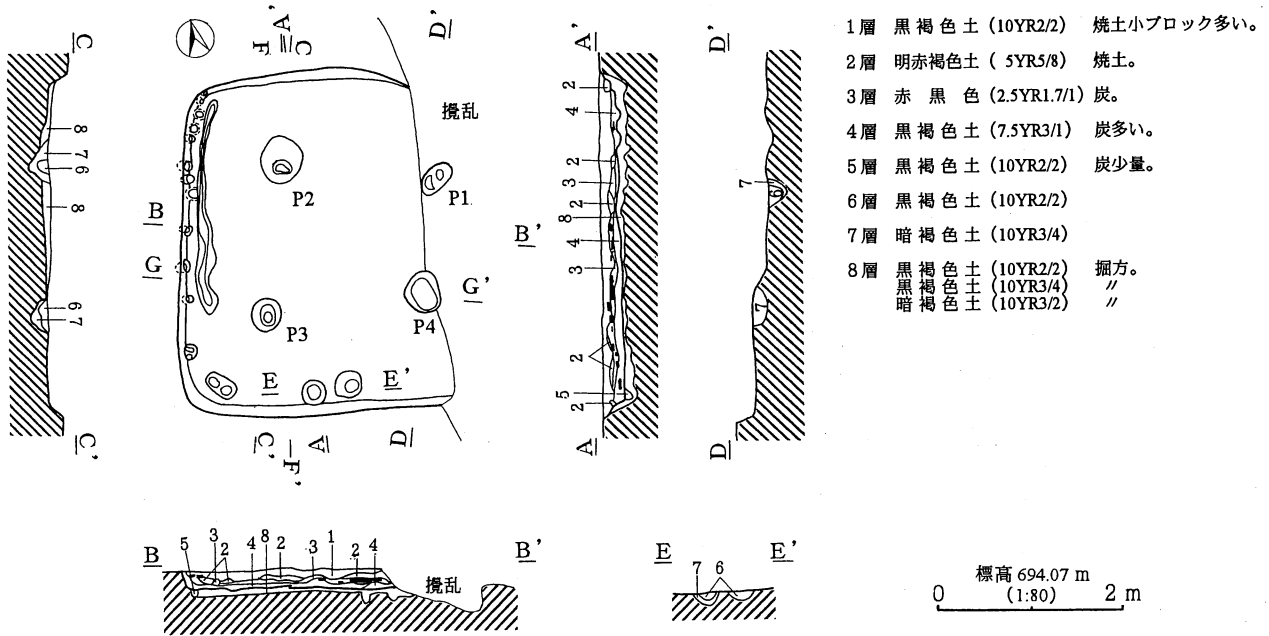


- I ~ Ⅳ、Ⅴ 全体層序。
- 1層 暗褐色土(10YR3/3) 黄の軽石少量。
  - 2層 褐色土(10YR4/4) 10YR2/2の7°Dツカ、黄の軽石少量。
  - 3層 暗褐色土(10YR3/3) 黄の軽石少量。
  - 4層 黒褐色土(10YR2/3)
  - 5層 黒褐色土(10YR2/2) 粘質土。
  - 6層 黒色土(10YR2/1) 粘質土。
  - 7層 暗褐色土(10YR3/4)
  - 8層 明黄褐色土(10YR6/8)
  - 9層 黒褐色土(10YR2/2) 砂質土層、D-L粒子少量。
  - 10層 黒褐色土(10YR2/2) 砂質土層、D-L粒子少、底面は湧水のため不明。

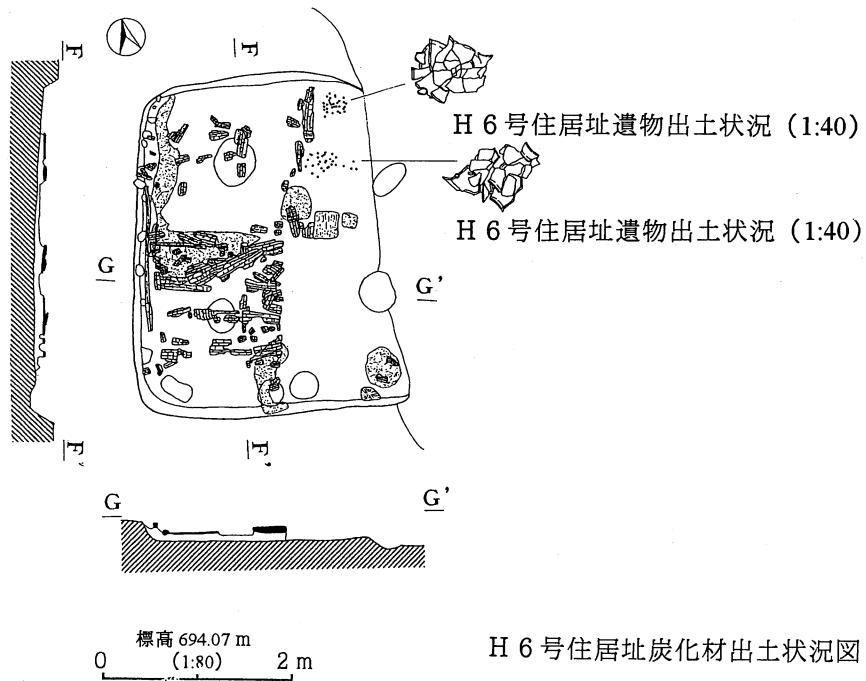
H 7号住居址実測図

第 68 図 松の木遺跡H 5号住居址、H 7号住居址実測図

# H 6号住居址

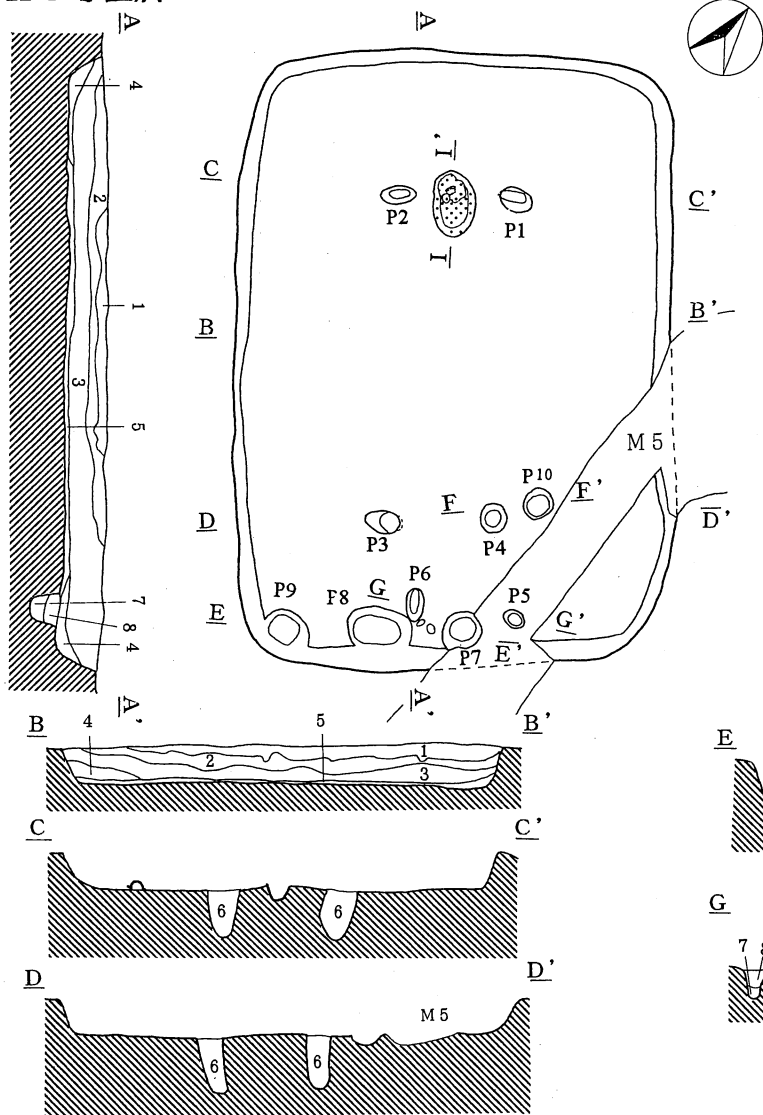


H 6号住居址実測図

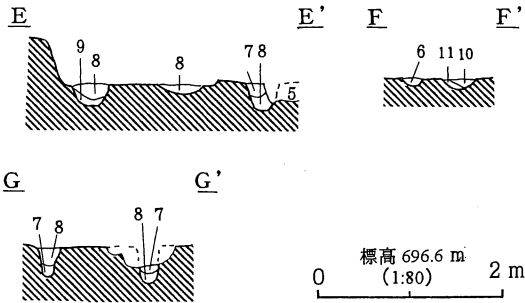


第 69 図 松の木遺跡H 6号住居址実測図

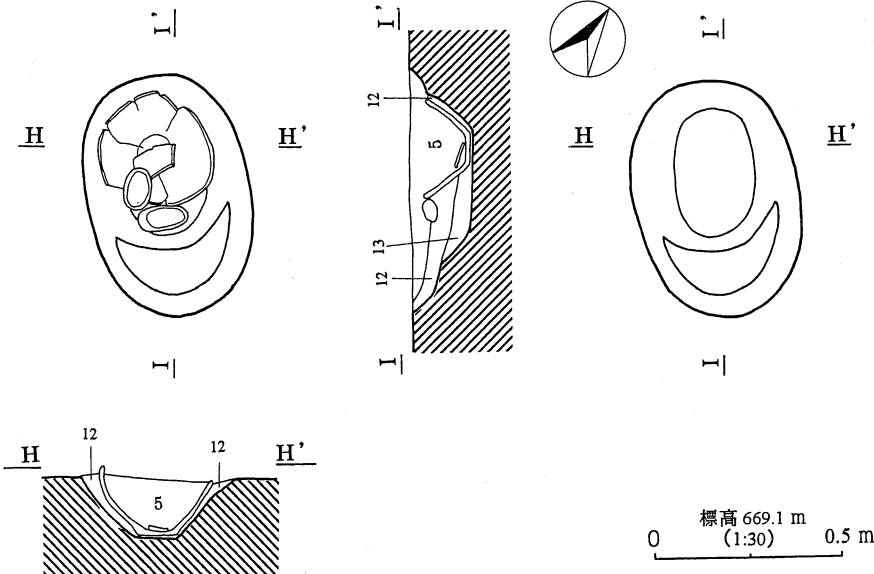
# H 8号住居址



- 1層 黒褐色土(10YR2/2) 5cm以下の軽石・ローム粒子少量。炭化粒子少量
- 2層 暗褐色土(10YR3/3) 5cm以下の軽石・ローム粒子・黒褐色土の小ブロック少量。炭化粒子少量。
- 3層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) こぶし大の軽石・ローム粒子・炭化粒子少量。
- 4層 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量。炭化粒子少量
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) 粘性あり。炭化粒子少量。
- 6層 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子少量。
- 7層 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム主体。黒褐色土のブロック含む。
- 8層 黒褐色土(10YR2/2) 締まりない。ローム粒子少量。
- 9層 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子・ブロック含む。
- 10層 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子・炭化粒子少量。
- 11層 黒色土(10YR1.7/1) 炭主体。
- 12層 黒色土(10YR2/1) 炭含む。
- 13層 褐色土(10YR4/4) ローム粒子多量。



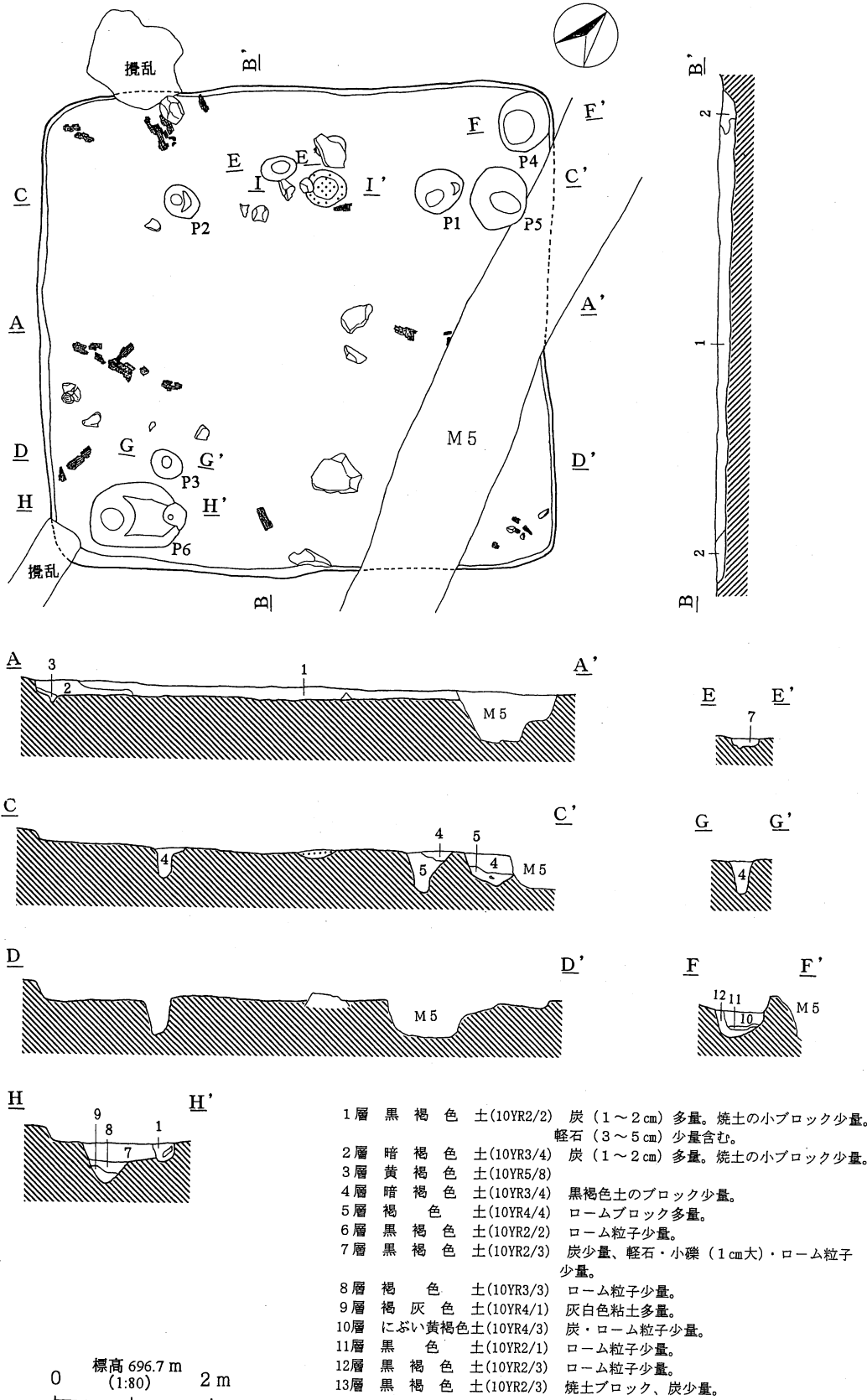
H 8号住居址実測図



H 8号住居址炉址実測図

第70図 松の木遺跡H 8号住居址実測図

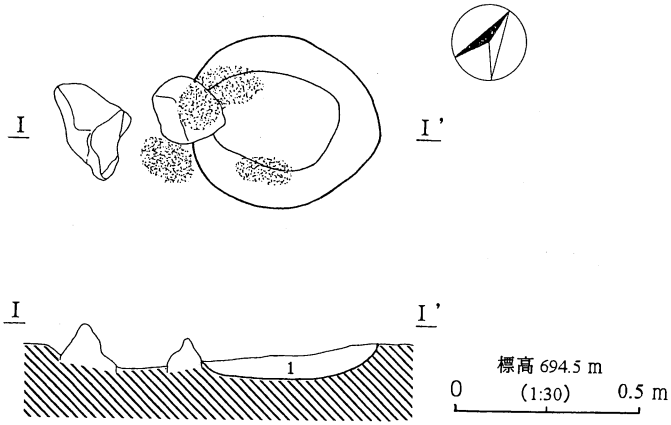
# H 9号住居址



H 9号住居址実測図

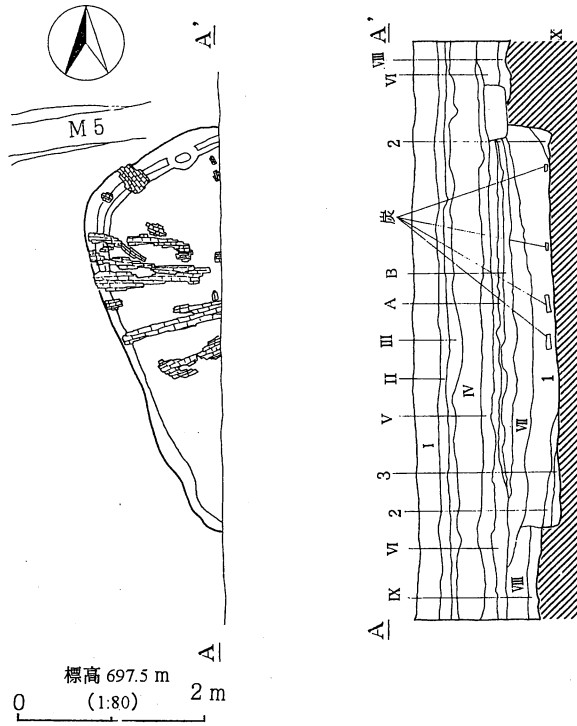
第71図 松の木遺跡H 9号住居址実測図





H 9 号住居址炉址実測図

### H 10 号住居址



H 10

I ~ X 層

全体層序

- 1層 褐色土 (10YR3/3) 炭化材・焼土・ローム粒子含む。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土・ローム粒子少量。
- 3層 黄褐色土 (10YR3.4) ローム粒子・ロームブロック含む。

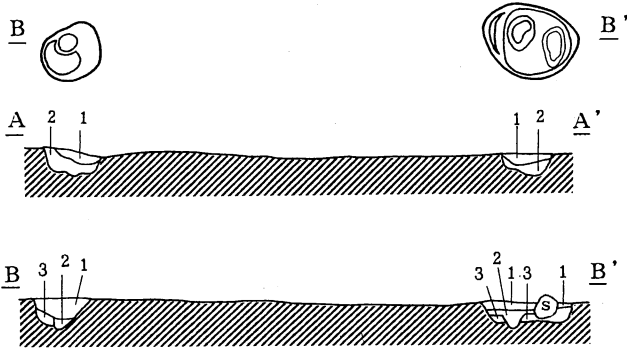
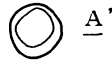
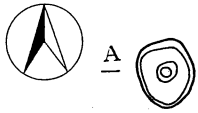
A層 暗褐色土 (10YR3/4) 砂層  
H 10 号住居址覆土上部にだけ  
みられる層

B層 黒褐色土 (10YR2/2)  
H 10 号住居址覆土上部にだけ  
みられる層

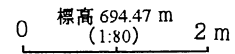
H 10 号住居址実測図

第 72 図 松の木遺跡 H 9 号住居址炉址、H 10 号住居址実測図

F 1号掘立柱建物址

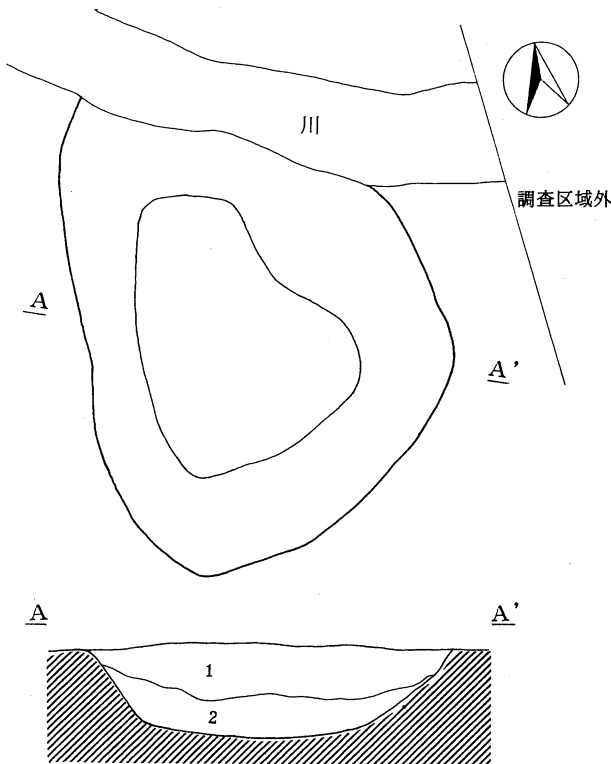


- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)
- 2層 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子少量。
- 3層 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土の小ブロック含む。

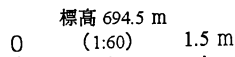


F 1号掘立柱建物址実測図

D 1号土坑

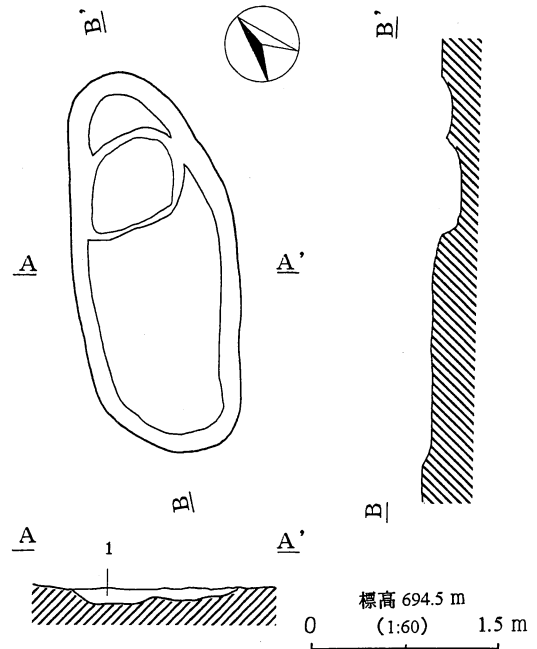


- 1層 黒色土(10YR2/1) 鉄分を帯状に含む。
- 2層 黒色土(10YR2/1) 鉄分を帯状に含む。



D 1号土坑実測図

D 5号土坑

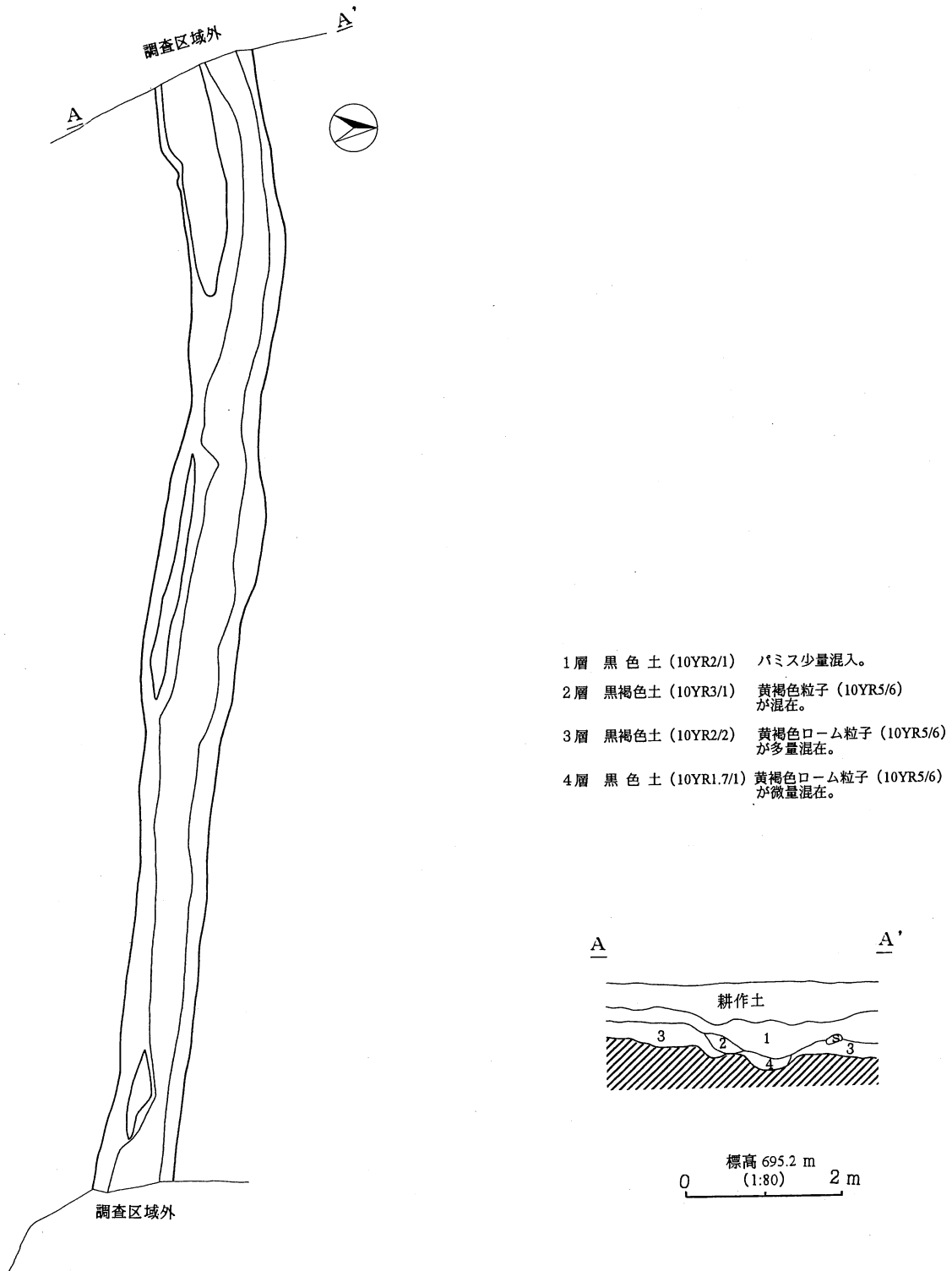


- 1層 黒色土(10YR2/1) ローム粒子を微量に含む。

D 5号土坑実測図

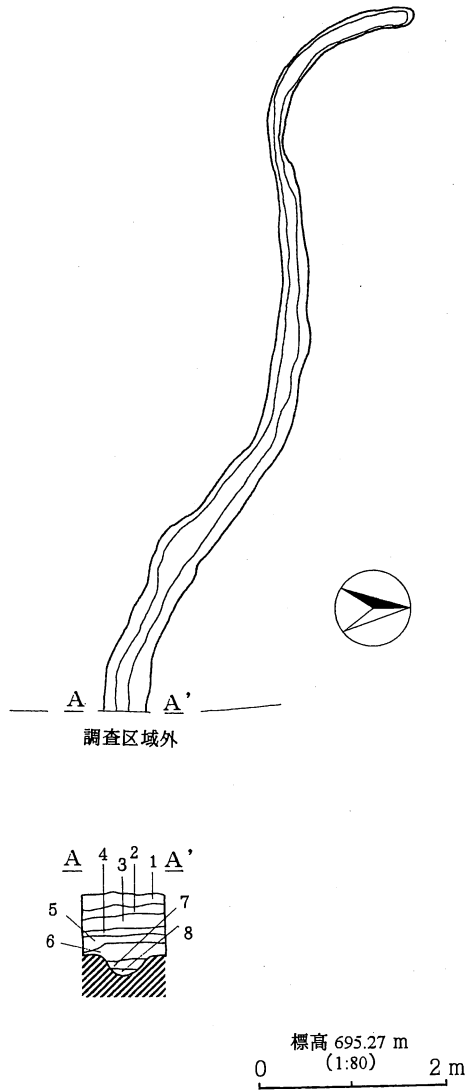
第 73 図 松の木遺跡F 1号掘立柱建物址、D 1号土坑、D 5号土坑実測図

# M1号溝状遺構



第74図 松の木遺跡M1号溝状遺構実測図

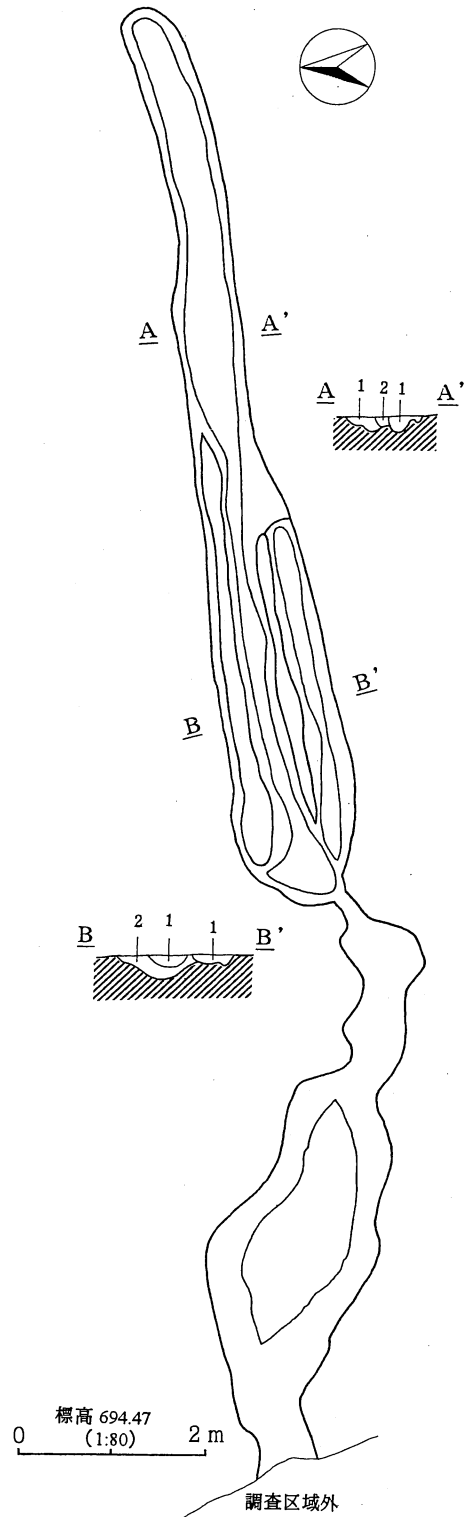
M2号溝状遺構



- 1層 褐色土 (7.5YR4/3) 水田。
- 2層 褐色土 (7.5YR4/6) 水田床土。
- 3層 褐色土 (7.5YR4/3) 砂層。(きめ細かな砂層)
- 4層 褐色土 (7.5YR4/3) 砂質土。(粘質があり水田耕土のよう)
- 5層 褐色土 (7.5YR4/4) 砂層。(粗い砂層)
- 6層 黒色土 (10YR2/1) 粘質強い。
- 7層 黒色土 (7YR2/1) 粘質強い。
- 8層 黒色土 (7YR2/1) 粘性強い。

M2号溝状遺構実測図

M3号溝状遺構

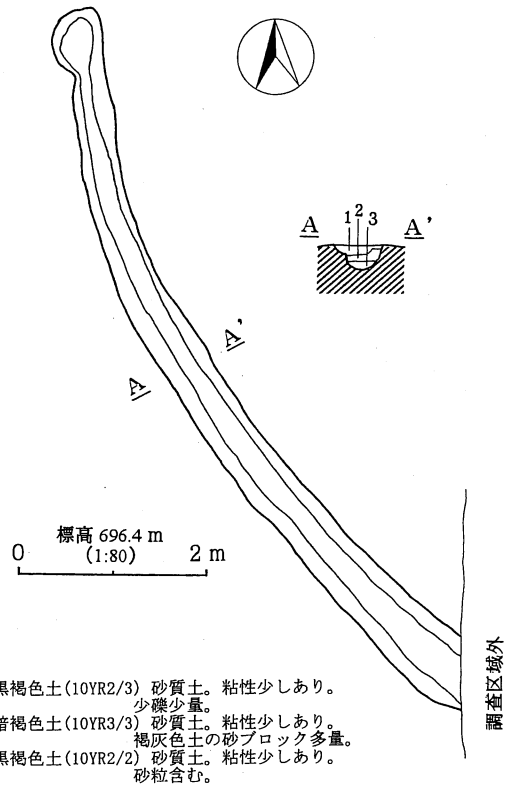


- 1層 黒褐色土 (10YR3/1) 0-L粒子、0-L7°ブロック少量混入。
- 2層 黒褐色土 (10YR2/3) 0-L7°ブロック、0°ミ混入。

M3号溝状遺構実測図

第75図 松の木遺跡M2号溝状遺構、M3号溝状遺構実測図

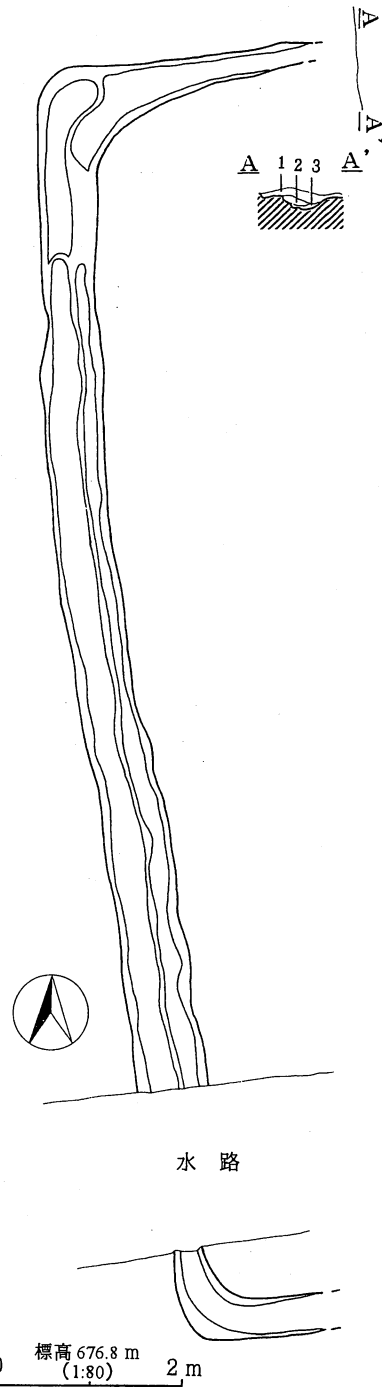
M 4号溝状遺構



- M 4  
 1層 黒褐色土(10YR2/3) 砂質土。粘性少しあり。  
           少礫少量。  
 2層 暗褐色土(10YR3/3) 砂質土。粘性少しあり。  
           褐灰色土の砂ブロック多量。  
 3層 黒褐色土(10YR2/2) 砂質土。粘性少しあり。  
           砂粒含む。

M 4号溝状遺構実測図

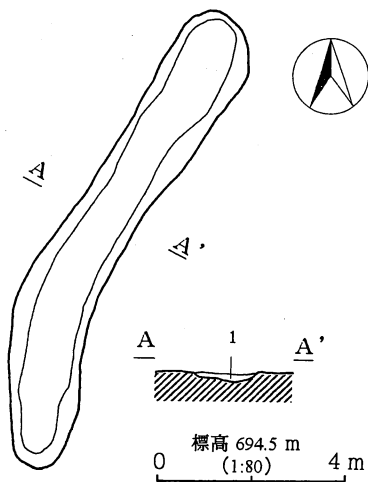
M 5号溝状遺構



- 1層 黒褐色土(10YR3/2) 粘質あり。  
 2層 暗褐色土(10YR3/3) 砂(シルト)フック帯状。  
 3層 暗褐色土(10YR3/3) 砂(シルト)フック帯状多。

M 5号溝状遺構実測図

M 6号溝状遺構



- 1層 黒色土(10YR2/1)  
       ローム粒子を微量に含む。

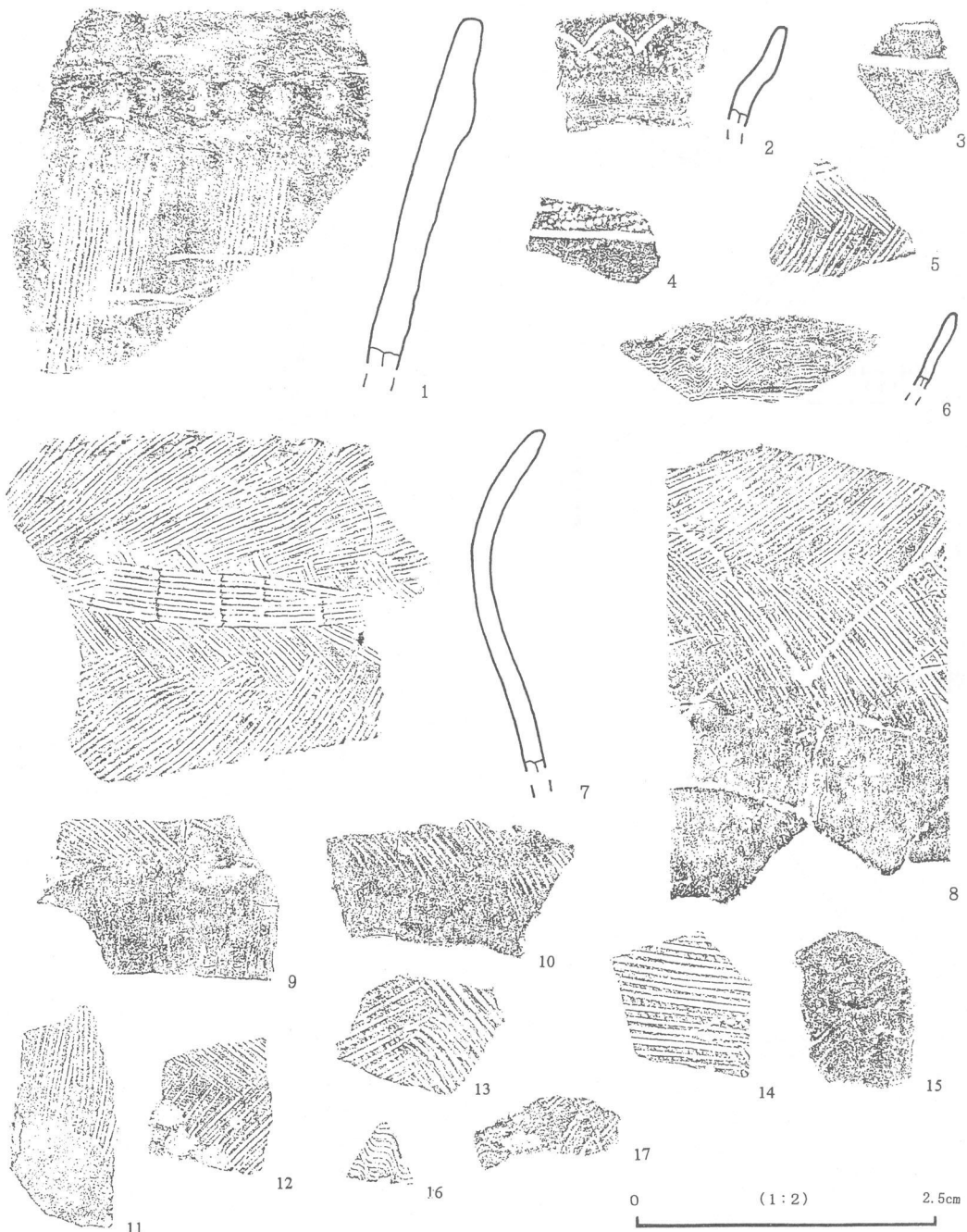
M 6号溝状遺構実測図

第 76 図 松の木遺跡M 4号溝状遺構、M 5号溝状遺構、M 6号溝状遺構実測図

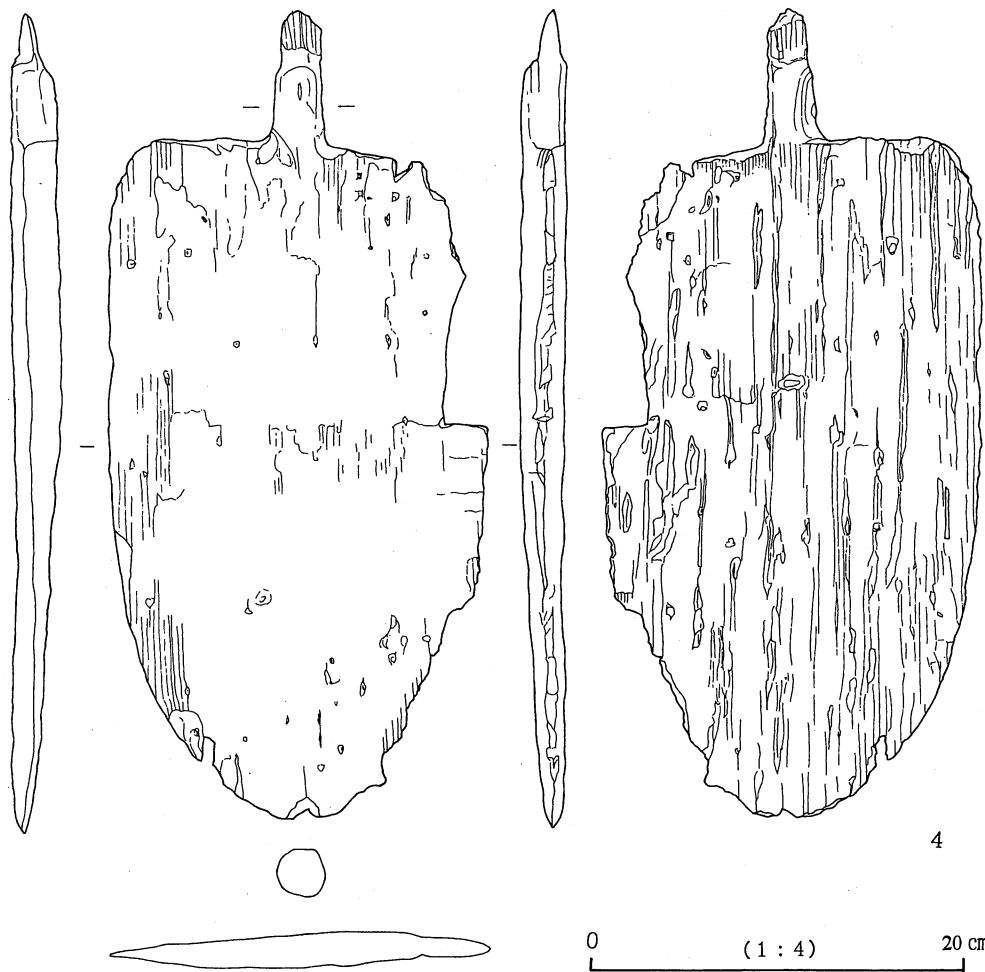
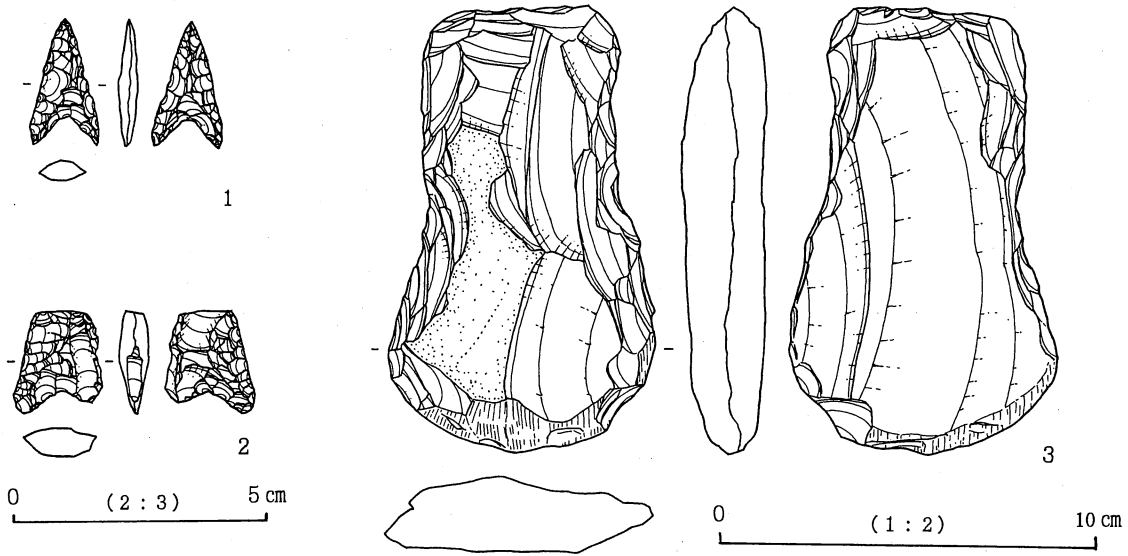
### 第3節 中長塚遺跡 I・II、松の木遺跡 I・II の出土遺物

(1) 中長塚遺跡 I・II、松の木遺跡 I・II

1 土器、木器、石器、銭貨、陶磁器



第77図 中長塚遺跡 I・II 出土土器拓影図



第78図 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ出土木器、石器実測図

第4表 中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ出土しがらみ構築材等一覧表

番号	形状・用途など	樹種	法量 (cm)	番号	形状・用途など	樹種	法量 (cm)
1	板材	サワラ	18×5×275	91	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	4~7×50
2	板材 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節		92	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	2~3×33
3	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節		93	板材	サワラ	3.5×1.5×27
4	板材 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	7×4.5×96	94	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
5	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	9×4×85	95	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	3.5×45
6	板材	サワラ	5×?×36	96	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	2×36
7				97		クロベ	
8				98	丸木	ヤナギ属	3~4×25
9				99	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	2~3.5×36
10	丸木 (加工痕)	ヤナギ属	2.5~3×56	100	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	11×200
11	板材	サワラ	8×2×83	101	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	5~10×60
12				102	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	8×4×50
13	角材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	6×6×26	103	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	10~12×310
14	丸材		?×	104	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	2.5~5×210
15	丸材 (先尖)	ヤナギ属	4~4.5×36	105	丸木 (先尖)	ヤマグワ	7~11×
16	板材 (先尖)		5×3.5×22	106			
17	板材	ヤナギ属	3×1×40	107			
18				108	角材 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	5×4×35
19	小枝 (加工痕無)	ヤナギ属	1.2~1.5×75	109			
20	小枝 (加工痕無)	ヤナギ属	1×35	110	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	10×6×255
21	小枝 (加工痕無)	ヤナギ属	1~1.2×60	111	板材 (先尖)	ヤマグワ	6×3×38
22	小枝 (加工痕無)	ヤナギ属	1×25	112	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	10×6×280
23				113	丸木	クリ	6.5~9×87
24	小枝 (先尖)	ヤナギ属	1~1.2×40	114	丸木 (加工痕無)	オニグルミ	15×240
25	小枝 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1~1.5×27	115	板材 (先尖)	モミ属	10×6×110
26	小枝 (加工痕無)	ヤナギ属	1.5~3×75	116			
27	丸材 (先尖)	草本類	5.5×34	117			
28	丸木		3~3.5×	118	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	5×2.5×26
29	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	105	119	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	3.5×3×50
30	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	2~4×150	120			
31				121	板材 (先尖)	クリ	11×5×114
32	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	2.5~3.5×60	122	板材	クリ	11×4×250
33	丸木 (加工痕無)		1.5~2.5×75	123			
34				124	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	6×4×15
35	板材	クリ	6×3×87	125			
36	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	4×55	126	丸木 (加工痕無)	クリ	6×21
37	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	1~5×120	127	丸木 (先尖)		5.5×26
38	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	7×1×35	128			
39				129	板材	サワラ	6×2×58
40				130	丸材		4.5×17
41	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	18×20×200	131	丸木	クリ	5~7×86
42				132	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	6~7×90
43	丸木 (先尖)	ヤナギ属	3.5~5×78	133			
44	丸木	ヤナギ属	4~5×27	134	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	8×7×85
45	丸木 (先尖)	ヤナギ属	3×75	135	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	5×3.5×50
46				136	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	3.5~4×60
47	丸木	ヤナギ属	3×51	137	丸木 (加工痕無)	クリ	3×12
48				138	丸木 (両先尖)		2×39
49	板材	クリ	6.5×2×10	139	板材		14×2×52
50	丸木 (加工痕無)	広葉樹	2.5~4×11	140	角材	クリ	10×7×93
51	丸木 (加工痕無)		5~6.5×72	141	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	9×3.5×70
52	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	6×1.5×25	142	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	14×2×64
53	丸木		1.5~2×37	143	丸木	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	6~11×230
54	小枝 (先尖)	ヤナギ属	1×15	144	板材	クロベ	4×2×33
55				145			
56	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	7~10×22	146			
57				147	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	6~8×54
58	板材	クリ	6×2×56	148	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	8×3×232
59	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	1.5~3.5×67	149			
60	角材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	3×31	150	板材	サワラ	9.5×1.5×53
61	板材	クリ	8×2.5×19	151	板材	サワラ	7×2×30
62				152			
63				153			
64	丸木	ヤナギ属	2~3×100	154	板材 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	8×5×121
65	丸木 (加工痕無)		2~3×179	155	板材	クロベ	
66				156	丸木 (加工痕無)	モモ	3~3.5×165
67	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	7×38	157	丸木 (加工痕無)	モモ	2.5×28
68	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	2×50	158			
69	丸木 (加工痕無)		2~3.5×33	159	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	6~8×80
70	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	3×16	160	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	3~4×56
71				161			
72				162			
73	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	11×6×116	163	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	11×
74				164	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	2~4×116
75				165	丸木 (加工痕無)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	3.5~8×18
76	丸木 (加工痕無)		3~4×88	166	丸木	モミ属	
77				167	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
78	丸木 (加工痕無)	ヤナギ属	3.5×18	168	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	4×2.5×41
79				169	丸木 (先尖)		1.5~2×20
80	角材 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	6×5×50	170			
81	板材 (先尖)	クリ	8×3×110	171	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	5×50
82	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	6×15	172			
83	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	6×2×18	173	丸木	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
84	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	6×1.2×24	174	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	2×32
85				175			
86	丸木 (加工痕無)		10×5	176	丸木 (先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	2~4×65
87	鋤先	ヤマグワ	20×2.4×42.8	177	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	8~10×143
88	角材 (先尖)	サワラ	3×2×22	178	板材		6×5×43
89	角材		2×33	179	板材		5×1.5×20
90	板材		5.5×1.2×41	180	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	3×0.8×50



第5表 中長塚遺跡 I 出土陶磁器類一覽表

番号	出土遺構	種類	時期
1	水田址 A	灰釉段皿	平安
2	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
3	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
4	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀末~14世紀前半
5	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
6	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
7	//	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
8	//	青磁碗(中国)	中世
9	//	青磁(中国)	中世
10	//	青磁鉢(中国)	15世紀(?)
11	//	山茶碗系捏ね鉢	13世紀~14世紀前半
12	//	山茶碗系捏ね鉢	13世紀~14世紀前半
13	//	山茶碗系捏ね鉢	13世紀~14世紀前半
14	//	山茶碗系捏ね鉢	13世紀~14世紀前半
15	//	山茶碗系捏ね鉢	13世紀後半~14世紀前半
16	//	渥美壺	12世紀後半~13世紀前半
17	//	中津川壺か甕	13世紀後半~14世紀
18	//	常滑(?)壺	中世
19	//	常滑壺か甕	中世
20	//	常滑壺か甕	中世
21	//	瓦質火鉢	14世紀後半~15世紀
22	//	瓦質火鉢	14世紀後半~15世紀
23	//	古瀬戸瓶子(中期様式I・II期)	13世紀末~14世紀初頭
24	//	古瀬戸水注(?) (中期様式I・II期)	13世紀末~14世紀初頭
25	//	古瀬戸瓶子(前期~中期様式)	13世紀~14世紀前半
26	//	古瀬戸鉢(後期様式I期)	14世紀後半
27	//	古瀬戸鉢(後期様式I期)	14世紀後半
28	//	古瀬戸平瓶(大型)(後期様式I~II期)	14世紀後半~15世紀初頭
29	//	古瀬戸平碗(?)	14世紀後半~15世紀前半(?)
30	//	古瀬戸平碗(?)	14世紀後半~15世紀
31	//	古瀬戸平碗	14世紀後半~15世紀
32	//	古瀬戸天目茶碗	14世紀後半~15世紀
33	//	古瀬戸碗(後期様式II~IV期)	15世紀
34	//	古瀬戸緑釉小皿	15世紀
35	//	瀬戸美濃連房志野皿	17世紀前半
36	//	瀬戸美濃連房志野皿	17世紀
37	//	瀬戸美濃連房志野織部皿	17世紀前半
38	//	瀬戸美濃連房志野菊皿	17世紀前半
39	//	瀬戸美濃連房志野菊皿	17世紀前半
40	//	瀬戸美濃連房灰釉碗	18世紀
41	//	瀬戸美濃連房灰釉碗	18世紀
42	//	瀬戸美濃連房碗	18世紀
43	//	瀬戸美濃連房德利	18世紀後半~19世紀前半
44	//	瀬戸美濃連房播り鉢(円盤)	18世紀後半
45	//	瀬戸美濃連房播り鉢	18世紀後半
46	//	瀬戸美濃連房播り鉢	18世紀後半
47	//	瀬戸美濃連房灰釉碗	近世
48	//	瀬戸美濃連房灰釉碗	近世
49	//	瀬戸美濃連房灰釉碗	近世
50	//	瀬戸美濃連房碗	近世
51	//	瀬戸美濃連房碗	近世
52	//	瀬戸美濃連房皿(?)	近世
53	//	瀬戸美濃連房型打皿	近世
54	//	瀬戸美濃連房鉄釉碗	近世
55	//	瀬戸美濃連房鉄釉碗	近世
56	//	瀬戸美濃連房鉄釉碗	近世
57	//	瀬戸美濃連房鉄釉碗	近世
58	//	瀬戸美濃連房鉄釉碗	近世
59	//	瀬戸美濃連房鉄釉碗	近世
60	//	瀬戸美濃連房鉄釉碗	近世
61	//	瀬戸美濃連房播り鉢	近世
62	//	瀬戸美濃連房播り鉢	近世
63	//	瀬戸美濃連房播り鉢	近世
64	//	瀬戸美濃白磁	19世紀
65	//	瀬戸美濃染付(?)	19世紀
66	//	瀬戸美濃上絵付碗	19世紀中頃
67	//	瀬戸美濃染付(?)猪口(?)	19世紀
68	//	瀬戸美濃連房	近世
69	//	瀬戸美濃連房	近世
70	//	瀬戸美濃産	不明

番号	出土遺構	種類	時期
71	水田址A	伊万里瓶(Ⅲ～Ⅳ期)	17世紀後半～18世紀
72	//	伊万里碗(Ⅳ期)	18世紀
73	//	伊万里碗(Ⅳ期)	18世紀
74	//	伊万里碗(Ⅳ期)	18世紀前半
75	//	伊万里Ⅳ期陶胎碗	18世紀後半
76	//	伊万里碗	近世
77	//	伊万里	近世
78	//	伊万里一輪差し(?)	近世
79	//	伊万里碗	近世
80	//	伊万里皿	近世
81	//	伊万里碗	近世
82	//	伊万里碗	近世
83	//	伊万里(?)瓶類(?)	近世
84	//	唐津三島手鉢	18世紀
85	//	肥前産陶器碗	17世紀後半～18世紀前半
86	//	肥前産陶器碗	近世
87	//	肥前産陶器碗	近世
88	//	肥前産陶器碗	近世
89	//	肥前産陶器碗	近世
90	//	肥前産陶器碗	近世
91	//	産地不明灰釉碗	近世
92	//	産地不明灰釉碗	近世
93	//	産地不明灰釉碗	近世
94	//	産地不明灰釉碗	近世
95	//	産地不明灰釉碗	近世
96	//	産地不明灯明皿	18世紀後半～19世紀前半
97	//	在地産火鉢類(?)	近世(?)

第6表 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ出土陶磁器類一覧表

番号	出土遺構	種類	時期
1	水田面址	白磁碗(V類)	11世紀後半～12世紀前半
2	表土	龍泉窯系画文青磁碗	12世紀後半
3	お-45	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
4	あ-37	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
5	か-40	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀
6	え-47	龍泉窯系蓮弁文青磁碗	13世紀～14世紀前半
7	き-12	青磁碗	15世紀前半
8	き-12	瓦質火鉢(?)	中世
9	H9検出面	常滑壺か甕	中世
10	あ-37	常滑壺か甕	中世
11	水田址	瀬戸美濃連房灰釉碗	近世
12	お-45	瀬戸美濃連房灰釉碗	近世
13	あ-39	瀬戸美濃連房播り鉢	近世
14	か-39	瀬戸美濃	不明
15	い-44	伊万里染付碗(V期)	18世紀末～19世紀前半
16	い-43	瀬戸美濃上絵付	19世紀中頃以降

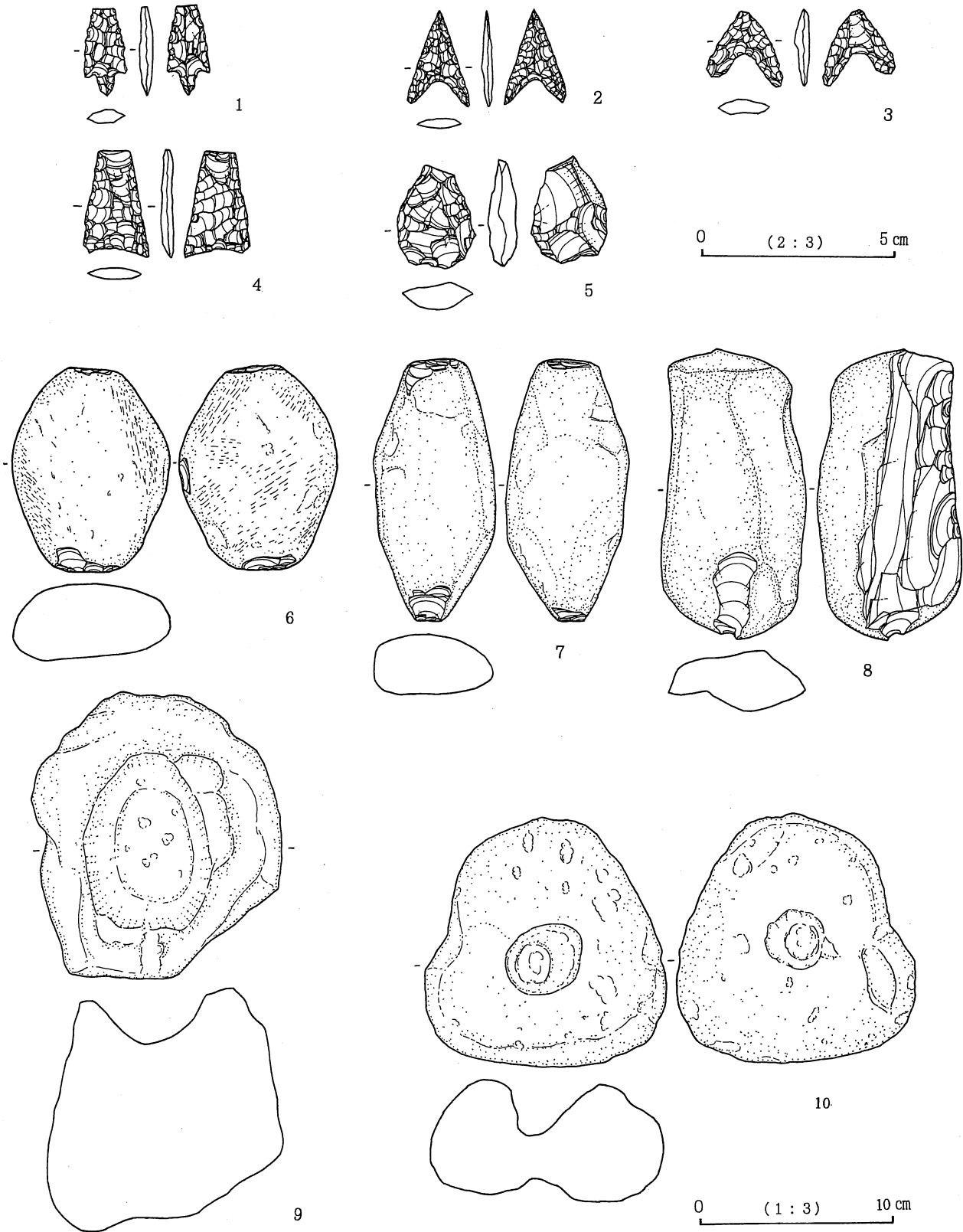
第7表 中長塚遺跡I・松の木遺跡I出土銭貨一覧表

挿図 番号	銭名(字体)	初鑄年(西暦)	時代	法量			背文	出土遺構
				銭径	内径	重さ		
1	開元通宝(真)	武德四年(621)	唐	20.5	20.1	3.36		No.23(水田址A)
2	祥符元宝(真)	大中祥符元年(1008)	北宋	20.4	10.95	2.02		No.10(水田址A)
3	至和通宝(真)	至和元年(1054)	北宋	20.45				No.24(水田址A)
4	嘉祐元宝(真)	嘉祐元年(1056)	北宋	20.35		2.08		No.17(水田址A)
5	元祐通宝(行)	哲宗元祐元年(1086)	北宋	20.5		2.13		No.29(水田址A)
6	元祐通宝(篆)	哲宗元祐元年(1086)	北宋	20.4		3.02		松の木遺跡水田址
7	紹聖元宝(篆)	紹聖元年(1094)	北宋	20.3	10.9	2.07		No.22(水田址A)
8	紹聖元宝(行)	紹聖元年(1094)	北宋	20.4	10.9	2.61		No.28(水田址A)
9	聖宋元宝(行)	建中靖国元年(1101)	北宋			2.12		No.18(水田址A)
10	洪武通宝(真)	太祖洪武元年(1368)	明	20.3	10.8	3.41	一銭	No.9(水田址A)
11	永楽通宝(真)	成祖永楽六年(1408)	明	20.5	20.1	2.70		No.26(水田址A)
12	寛永通宝			20.25	10.95	1.28		No.1(水田址A)
13	寛永通宝			20.4	20.0	1.69		No.2(水田址A)
14	寛永通宝			20.35	10.9	2.25		No.3(水田址A)
15	寛永通宝			20.25		1.54		No.4(水田址A)
16	寛永通宝			20.45	20.0	3.08		No.5(水田址A)
17	寛永通宝					1.01		No.11(水田址A)
18	寛永通宝			20.3	10.95	1.53		No.13(水田址A)
19	寛永通宝			20.4	10.95	2.64		No.15(水田址A)
20	寛永通宝			20.3		1.32		No.16(水田址A)
21	寛永通宝			20.4	10.95	2.41		No.19(水田址A)
22	寛永通宝			20.4	10.9	1.88		No.20(水田址A)
23	寛永通宝							表採(中長塚遺跡)
24	寛永通宝			20.3		2.32		松の木遺跡I
25	無文銭					0.80		No.27(水田址A)
26	不明			20.2		1.84		No.8(水田址A)
27	不明			20.3		1.57		No.12(水田址A)
28	不明							No.14(水田址A)



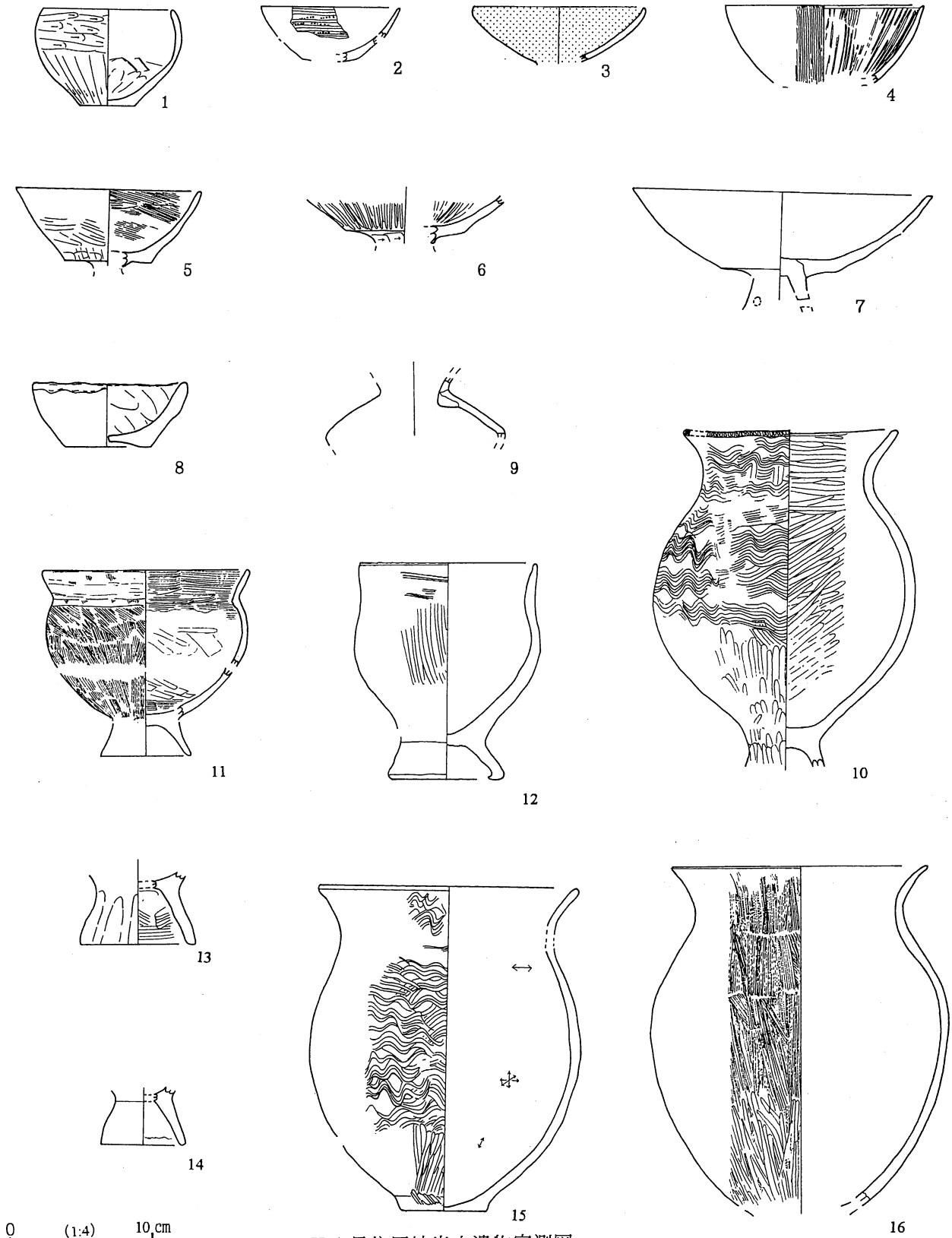
(2) 松の木遺跡 I・II

1 土器、石器



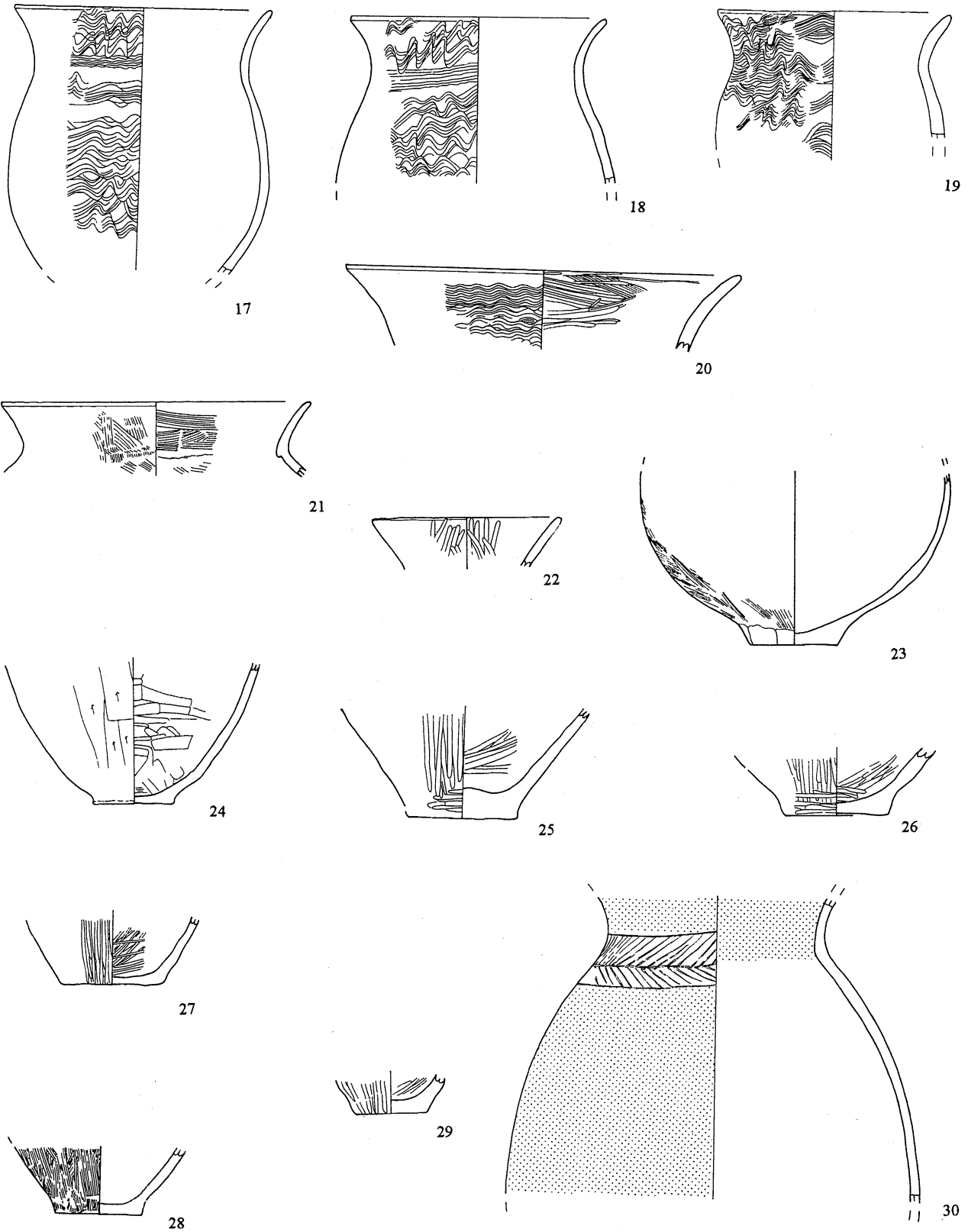
第 80 図 松の木遺跡 I・II 出土遺物実測図

H 1 号住居址



H 1 号住居址出土遺物実測図  
 第 81 図 松の木遺跡 I H 1 号住居址出土遺物実測図

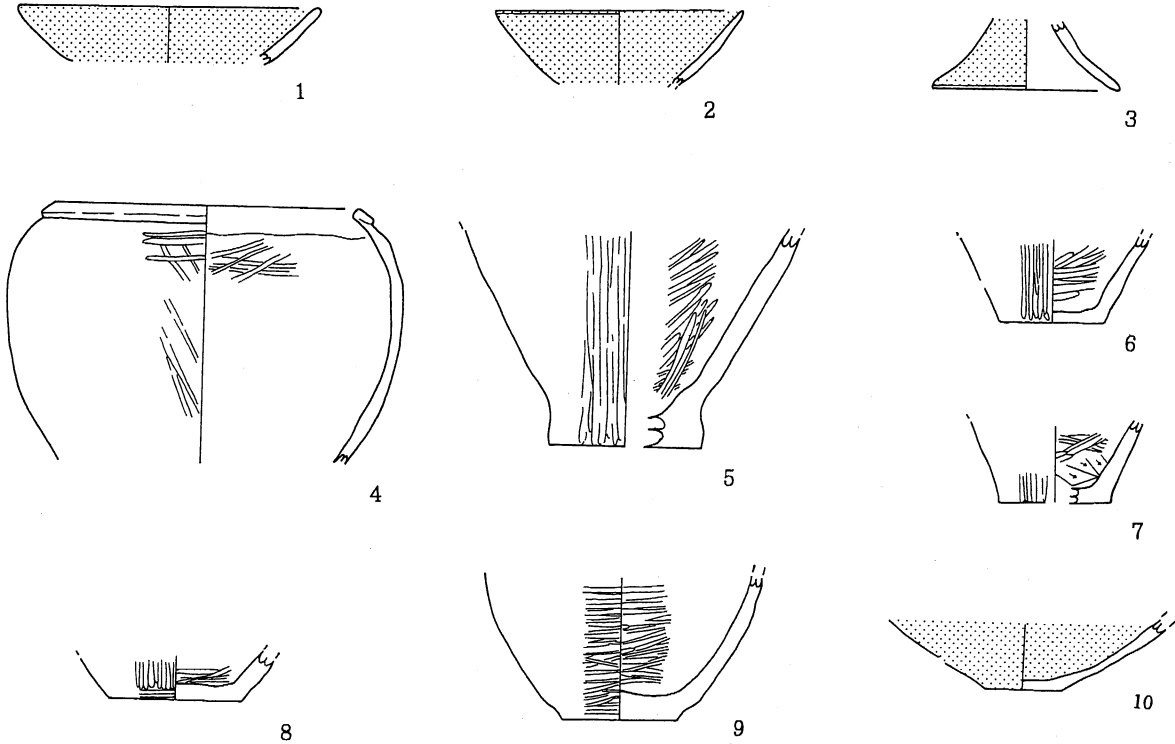
H 1 号住居址



H 1 号住居址出土遺物実測図  
 第 82 図 松の木遺跡 I H 1 号住居址出土遺物実測図

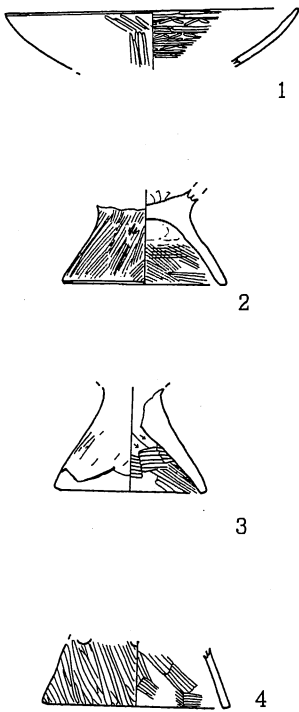
0 (1:4) 10 cm

H 2号住居址



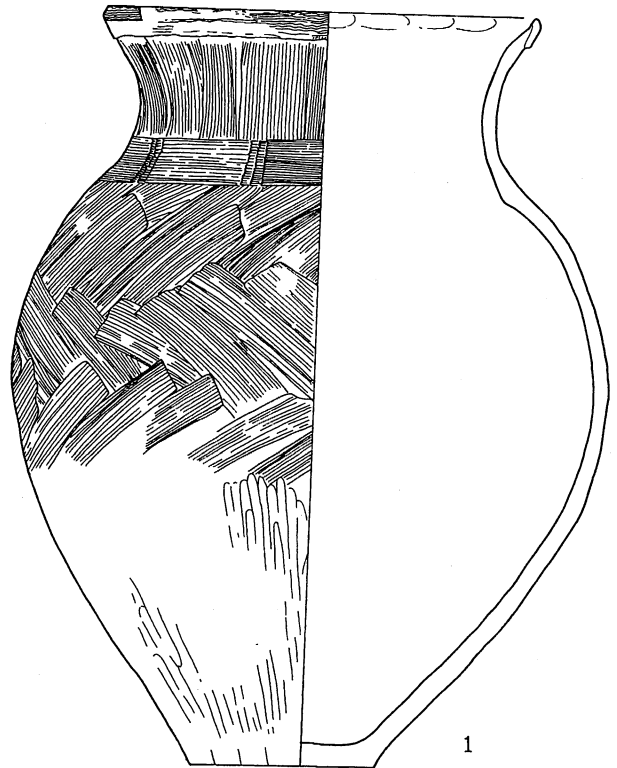
H 2号住居址出土遺物実測図

H 3号住居址



H 3号住居址出土遺物実測図

H 4号住居址



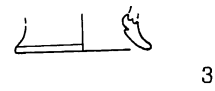
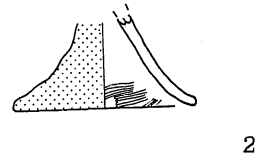
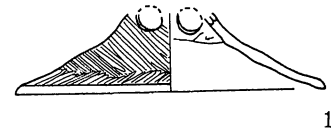
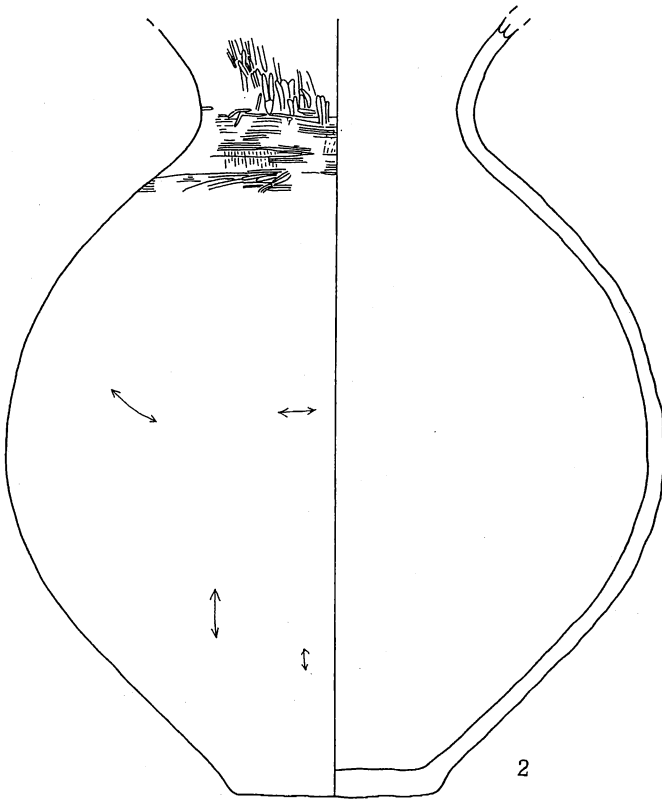
H 4号住居址出土遺物実測図

第 83 図 松の木遺跡 I H 2号・H 3号・H 4号住居址出土遺物実測図 0 (1:4) 10cm



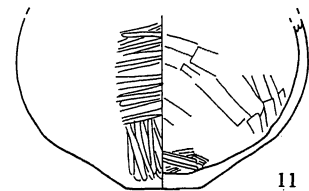
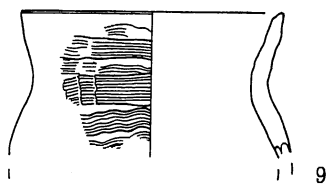
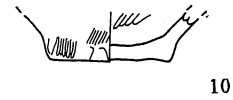
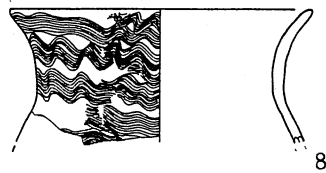
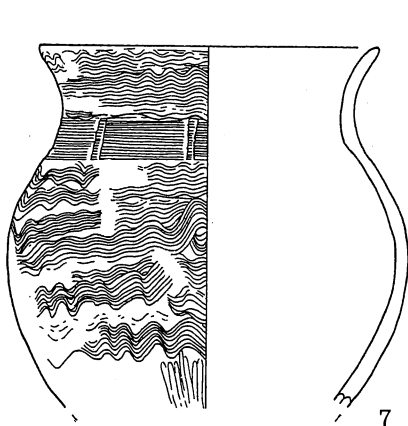
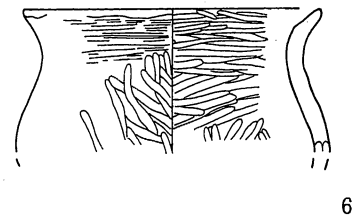
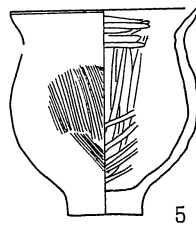
H 4 号住居址

H 5 号住居址



H 4 号住居址出土遺物実測図

H 5 号住居址

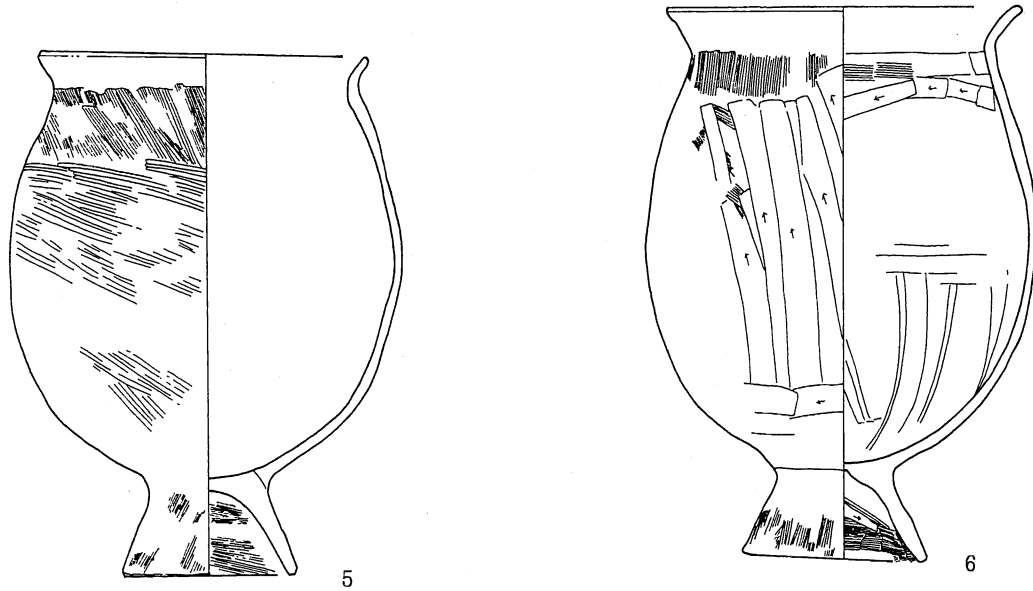
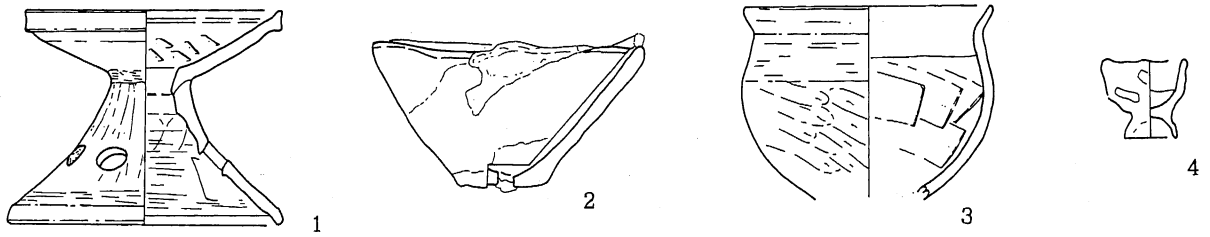


H 5 号住居址出土遺物実測図

第 84 図 松の木遺跡 I H 4 号・H 5 号住居址出土遺物実測図

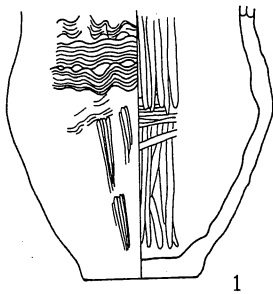
0 (1:4) 10 cm

H 6号住居址



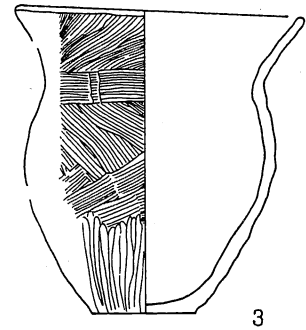
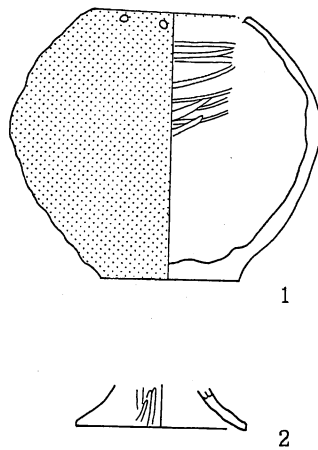
H 6号住居址出土遺物実測図

H 7号住居址



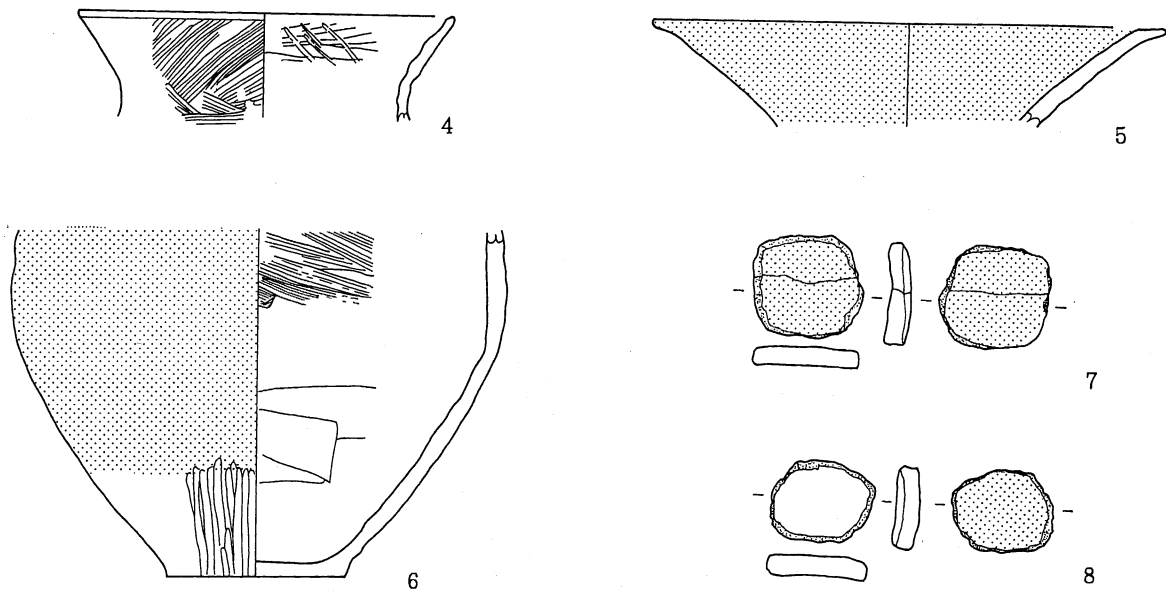
H 7号住居址出土遺物実測図

H 8号住居址

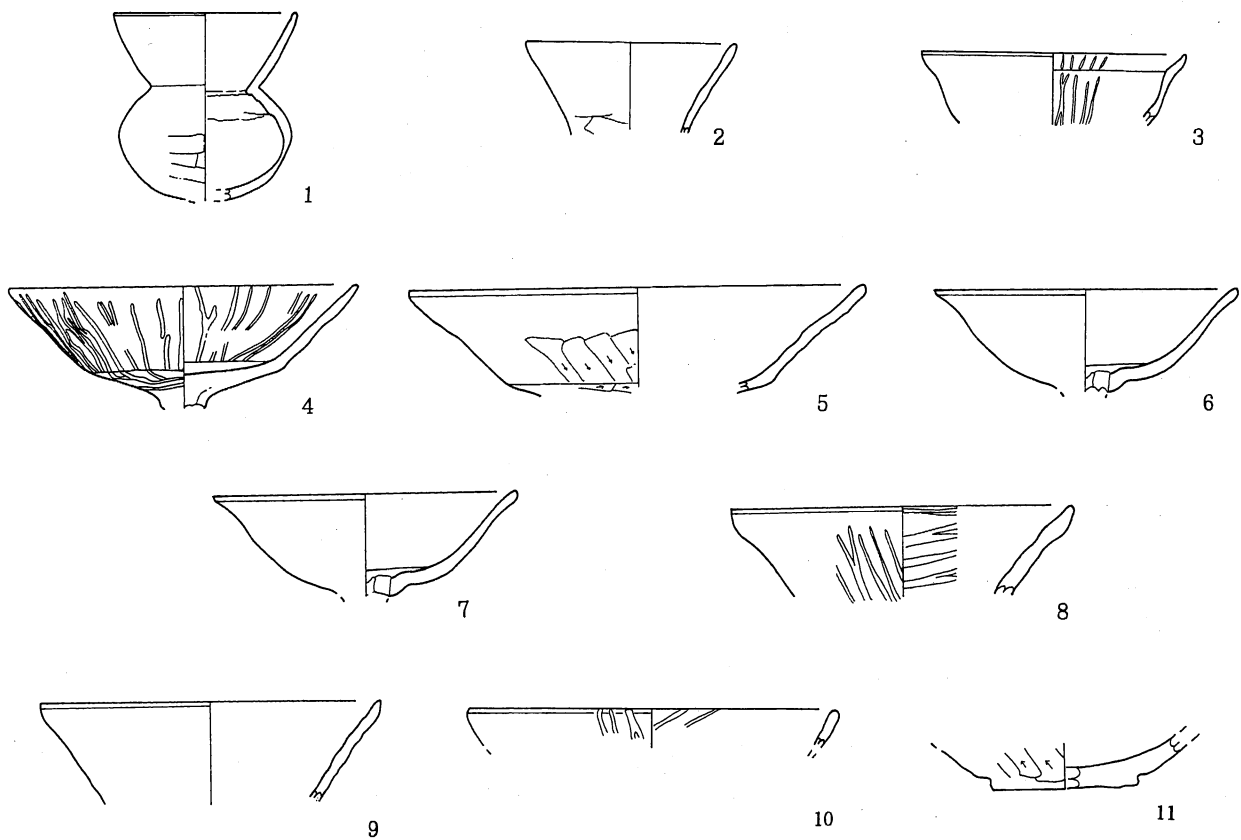


0 (1:4) 10 cm

第 85 図 松の木遺跡 I H 6号、松の木遺跡 II H 7号・H 8号住居址出土遺物実測図



H 9号住居址

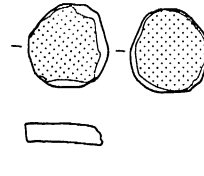
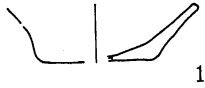


0 (1:4) 10 cm

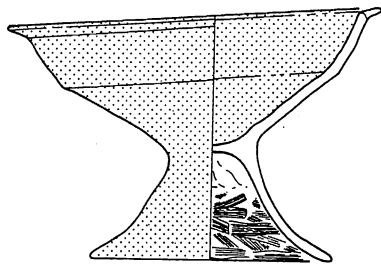
第 86 図 松の木遺跡Ⅱ H 8号・H 9号住居址出土遺物実測図

H 10 号住居址

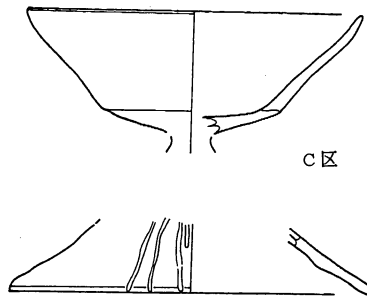
M 5 号溝状遺構



グリッド



B-い-9

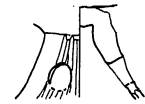


C区

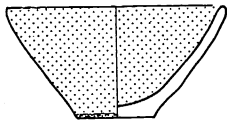
B-か-10.12 層



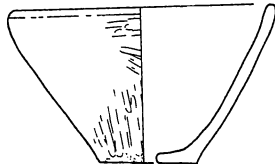
B-く-50



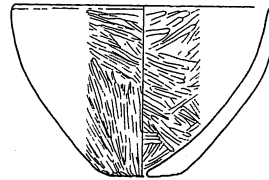
B-く-49



B-え-9



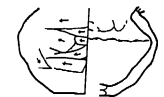
B-お-8



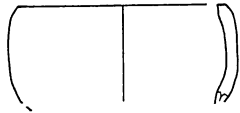
B-い-9



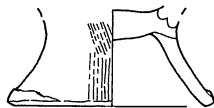
B-え-12



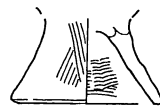
B-く-49



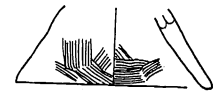
B-き-50



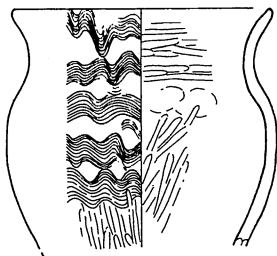
B-お-47 う-47



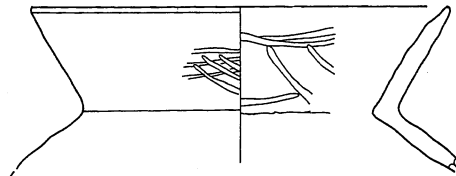
B-え-46 お-46



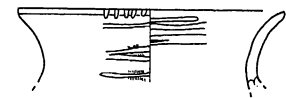
B-い-45



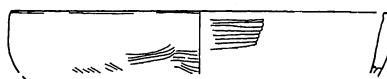
B-う-11 え-12 お-12



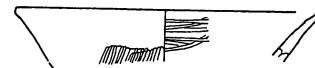
B-か-10



B-く-50



B-く-49

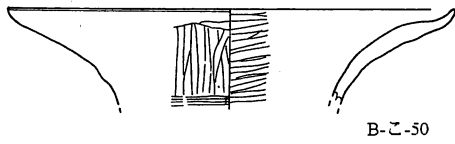


B-え-46

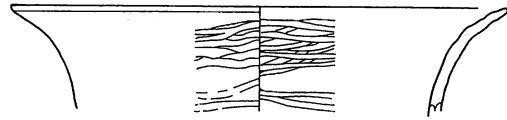
0 (1:4) 10 cm

第 87 図 松の木遺跡Ⅱ H 10 号住居址、M 5 号溝状遺構、グリッド出土遺物実測図

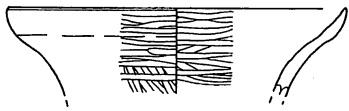
グリッド



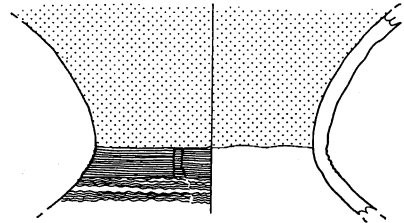
B-こ-50



B-し-55



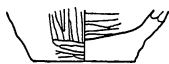
B-こ-48



B-く-49



B-か-10.12 層



B-う-48



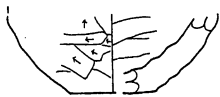
B-う-47



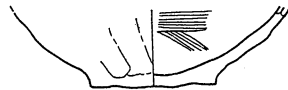
B-う-49



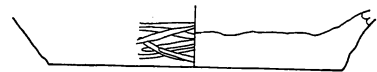
B-か-10.12 層



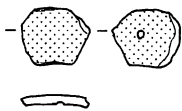
B-う-49



B-お 46



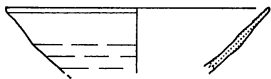
B-う-47



B-う-47



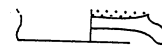
B-か-10.12 層



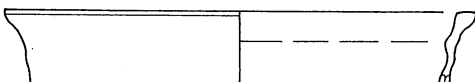
B-か-10.12 層



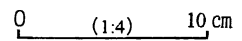
B区



A区水田跡



A区水田跡



第 88 図 松の木遺跡 I・IIグリッド出土遺物実測図

## 9 H9号住居址

本住居址は、か〜くー8・9グリッド、全体層序X層上面から検出された。M5号溝状遺構に南壁東壁付近を破壊される。規模は、南北6.2m 東西6.46m のやや東西に長いものの隅丸方形を呈し、壁高は3〜23cmを測り、主軸方位はN-30°-Wを示す。覆土は3層に分層された。床面はX層を堅く敲き締めて構築されている。堀方はない。

ピットは8個検出され、P1〜P3が主柱穴である。深さは35〜54cmと深く、方形に配される。南西壁下のP6内にはさらに2個のピットがあり、入り口施設に関したものであろうか。深さは西側が53.5cm、東側が27cmを測る。P4は36cm、P5は43cm、P8は12cmの深さである。床面上に炭化材がみられ、覆土1層・2層に焼土ブロックや炭が多量にみられることから、焼失した住居と思える。

炉は北側主柱穴のP1とP2の中央に位置する。地床炉である。

遺物は、甕(第86図11)、壺(8・9)、高坏(4〜7)、小形丸底壺(1・2)等が図示できた。

古墳時代中期、5世紀中葉に位置づけられよう。

## 10 H10号住居址

本住居址は、おー6グリッド、全体層序VIII層から検出された。規模は、南北推定(4.0m)を測るが大半は、調査対象地外にある。壁高は18〜35cmを測り、長軸方位は推定N-25°-Wを示す。覆土は3層に分層された。床面上に炭化材がみられ、覆土1層からは焼土ブロックや炭が多量にみられることから、焼失した住居と思える。

遺物は、甕と思われる第87図1が図示できたのみである。

## (2) 掘立柱建物址

### 1 F1号掘立柱建物址

い・うー39・40グリッドから検出された。1間×1間の東西棟で、東西4.8m 南北3.2mの長方形で、長軸方位はN-88°-Eを示す。柱穴は円形を呈し、径46cm〜104cm、深さ23cm〜29cmを測る。

## (3) 土坑

### 1 D1号土坑

あー38・39グリッドから検出された。M2号溝状遺構に北を破壊される。長径推定2.8m 短径1.84m 深さ36〜43cmを測る。

### 2 D5号土坑

い・うー40グリッドから検出された。M2号溝状遺構に北を破壊される。長径推定2.06m 短径0.88m 深さ3〜8cmを測る。

## (4) 溝状遺構

### 1 M1号溝状遺構

い〜かー49・50グリッドから検出され、東西に伸びる。幅90〜130cm 深さ21.5〜42.5cmを測る。松の木遺跡IIIの調査で、東西70mを越える前方後円の形をしたものであることが判明した。

### 2 M2号溝状遺構

あ・いー38グリッドから検出され、東西に伸びる。幅14〜50cm 深さ3〜17.5cmを測る。

### 3 M3号溝状遺構

う〜きー39グリッドから検出され、東西に伸びる。幅60〜180cm 深さ1〜32.5cmを測る。自然流路のようであるが砂が少ない。

### 4 M4号溝状遺構

お・かー4・5グリッドから検出され、南北に伸びる。幅34〜72cm 深さ5〜24cmを測る。覆土から自然流路とみえる。

### 5 M5号溝状遺構

お・かー4〜12グリッドから検出され方形の区画溝を思わせるが大半は東の調査区外に伸びる。幅50〜150cm 深さ6〜76.5cmを測る。H8〜H9号住居址を破壊する。底面には砂の堆積がみえる。

### 6 M6号溝状遺構

うー39・40グリッドから検出され、南北に伸びる。幅64〜84cm、深さ2〜10cmを測る。

## はじめに

中長塚遺跡・松ノ木遺跡から出土した種実ならびに木材の種類を知り、軽石流堆積時の古植生や弥生時代以降の用材や植物利用に関する情報を得るために、同定を実施した。

## I. 中長塚遺跡の樹種同定

## 1. 試料

試料は、出土した弥生時代以降の木製品類115点と、軽石流堆積物中（小諸第1か第2か不明）から出土した自然木5点である。軽石流堆積物中の自然木は、乾燥した状態であった。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表1に示す。

## 2. 方法

木製品類については、各試料の破損部などを利用して5mm角程度の木片を採取した。また、接合する場合には、接合面から1cm角程度の木片を採取した。軽石流堆積物中の自然木は、1cm角程度の木片を採取した後、蒸留水に浸して水分を浸透させた。

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製した。軽石流堆積物中の自然木については、切片をグリセリン水溶液で煮沸し、内部の気泡を除去した。各試料の切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバラートを作製した。作製したプレバラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

## 3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。試料番号50は、道管を有することから広葉樹剤であるが、保存状態が悪く、種類の同定には至らなかった。また、試料番号27に付着していた植物片は、組織の特徴から草本類と考えられる。その他の試料は、針葉樹5種類（マツ属単維管束亜属・モミ属・トウヒ属・サワラ・クロベ）と広葉樹7種類（オニグルミ・ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ヤマグワ・モモ）に同定された。各種類の「主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属単維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Haploxyton*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり、放射仮道管内壁は滑らか。放射組織は単列、1～15細胞高。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。傷害樹脂道が認められる試料がある。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・トウヒ属 (*Picea*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射組織の細胞壁は厚く、じゅず状末端壁が認められる。放射仮道管の有縁壁孔のフチは主としてトウヒ型。分野壁孔はトウヒ型で、1分野に3～6個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・クロベ (*Tsuga standishii* (Gord.) Carriere) ヒノキ科クロベ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim subsp. *sieboldiana* (Maxim) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管は比較的大径、単独または2～4個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近でやや急に管径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性～異性Ⅲ型、1～4細胞幅、1～40細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15細胞高。

番号	形状・用途など	樹種	番号	形状・用途	樹種
A	軽石流堆積物(自然木)	マツ属単維管束亜属	93	自然木	サワラ
B	軽石流堆積物(自然木)	トウヒ属	94	自然木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
C	軽石流堆積物(自然木)	トウヒ属	95	自然木	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
D	軽石流堆積物(自然木)	モミ属	96	自然木	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
E	軽石流堆積物(自然木)	マツ属単維管束亜属	97	自然木	クロベ
1	板材	サワラ	98	丸木	ヤナギ属
2	板材(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	99	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
3	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	100	丸木(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
4	板材(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	101	丸木(加工痕無)	ヤナギ属
5	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	102	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
6	板材	サワラ	103	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
10	丸木(加工痕)	ヤナギ属	104	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
11	板材	サワラ	105	丸木(先尖)	ヤマグワ
13	角材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	108	角材(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
15	丸材(先尖)	ヤナギ属	110	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
17	板材	ヤナギ属	111	板材(先尖)	ヤマグワ
19	小枝(加工痕無)	ヤナギ属	112	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
20	小枝(加工痕無)	ヤナギ属	113	丸木	クリ
21	小枝(加工痕無)	ヤナギ属	114	丸木(加工痕無)	オニグルミ
22	小枝(加工痕無)	ヤナギ属	115	丸木(先尖)	モミ属
24	小枝(先尖)	ヤナギ属	118	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
25	小枝(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	119	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
26	小枝(加工痕無)	ヤナギ属	121	板材(先尖)	クリ
27付着		草本類	122	板材	クリ
29	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	124	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
30	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	126	丸木(加工痕無)	クリ
32	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	129	板材	サワラ
35	板材	クリ	131	丸木	クリ
36	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	132	丸木(先尖)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
37	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	134	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
38	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	135	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
41	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	136	丸木(加工痕無)	ヤナギ属
43	丸木(先尖)	ヤナギ属	137	丸木(加工痕無)	クリ
44	丸木	ヤナギ属	140	角材	クリ
45	丸木(先尖)	ヤナギ属	141	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
47	丸木	ヤナギ属	142	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
49	板材	クリ	143	丸木	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
50	丸木(加工痕無)	広葉樹	144	板材	クロベ
52	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	147	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
54	小枝(先尖)	ヤナギ属	148	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
56	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	150	板材	サワラ
58	板材	クリ	151	板材	サワラ
59	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	154	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
60	角材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	155	板材	クロベ
61	板材	クリ	156	丸木(加工痕無)	モモ
64	丸木	ヤナギ属	157	丸木(加工痕無)	モモ
67	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	159	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
68	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	160	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
70	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	163	丸木(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
73	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	164	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
78	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	165	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
80	角材(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	166	丸木	モミ属
81	板材(先尖)	クリ	167	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
82	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	168	角材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
83	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	171	丸木(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
84	板材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	173	丸木	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
87		ヤマグワ	174	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
88	角材(先尖)	サワラ	176	丸木(先尖)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
91	丸木(加工痕無)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	177	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
92	丸木(加工痕無)	ヤナギ属	180	板材	コナラ属コナラ亜属コナラ節

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*)      ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*)      ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)      ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互



状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poirét)  
クワ科クワ属

環孔材で孔圏部は1～5列、晩材部への移行は緩やかで、年輪界へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、1～6細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・モモ (*Prunus salicina* Lindley)

バラ科サクラ属

環孔性散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が3～4列配列し、やや急激に管径を減じた後、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または2～5個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～6細胞幅、1～70細胞高。

#### 4. 考察

##### (1) 軽石流期の古植生

軽石流堆積物（小諸第1か第2のどちらかと思われる）中の自然木は、いずれもマツ科針葉樹で、トウヒ属、単維管束亜属（ゴヨウマツ類）、モミ属が認められた。軽石流期の埋没樹については、市内の寄山遺跡でも出土しており、トウヒ属が確認されている。また、軽井沢町では、軽石流期の降下テフラに覆われた泥炭層および埋没林の調査が行われており、トウヒ属（バラモミ節）、単維管束亜属（ハイマツ）を主とした植生が推定されている（辻ほか, 1983; 那須・百原, 1998）。これらの結果から、軽石流に覆われる以前の本地域には、これらの針葉樹を主とした植生が見られたことが推定される。

##### (2) 木製品類の用材

弥生時代以降の木製品類は、板材、角材、小枝、用途不明に分類される。それぞれの用途では、先端が尖るもの、加工痕のあるものと無いもの等の分類がされている。これらの木製品類には、針葉樹3種類と広葉樹7種類が認められた。各用途別の種類構成を表2に示す。

種類別に見ると、針葉樹材では、一部を除いてそのほとんどが板材に利用されている。針葉樹材は一般に木理が通直で板状の加工が容易であることから、針葉樹材の材質を考慮した用材選択が行われたものと考えられる。一方、広葉樹材では、ヤナギ属、クヌギ節、コナラ節、クリが比較的多く見られる。ヤナギ属を除く各種類は、強度に優れた材質を有し、クリでは耐朽性も高い。そのため、強度や耐朽性を考慮した用材が推定される。用途別にみると、ヤナギ属とクヌギ節は丸木、コナラ節とクリは板材に比較的多く見られる。このことから、用途によって利用される種類が異なっていた可能性がある。佐久盆地および周辺地域では、これまでも各時代の住居構築材などについて樹種同定が行われている（パリノ・サーヴェイ株式会社, 1988a, 1988b, 1989a, 1989b, 1991, 1992a, 1993, 1994a, 1994b, 1994c, 1995; 藤根, 1994; 高橋・辻本, 1998, 1999; 高橋, 2000a, 2000b）。その結果を見ると、クヌギ節とコナラ節は、弥生時代以降大量に利用されているが、その利用方法に大きな違いは認められない。そのため、今回の結果では、意図的に用材が異なっていたのかどうか、詳細は不明である。

板材に見られたヤマグワは、その形状から鋤の身と考えられる。鋤・鋤類については、県内の石川条里遺跡で多くの樹種同定が行われている（能城・鈴木, 1997）。しかし、その結果ではヤマグワは認められていない。また、鋤・鋤類については、県外でも多くの地域で樹種同定が行われているが、同様にヤマグワの出土例は報告されていない（島地・伊東, 1988）。鋤の民俗事例では、耕地の種類、目的等に応じて形状等が異なる（鎌形, 1979）。これと同様に、耕地の種類や目的に応じて鋤の材質を変え、本地域ではその一つとしてヤマグワが利用されていた可能性がある。しかし、現時点で詳細は不明である。

丸木材にはモモが2点認められている。モモは中国から渡来した栽培植物とされる。市内では、聖端遺跡や聖原遺跡などで出土例が報告されており、栽培されていたことが推定される。また、モモの木材は聖原遺跡の住居跡からも出土しており、住居構築材として利用されていたことが明らかとなっている。また、屋代遺跡群では、モモの核が祭祀的な遺構から出土していることから（辻ほか, 1999）、木材の利用についても信仰などが関係している可能性が指摘されている（高橋, 2000b）。本遺跡でも、何らかの用材としてモモが利用されていたことが推定され、その背景に信仰などが関係している可能性もある。

表2 用途別種類構成

層位	形状・用途	単維管束亜属	モミ属	トウヒ属	サワラ	クロベ	オニグルミ	ヤナギ属	クヌギ節	コナラ節	クリ	ヤマグワ	モモ	広葉樹	草本類	合計
		軽石流堆積物	自然木	2	1	2										
合 計	板材				7	2		1	5	15	5					35
	先尖								2	2	1					5
	角材								2	5	1					8
	先尖				1					2						3
	小枝							5	1							6
	加工痕無							2								2
	先尖							4	2	5	2					14
	丸木		1					1								1
	加工痕							1	10	10	2	2	2	1		28
	加工痕無							3	1	4			1			10
先尖		1													1	
不明						1						1			1	
不明																3
合 計		2	3	2	8	3	1	26	21	35	12	3	2	1	1	120

## II. 松ノ木遺跡の種実同定

### 1. 試料

試料は、中世の遺構などから出土した 19 点である。試料については、結果とあわせて表 3 に示す。

### 2. 分析方法

双眼実体顕微鏡下でその形態的特長から種類を同定する。

### 3. 結果

結果を表 3 に示す。なお、表中で「破」としたものは、微細な破片であることを意味する。以下に検出された種類の形態的特長を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim subsp.

*sieboldiana* (Maxim) Kitamura) クルミ科

炭化した核の破片が検出された。灰色で木質。非常に堅い。大きさは 1 cm 程度で、表面は荒いしわ状となる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

炭化した核の破片が検出された。褐色～黒褐色で大きさは 1 cm 程度。木質で堅く、表面は不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

・サンショウ (*Zanthoxylum piperitum* DC.) ミカン科サンショウ属

炭化した核が検出された。黒褐色で楕円形。大きさは 2 mm 程度。表面は堅く、浅い不規則な網目模様がみられる。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさ 4 mm 程度。楕円形であるが、胚の痕跡部分が欠けたように見える。表面には数本の筋がみられる。

・オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

炭化した胚乳が検出された。炭化しており、大きさは 6 mm 程度。紡錘形で先端部は尖り基部は丸い。片側には 1 本の深い溝があり、その反対側の基部には胚の痕跡がありまるくくぼむ。

・コムギ (*Triticum aestivum* L.) イネ科コムギ属

炭化した胚乳が検出された。炭化しており、大きさは 4 mm 程度。楕円形で全体的に丸みを帯びている。片側には 1 本の深い溝があり、その反対側胚の痕跡がある。なお、保存状態が悪く、オオムギとの判別が難しいものはムギ類とした。

・キケマン属 (*Corydalis* DC.) ケシ科

種子が検出された。黒色。側面観は円形で、上面観は凸レンズ形を呈している。大きさは 3 mm 程度。側面に「へそ」がある。表面は細胞が亀甲状に配列している構造がみられる。

・マメ類 (*Leguminosae* sp.)

炭化した種子が検出された。大きさは 5 mm 程度。扁平な楕円形で、側面に縦長の「へそ」が存在する。

### 4. 考察

検出された種実はイネが最も多い。また、他に検出される種類も、ほとんどが有用植物である。検出された種類のうち、オニグルミ、モモ、サンショウ、イネ、オオムギ、コムギ、マメ類は可食植物である。この中でも特にモモ、イネ、オオムギ、コムギ、マメ類は、栽培のため渡来した種類であり、これらは当時食用として利用されていたことが伺われる。イネは、小諸市の鋳物師屋遺跡 (氏原, 1988) や竹花遺跡 (バリノ・サーヴェイ株式会社, 1994d) など多量に出土している。いずれも古代に属するものであるが、形状は現在よりも小型で短粒であり、今回調査した中世のものと同様である。

佐久市およびその周辺地域での種実遺体の報告例をみると、佐久市の下聖端遺跡 (氏原・廣瀬, 1992; バリノ・サーヴェイ株式会社, 1992b)、小諸市の竹花遺跡などの報告 (バリノ・サーヴェイ株式会社, 1994a)、佐久市芝宮遺跡群 (藤原, 1999) などの成果がある。これらは奈良・平安時代から検出された炭化種実が多いが、今回遺跡から検出された種類と比較すると、ほとんどの種類が重なっており、当時広く栽培されていたことが伺われる。なお、キケマン属は人里近くに普通にみられる種類 (いわゆる雑草) であるが、炭化していないことから、遺構の廃絶後、埋積が進む過程で混入したと考えられ、後代のものである可能性が高い。

表 3 種実同定結果

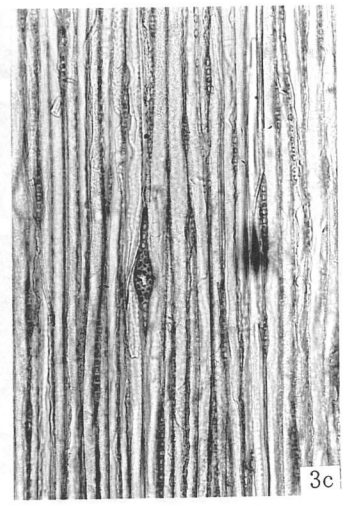
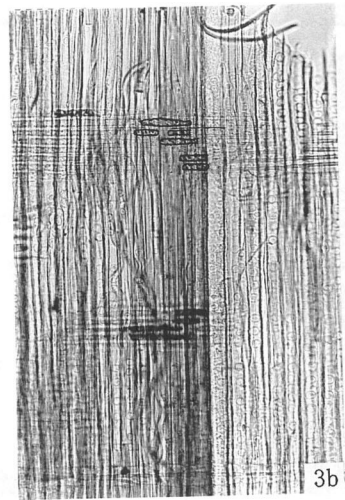
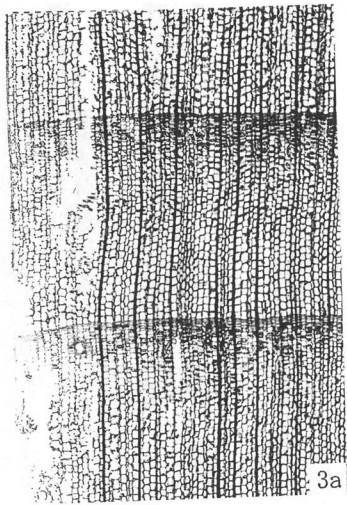
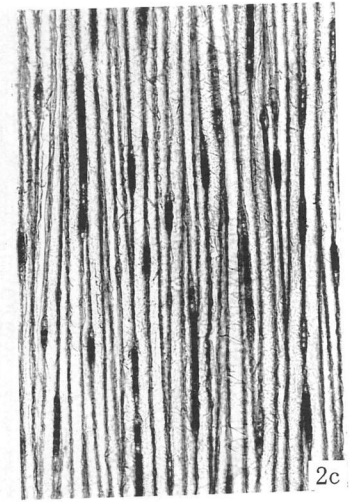
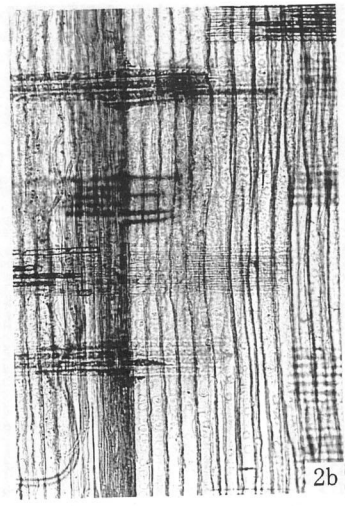
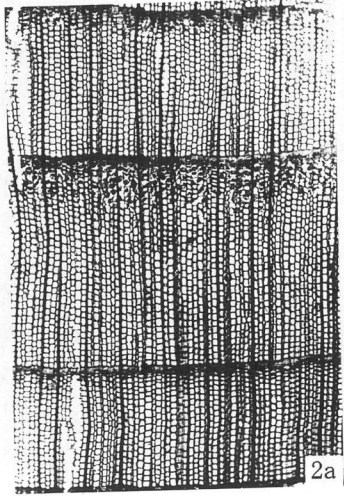
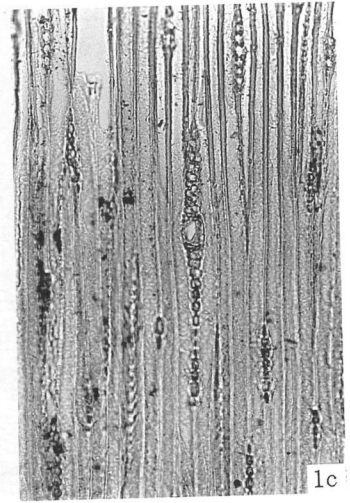
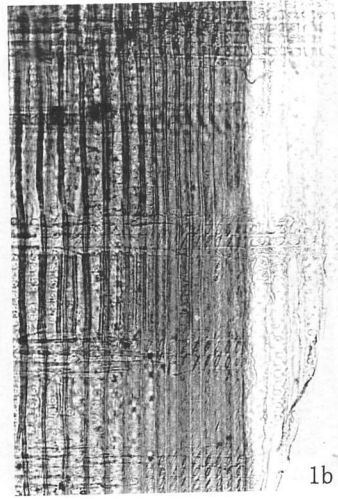
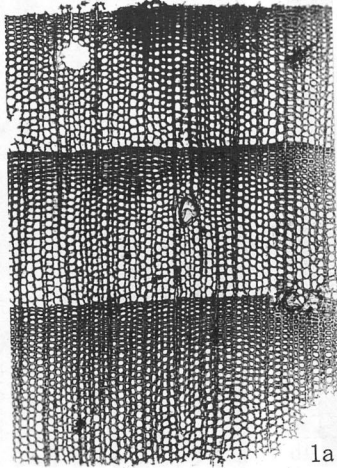
試料名	オニグルミ	モモ	サンショウ	イネ	ムギ類	オオムギ	コムギ	キケマン属	マメ類	不明
H1 II区	-	破	-	6	1	-	-	-	-	破
H4 I区床上	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
H4 IV区床上	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
H5 I区堀方	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
H5 II区堀方	-	-	-	23	1	-	-	-	-	1
H5 III区堀方	-	-	-	27	-	-	1	-	-	-
H5 IV区堀方	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1
H5 P1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
H5 P8	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
H6 床上	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
H12 D1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
H12 II区床上	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-
H13 IV区床上	-	破	-	1	-	-	-	-	-	-
H15 I区	-	-	-	1	-	1	-	-	2	1
M1 け51	破	-	-	2	1	-	6	-	-	3
M1 こ54	-	-	-	-	3	2	5	1	-	-
M1 さ55	-	-	-	-	1	1	3	-	-	-
M1 せ55	-	-	1	2	4	6	37	-	-	2
M1 そ55	-	-	-	1	2	2	6	-	1	1

## 引用文献

- 藤原直人(1999) 芝宮遺跡群・中原遺跡群出土の動植物遺体 ―古代の食生活を考える―。「帝京大学山梨文化財研究所 研究会報告集2 食の復元 ―遺跡・遺物からなにを讀みとるか―」, 榎原功一 編, p. 171-184, 岩田書院。
- 藤根 久(1994) 出土柱材の樹種。「長野県更埴市 屋代遺跡群 大境遺跡IV・V」, p. 66, 更 埴市教育委員会。
- 鎌形 勲(1979) 鍬の種類とその形態構造。(社)大日本濃会編「日本の鎌・鍬・犁」, p. 271-425, (財)農政調査委員会。
- 那須浩郎・百原 新(1998) 南軽井沢の化石群から復元した晩氷期の針葉樹林の生育立地。日本植生史学会1998年度大会講演要旨集, p. 31-32。
- 能城修一・鈴木三男(1997) 石川条里遺跡出土木製品の樹種。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書26「中央自動車道長野埋蔵文化財発掘調査報告書15 ―長野市その3― 石川条里遺 第3分冊」, p. 68-138, (財)長野県埋蔵文化財センター。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1988a) 鋳物師屋遺跡出土炭化材同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集「鋳物師屋遺跡群 鋳物師屋 ―長野県小諸市鋳物師屋遺跡発掘調査報告書―」, p. 116-117, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1988b) 十二遺跡出土炭化材の樹種同定。「鋳師屋遺跡群 十二遺跡 ―長野県北佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書―」, p. 393-399, 御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1989a) 広畑遺跡出土炭化材の樹種同定。「広畑遺跡 ―長野県北佐久郡御代田町広畑遺跡発掘調査報告書―」, p. 35-40, 御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1989b) 根岸遺跡出土炭化材の樹種同定。「長野県北佐久郡御代田町大字御代田所在 鋳師屋遺跡群 根岸遺跡発掘調査報告書」, p. 291-293, 御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1991) 関口A・B遺跡出土材の樹種同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第15集「関口A・関口B・下柏原」, p. 245-254, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1992a) 下芝宮遺跡・下聖端遺跡炭化材同定報告。佐久市埋蔵文化財調査報告書第9集「国道141号線関係遺跡(本文編)」, p. 355-391, 佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1992b) 下聖端遺跡出土種子同定報告。佐久市埋蔵文化財調査報告書第9集「国道141号線関連遺跡 ―本文編―」, p. 418-421, 佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1993) 郷土遺跡出土炭化材の同定。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集「郷土」, p. 52-57, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994a) 過去の植物利用について。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集「東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原 ―長野県小諸市東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡発掘調査報告書―」, p. 613-624, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994b) 大塚原遺跡における平安時代の住居構築材。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集「大塚原遺跡群 大塚原(第二次) ―長野県小諸市大塚原遺跡発掘調査報告書―」, p. 81-84, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994c) H-4号住居址から出土した炭化構築材の樹種。「塩野西遺跡群 塚田遺跡」, p. 344-353, 長野県御代田町教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1994d) 竹花遺跡第40号住居址出土炭化米の同定・計測結果報告。「小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集 三子塚遺跡群東下原・大下原 宮ノ反A遺跡群竹花・舟窪 大塚原遺跡群大塚原 ―長野県小諸市東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡発掘調査報告書―」, p. 589-592, 小諸市教育委員会。
- パリオ・サーヴェイ株式会社(1995) 第1号住居址出土の炭化材の樹種。小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書第24集「三子塚遺跡群 十石坂上遺跡 ―長野県小諸市十石坂上遺跡発掘調査報告書―」, p. 12-13, 小諸市教育委員会。
- 島地 謙・伊東隆夫編(1988) 日本の遺跡出土木製品総覧。296p., 雄山閣。
- 高橋 敦(2000a) 炭化材の樹種。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書51「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書24 ―更埴市内その3― 更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) ―縄文時代編― 本文」, p. 249-253, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 高橋 敦(2000b) 各時代の木製品や住居構築材等の用材。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書54「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書28 ―更埴市内その7― 更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) ―総論篇―」, p. 228-235, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 高橋 敦・辻本崇夫(1998) 古墳時代中期の木製品および住居構築材の用材。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書29「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書25 ―更埴市内その4― 更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) ―弥生・古墳時代編―」, p. 225-228, 日本道路公団東京第二建設局・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター。
- 高橋 敦・辻本崇夫(1999) 木製品・自然木、炭化材の樹種。長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書42「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26 ―更埴市内その5― 更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) ―古代1編― 本文」, p. 333-

- 337, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター.
- 辻 誠一郎・南木睦彦・吉川昌伸・吉川純子 (1983) 北・中部関東における立川期の植物相. 日本第四紀学会講演要旨集, 13, p. 102-103.
- 辻 誠一郎・南木睦彦・住田雅和・辻 圭子・福田美和 (1999) 屋代遺跡群の古代の大型植物遺体群. 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書42「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26 -更埴市内その5- 更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡) -古代1編- 本文」, p. 303-323, 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター.
- 氏原暉男 (1988) 鋳物師屋遺跡出土の炭化米について. 「小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書 11 集 鋳物師屋遺跡群 鋳物師屋 -長野県小諸市鋳物師屋遺跡発掘報告書」, p. 113-115, 小諸市教育委員会.
- 氏原暉男・廣瀬玉紀 (1992) 下聖端遺跡出土炭化種子について. 「佐久市埋蔵文化財調査報告書 第9集 国道 141 号線関連遺跡 -本文編-」, p. 400-417, 佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター.

図版1 木材 (1)

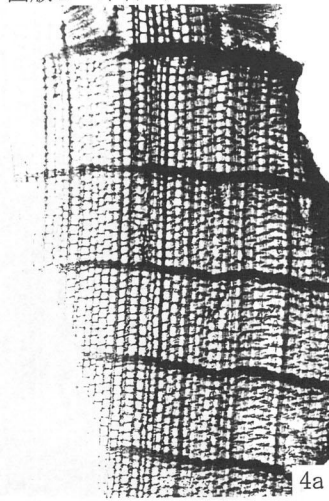


1. マツ属単維管束亜属 (試料番号A)
  2. モミ属 (試料番号D)
  3. トウヒ属 (試料番号B)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

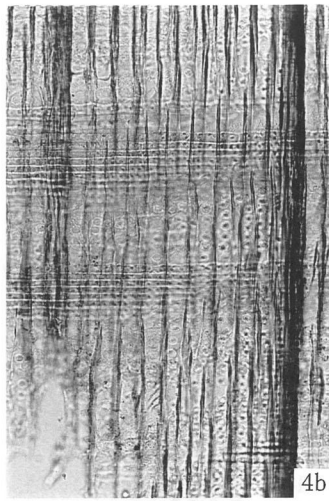
200 μm : a  
200 μm : b, c



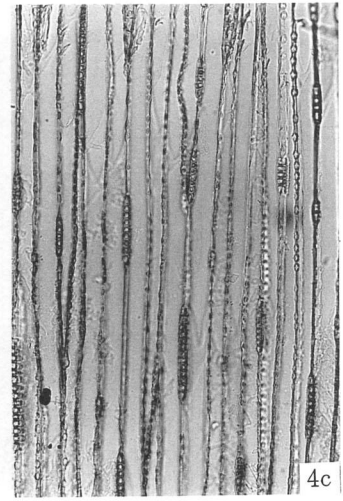
図版2 木材 (2)



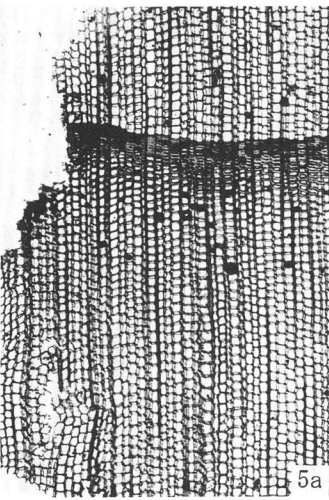
4a



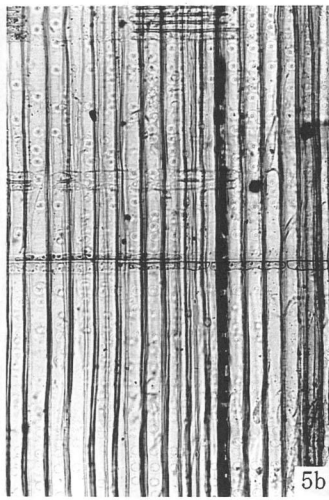
4b



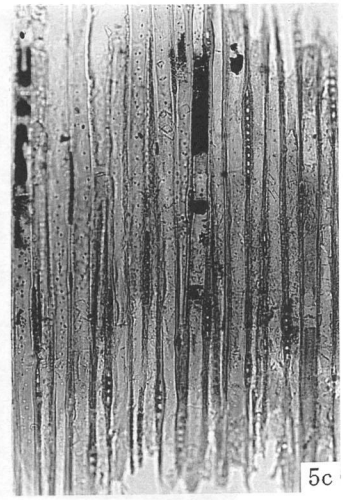
4c



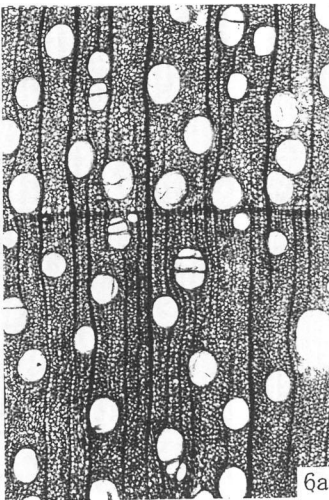
5a



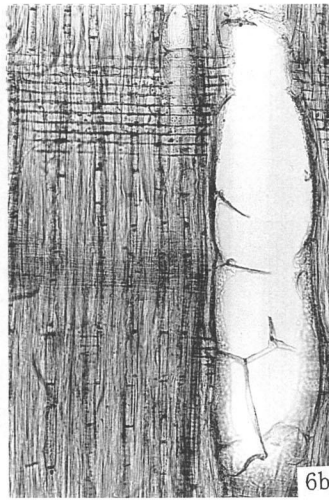
5b



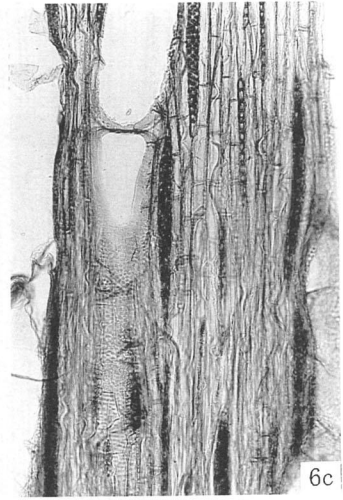
5c



6a



6b

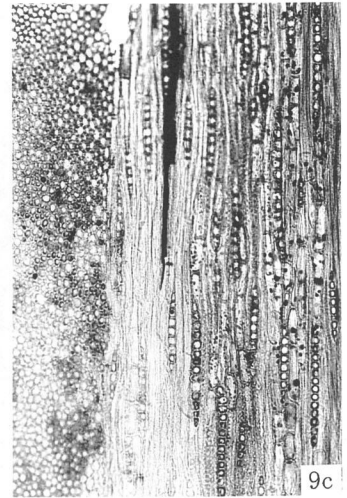
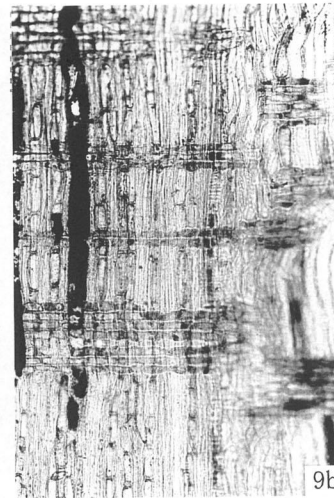
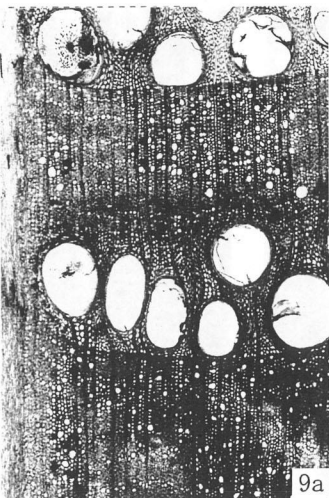
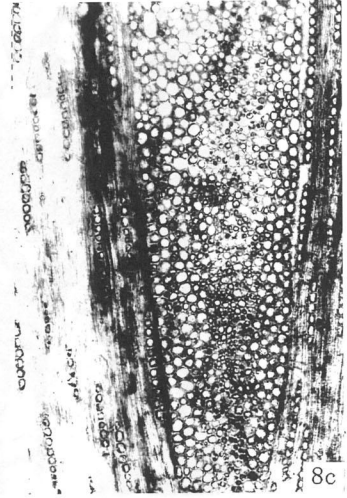
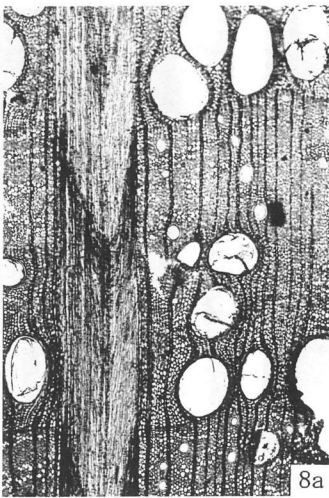
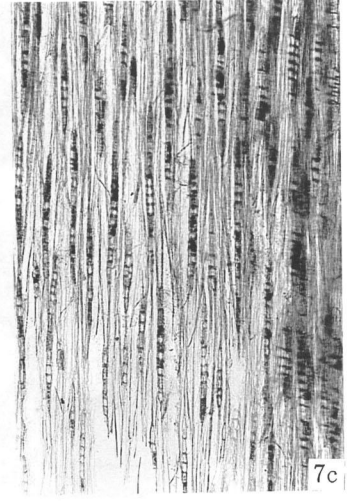
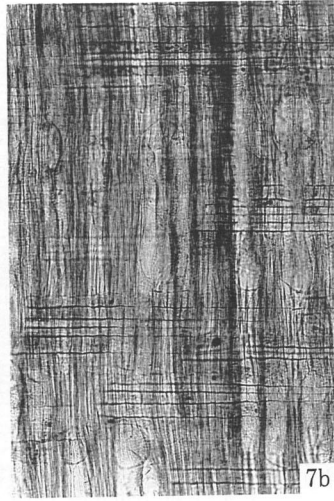
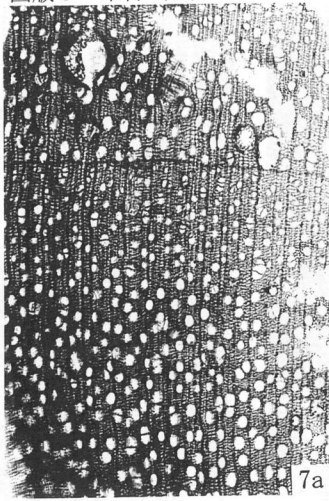


6c

4. サワラ (試料番号88)
  5. クロベ (試料番号144)
  6. オニグルミ (試料番号114)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm : a  
200 μm : b, c

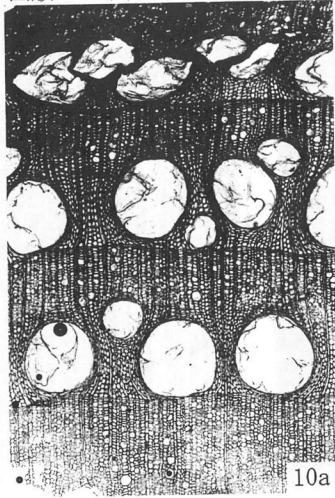
図版3 木材 (3)



7. ヤナギ属 (試料番号10)  
 8. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (試料番号3)  
 9. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料番号108)  
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm : a  
 200 μm : b, c

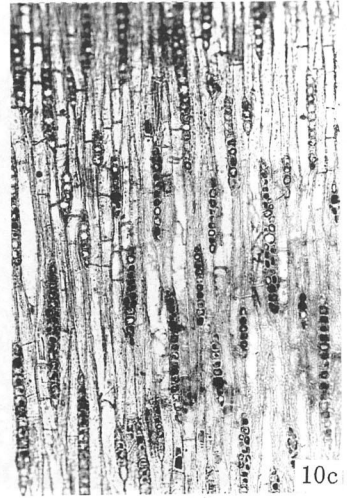
図版4 木材(4)



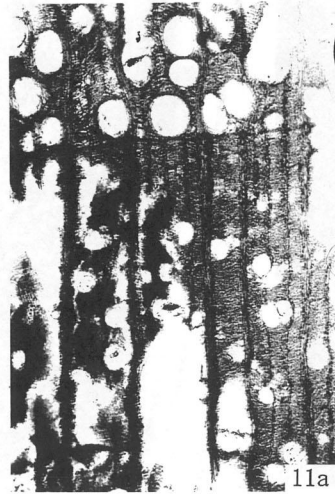
10a



10b



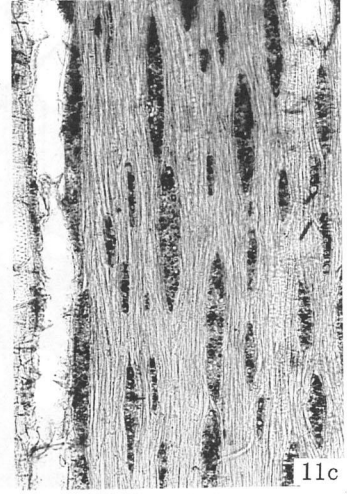
10c



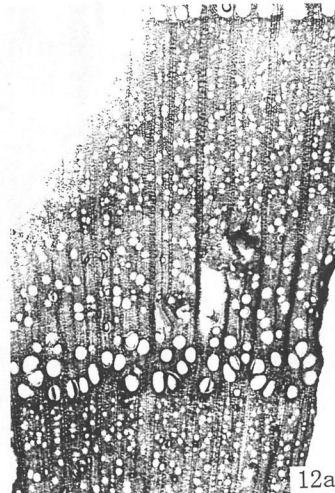
11a



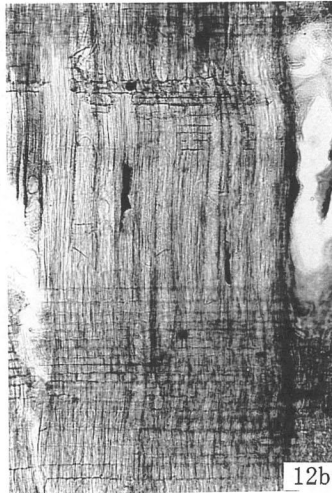
11b



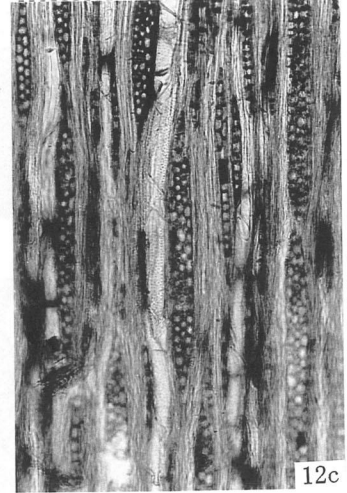
11c



12a



12b

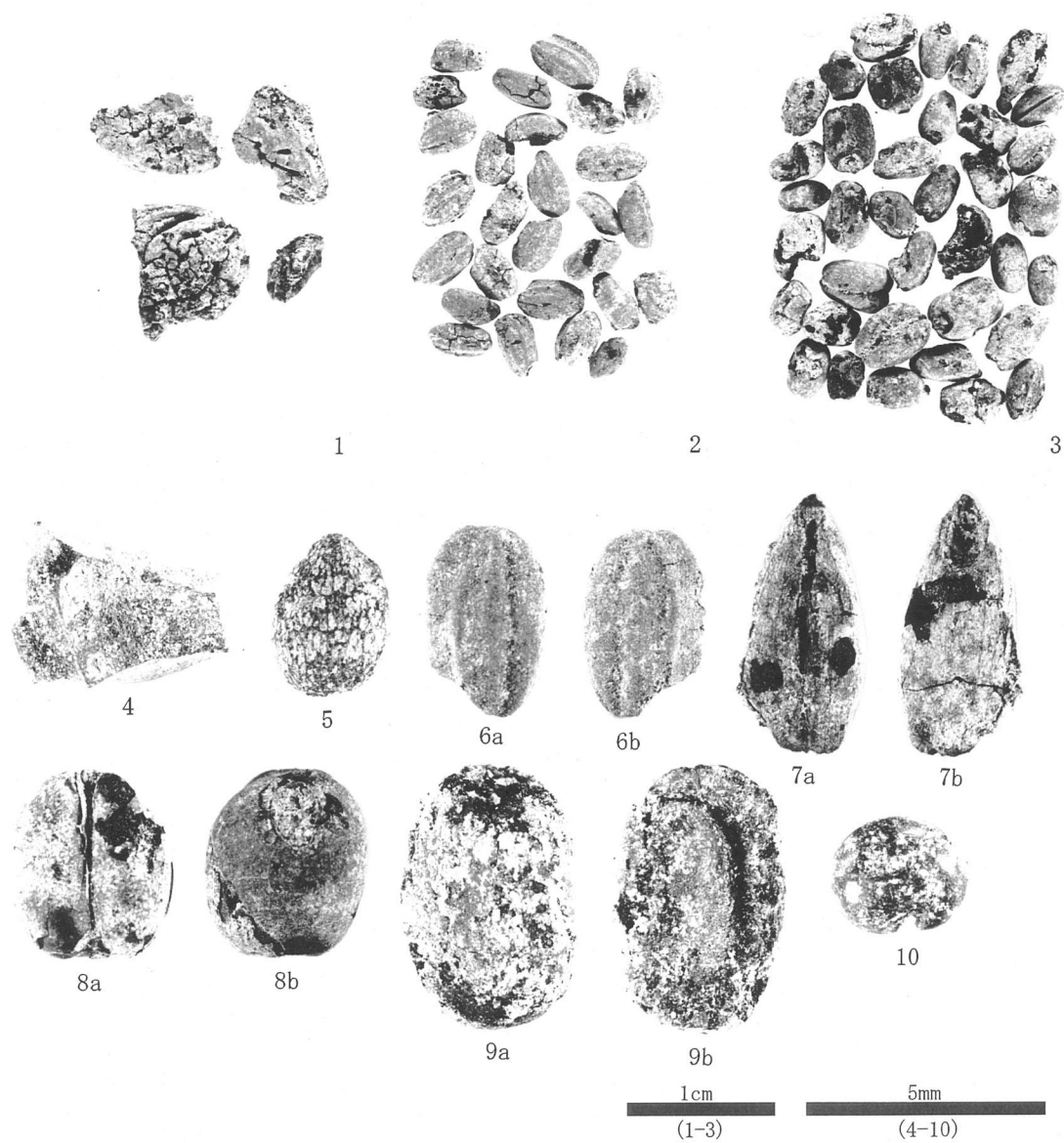


12c

10. クリ (試料番号81)  
 11. ヤマグワ (試料番号105)  
 12. モモ (試料番号157)  
 a: 木口, b: 柾目, c: 板目

200 μm : a  
 200 μm : b, c





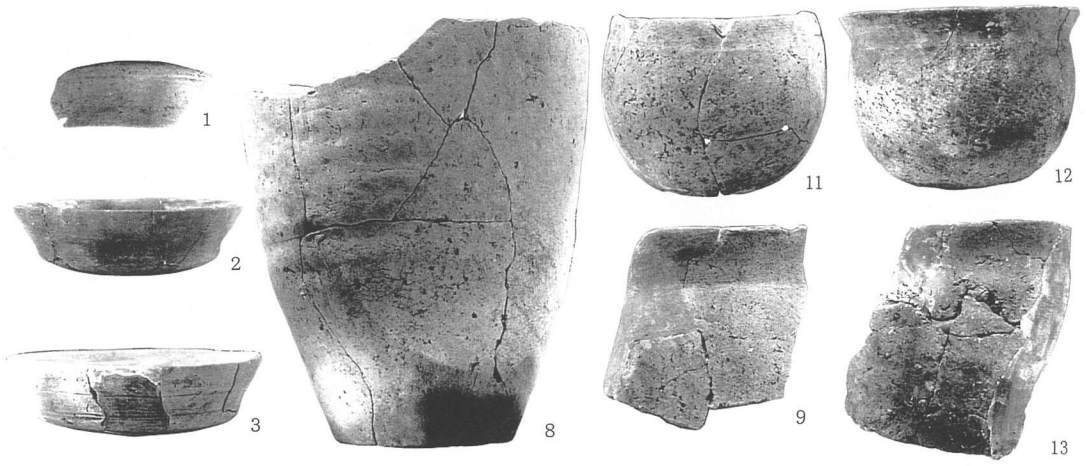
1. モモ(H1 II区)
3. コムギ(M1 せ55)
5. サンショウ(M1 せ55)
7. オオムギ(M1 せ55)
9. マメ類(H15 I区)

2. イネ(H5 III区堀方)
4. オニグルミ(M1 け51)
6. イネ(H5 III区堀方)
8. コムギ(M1 せ55)
10. キケマン属(M1 こ54)



H 1 号住居址

H 6 号住居址

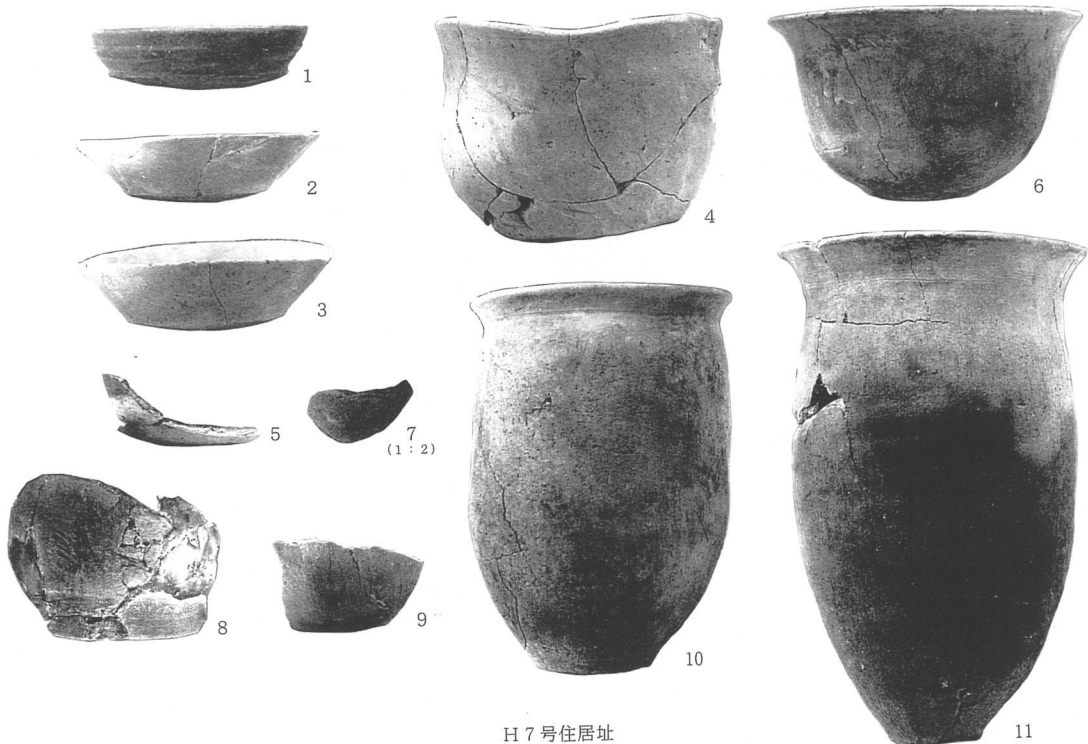


H 4 号住居址

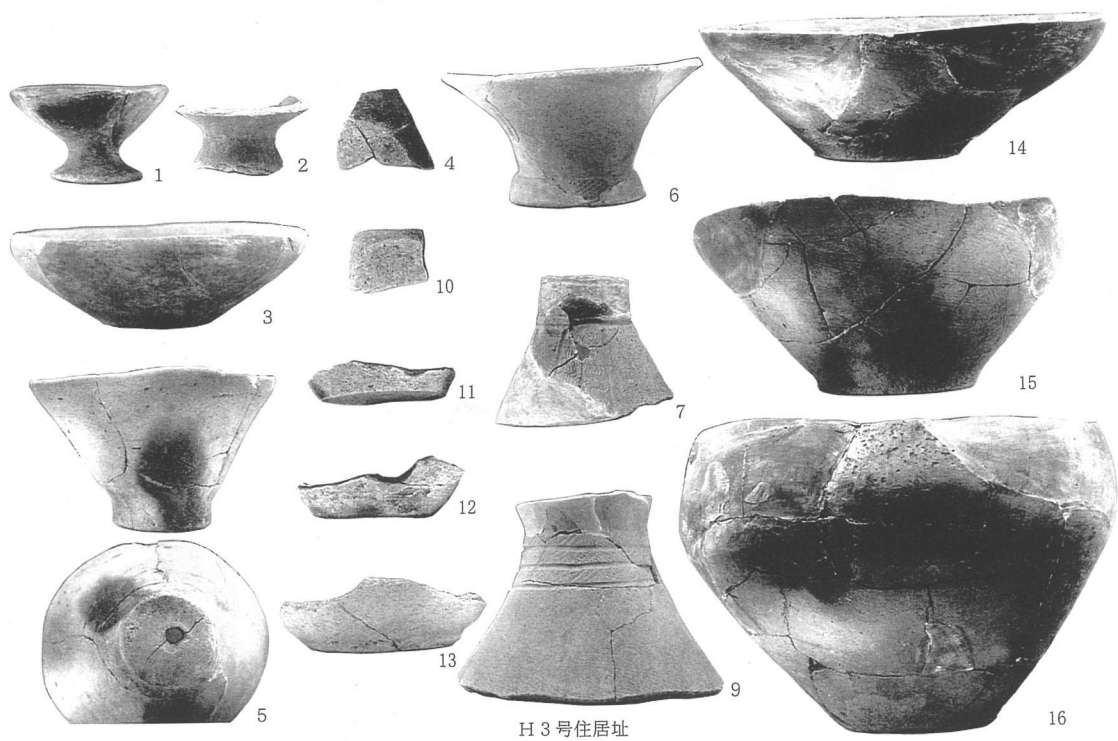


图版 2

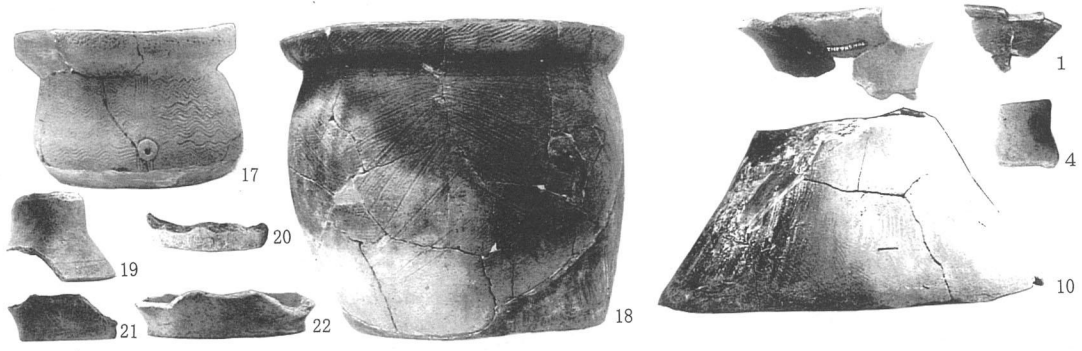
西一本柳遺跡 V · VI



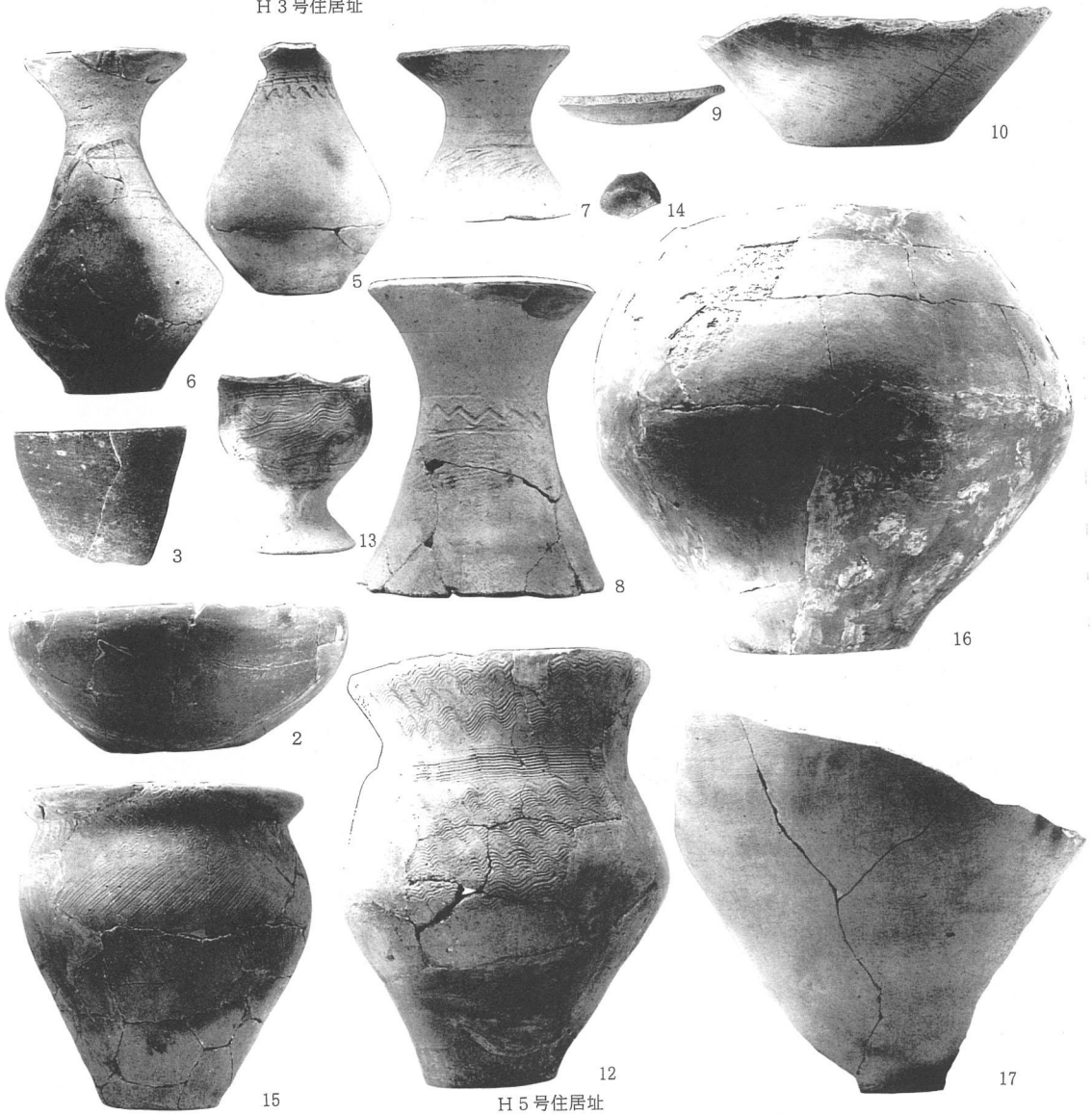
H 7 号住居址



H 3 号住居址



H 3号住居址



H 5号住居址

图版 4

西一本柳遺跡 V・VI



H 8 号住居址



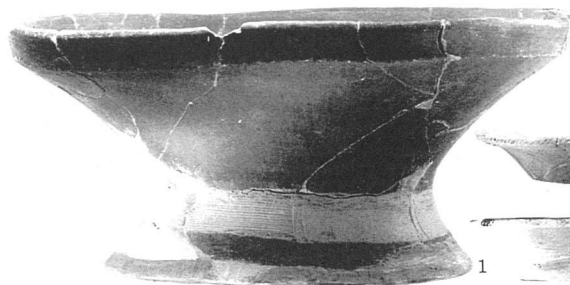
M 6 号溝状遺構



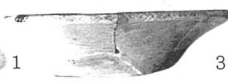
M 4 号溝状遺構

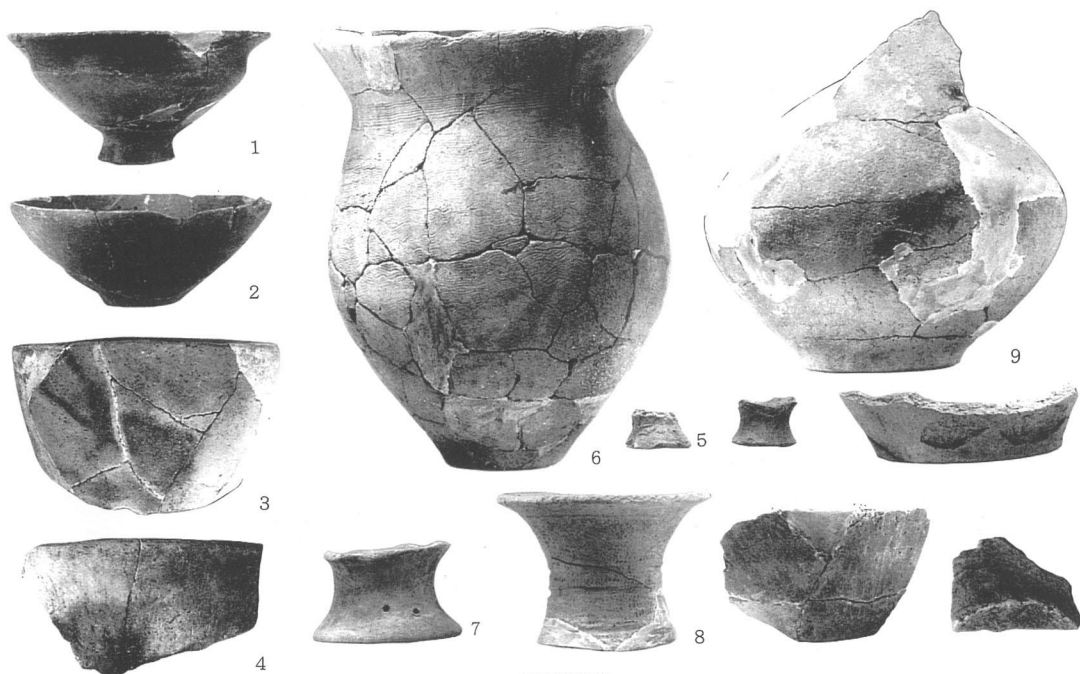


M 1 号溝状遺構



M 7 号溝状遺構





M 2 号溝状遺構

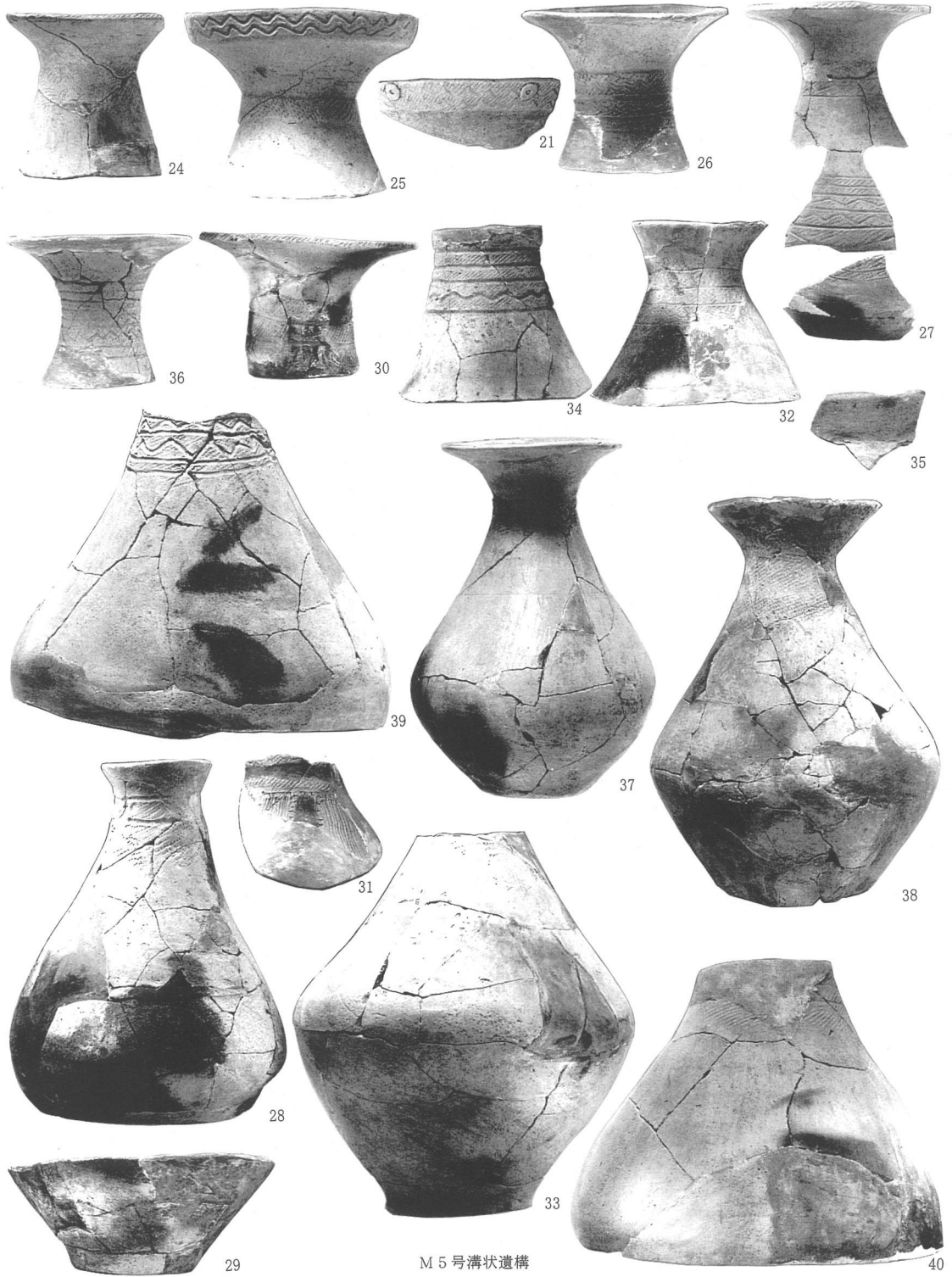


M 5 号溝状遺構

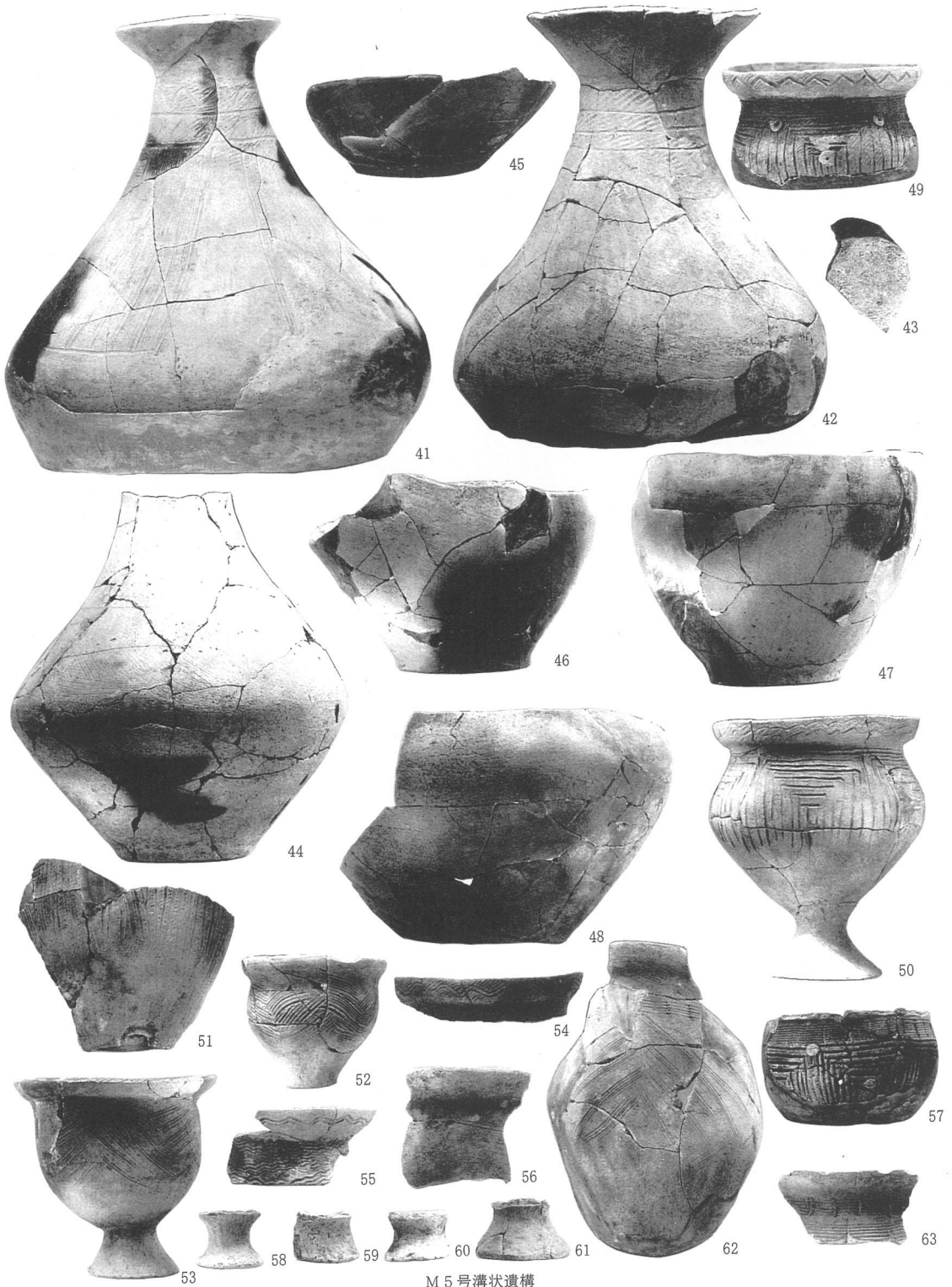


図版 6

西一本柳遺跡 V・VI



M 5号溝状遺構



M 5 号溝状遺構



図版 8

西一本柳遺跡 V・VI



M 5 号溝状遺構

図版九・十 石製品出土遺構

(I N P V)

H 2 34、35

H 3 1、2、6、44

H 4 3、4、5、37、45

H 5 7、8、9、10、11、12、43、51、53、54、55

H 7 17、18、19、20、21、22、23、24、25、33、47、52、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、

69、70

M 1 13、14、30、74、76、92

M 2 31、49、73、81

M 5 32、36、48、50、71、72、75、77、79、80、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91

M 6 15

M 11 46

F 3 16

D 1 26、27、98

D 4 41

単独ビット 39

グリット Aき 8 40、94、95

Aけ 3 38

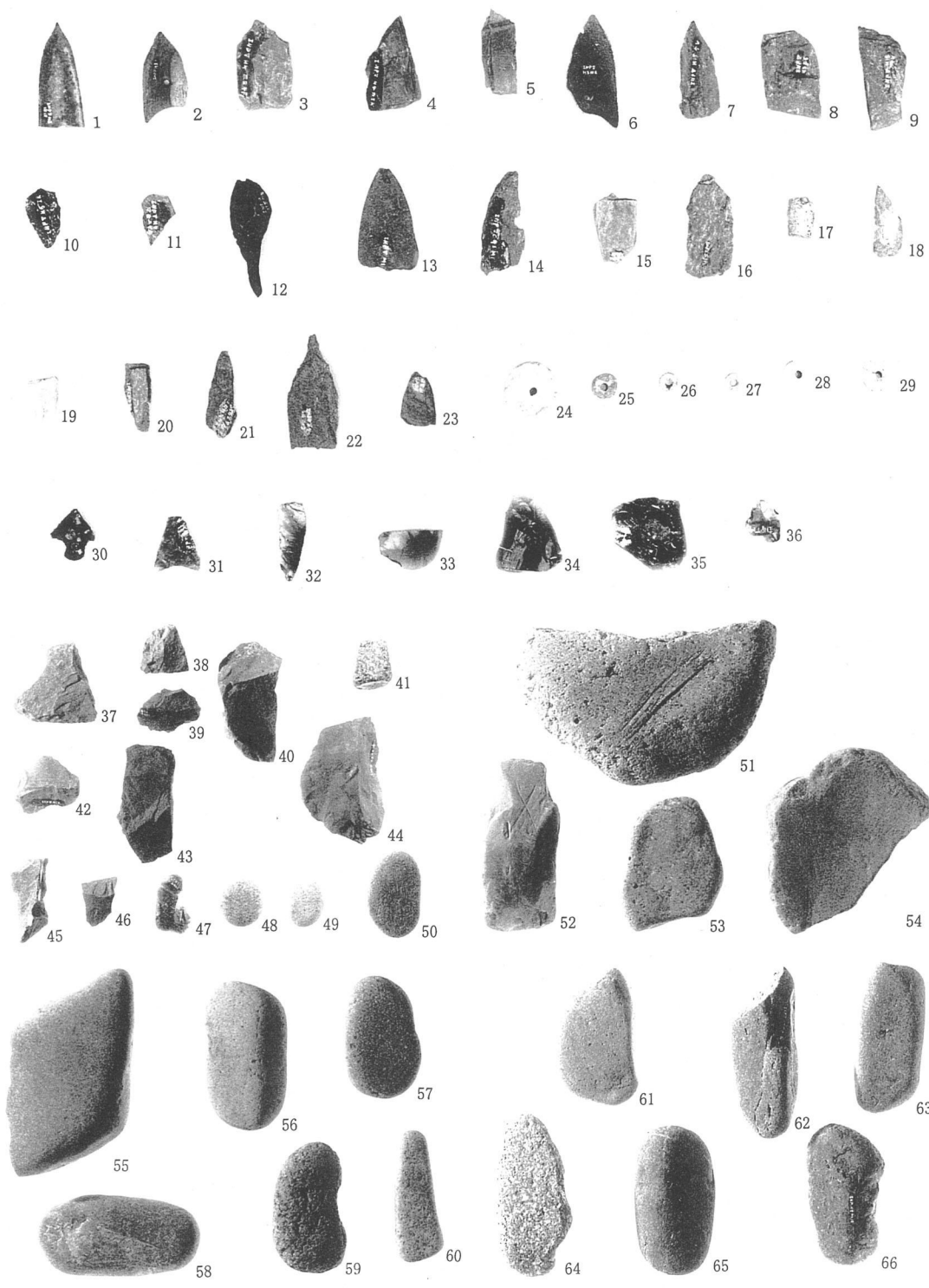
Aこ 8 42

Bえ 9 96

表採 28、29、97

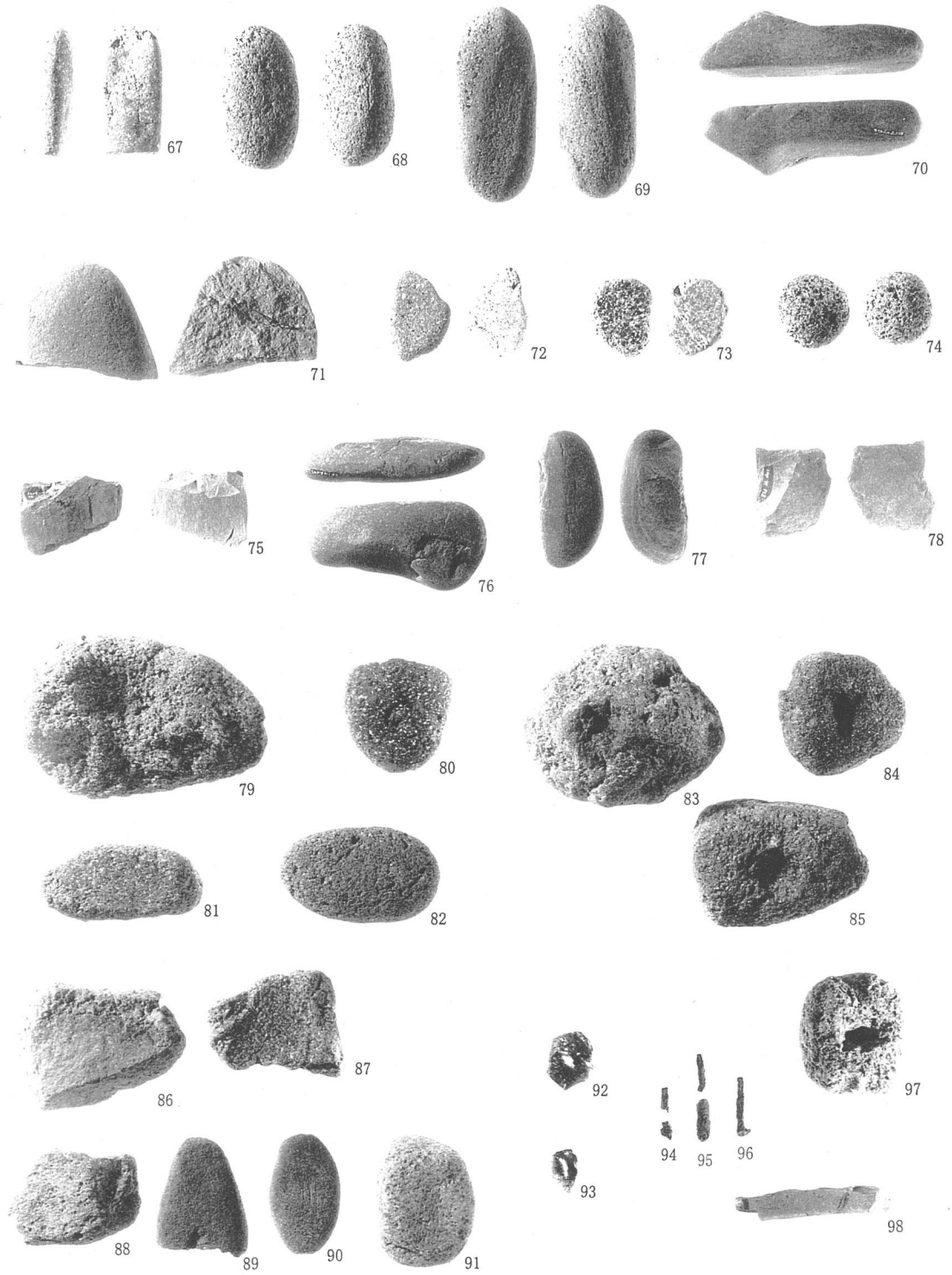
(I N P VI)

M 2 78、93



图版 10

西一本柳遺跡 V · VI



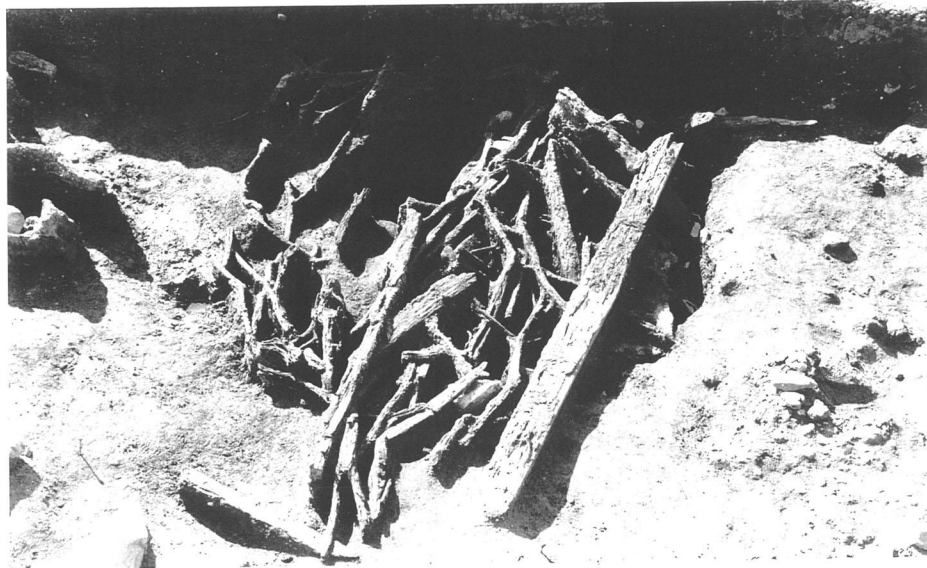
1 中長塚遺跡 I  
水田跡 B  
南から



2 中長塚遺跡 I  
近景  
南から



3 中長塚遺跡 I  
しがらみ状遺構  
東から

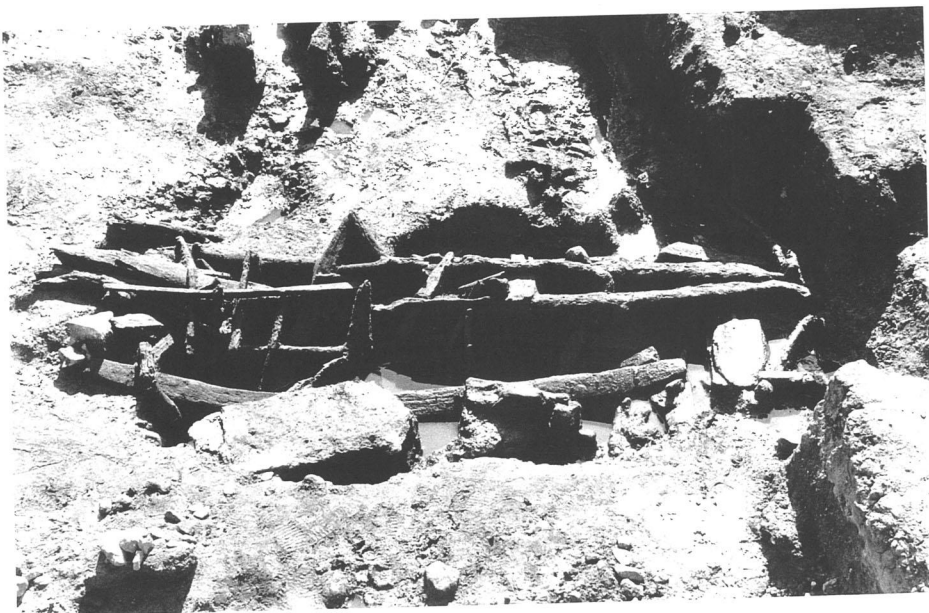


図版 1 2

1 中長塚遺跡 I  
しがらみ状遺構  
北から



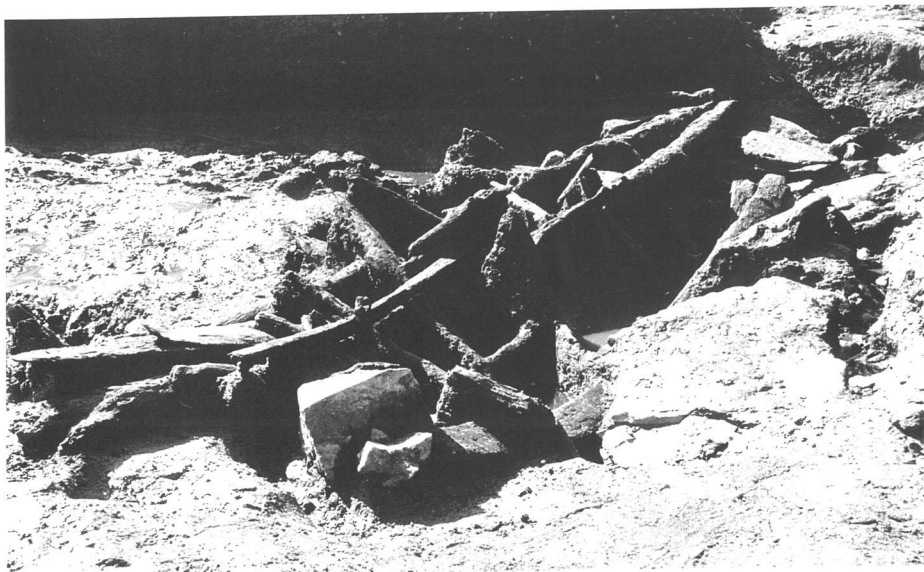
2 中長塚遺跡 I  
しがらみ状遺構  
北から



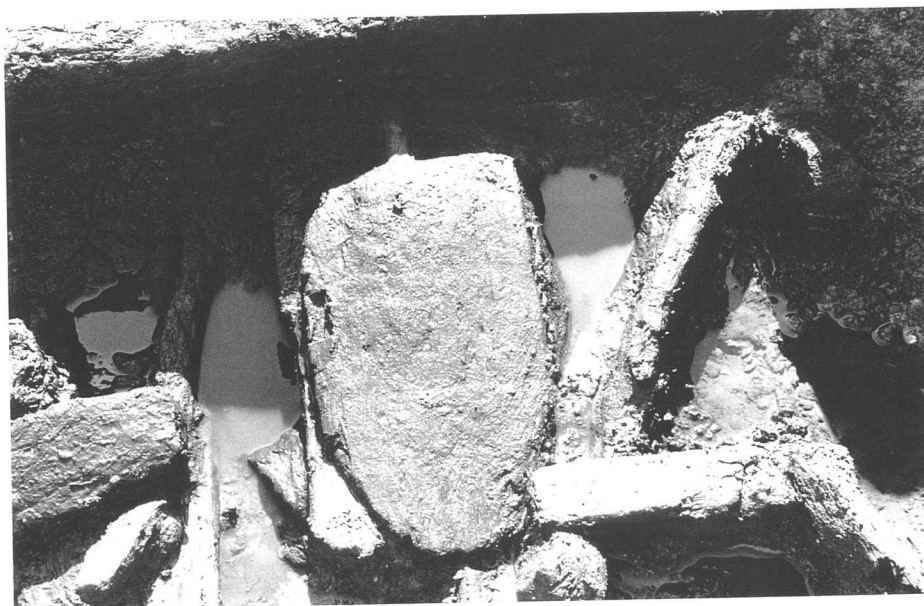
3 中長塚遺跡 I  
しがらみ状遺構  
東から



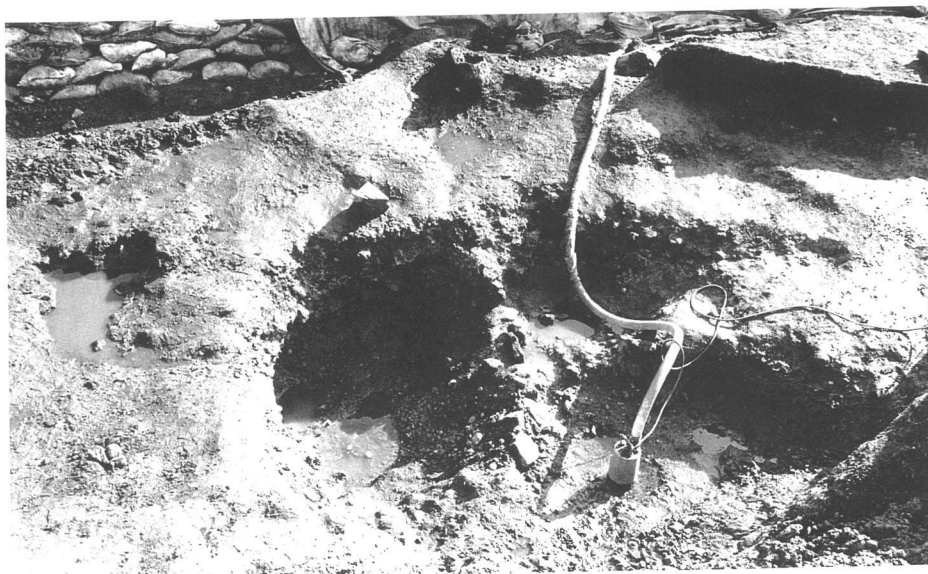




1 中長塚遺跡 I  
しがらみ状遺構  
東から



2 中長塚遺跡 I  
鋤先出土状況



3 中長塚遺跡 I  
しがらみ状遺構  
掘り方 東から



1 松の木遺跡（第Ⅰ次調査区 平成8年度）南方より



2 松の木遺跡（第Ⅰ次調査区近景 平成8年度）北方より



1 松の木遺跡（第I次調査A地区近景 平成8年度）南方より

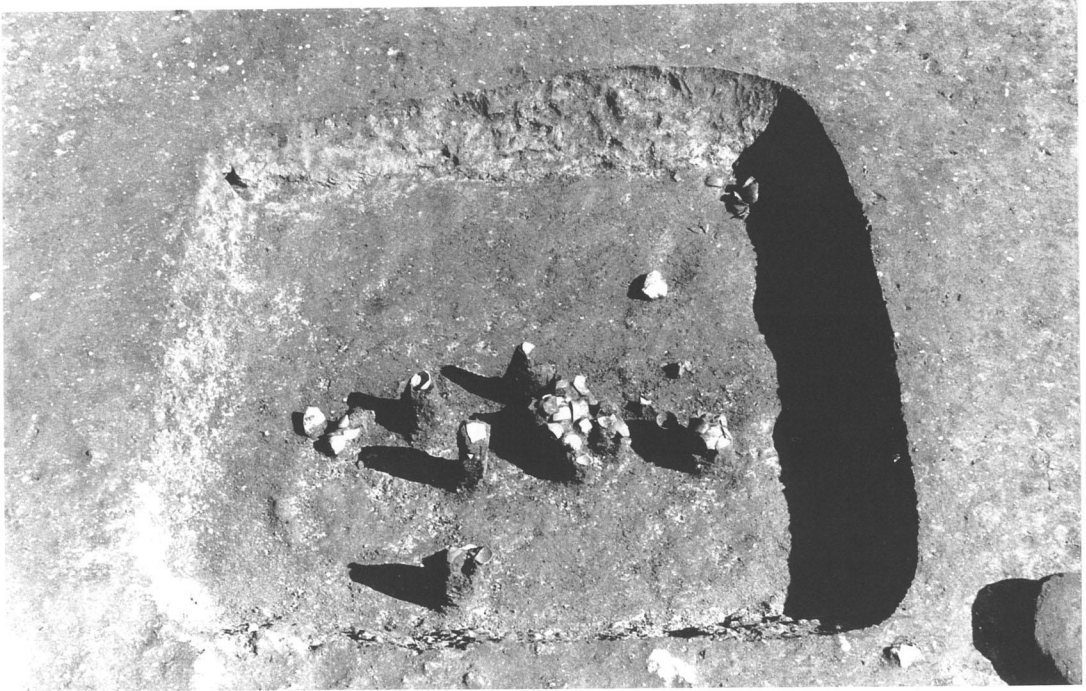


2 松の木遺跡（第II次調査区近景 平成9年度）北方より



図版 16

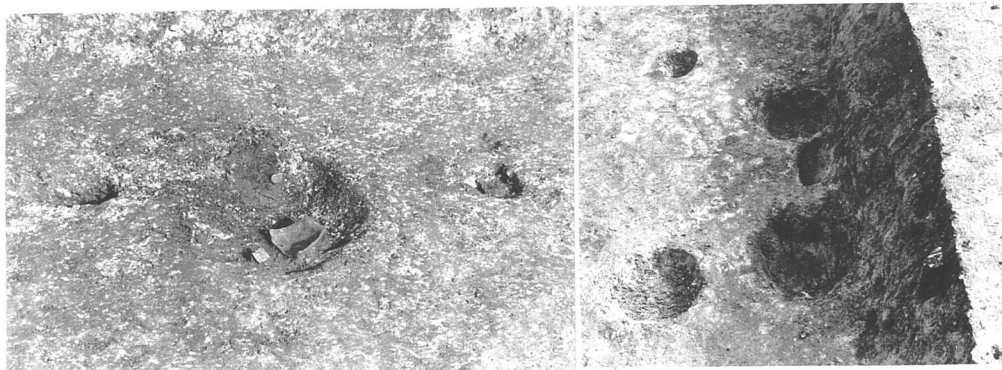
1 H 1号住居址  
遺物出土状況



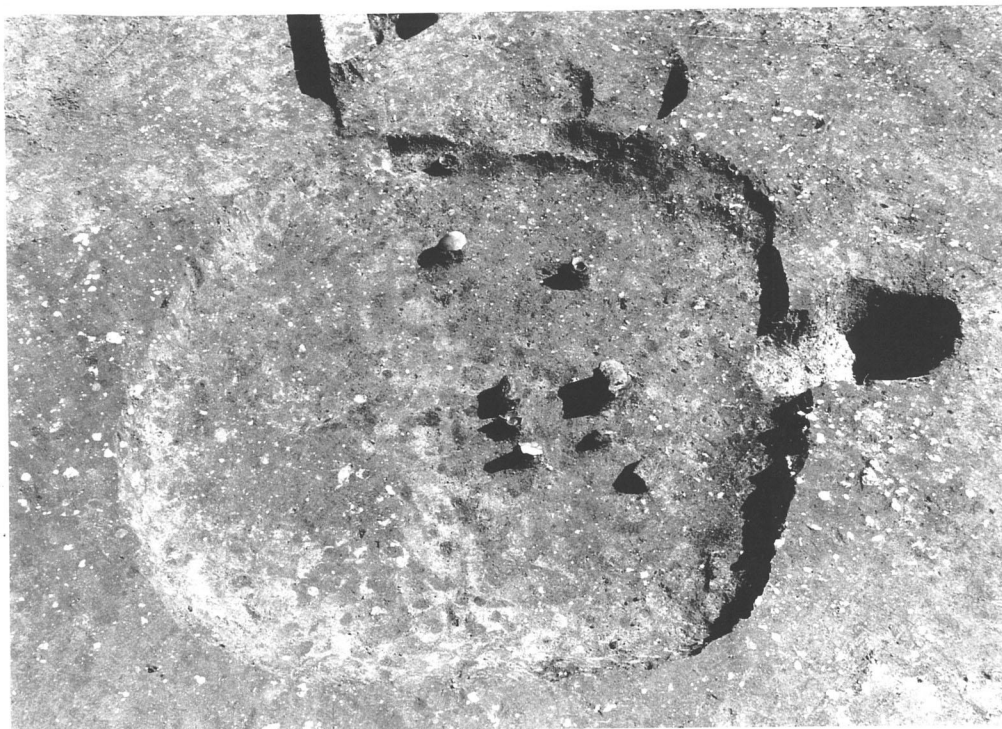
2 H 1号住居址  
遺物出土状況



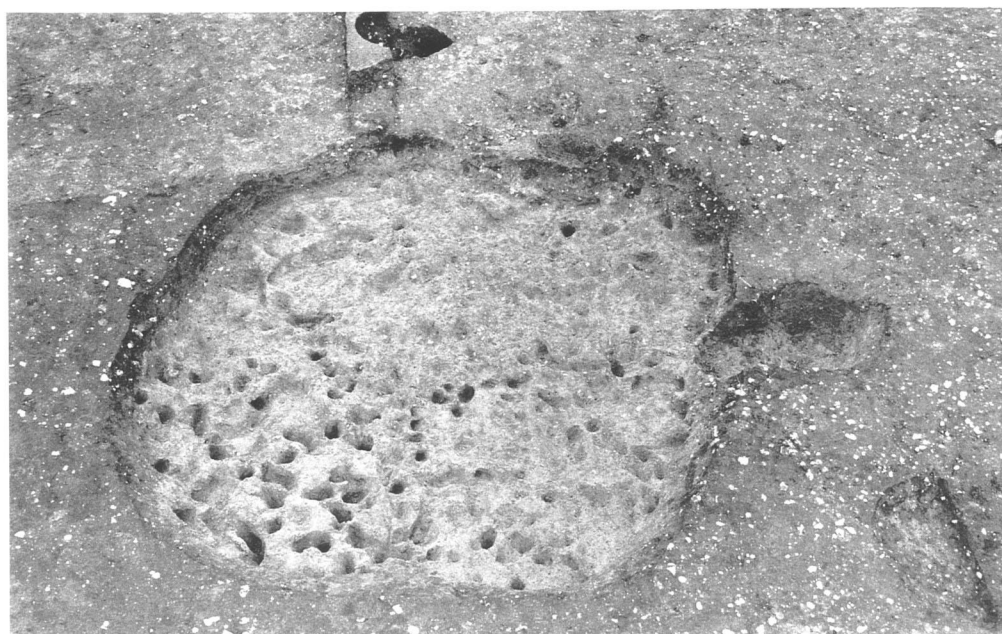
図版 17



- 1 H1号住居址  
炉
- 2 H1号住居址  
入り口部ピット



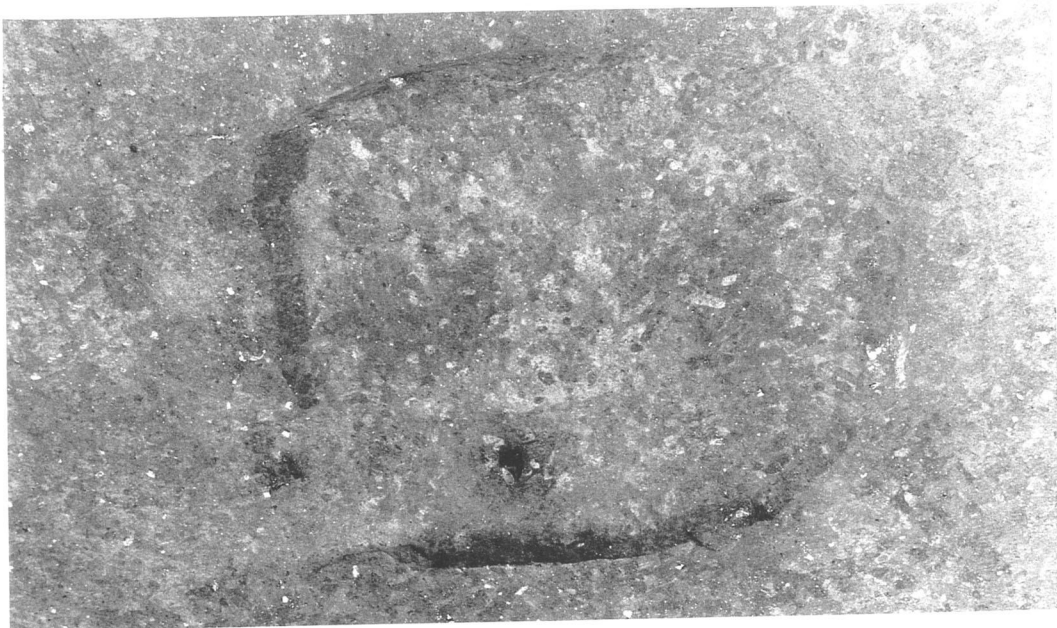
- 3 H2号住居址  
遺物出土状況



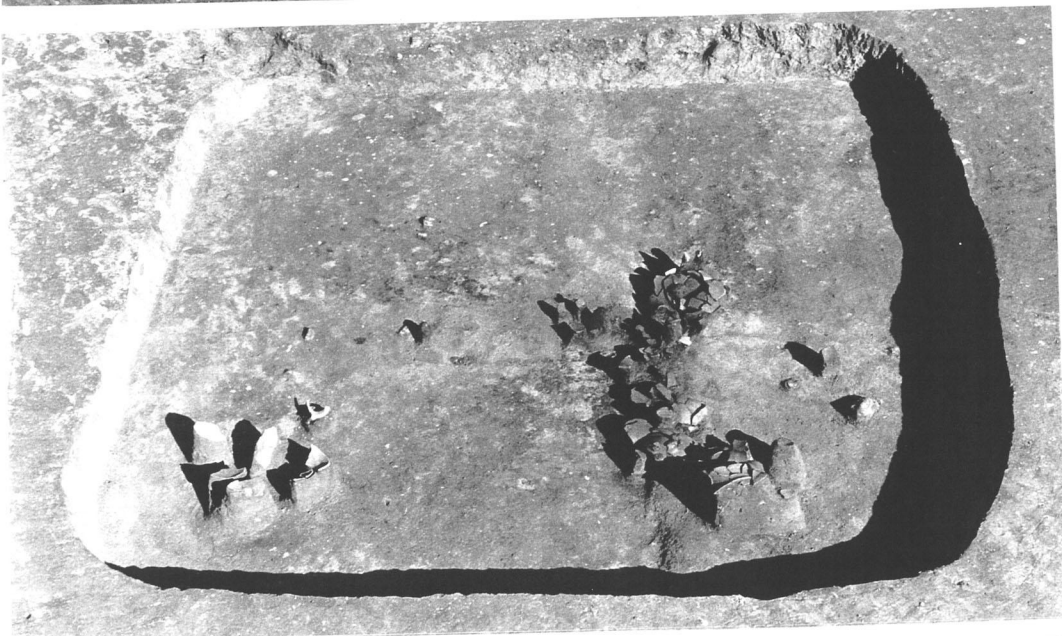
- 4 H2号住居址  
掘り方

图版 18

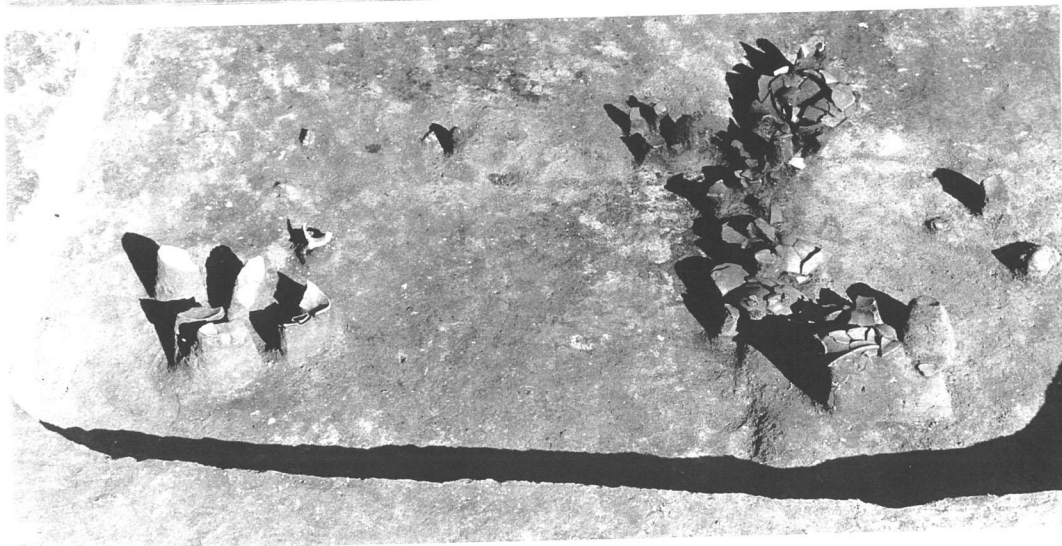
1 H3号住居址



2 H4号住居址  
遺物出土状况



3 H4号住居址  
遺物出土状况



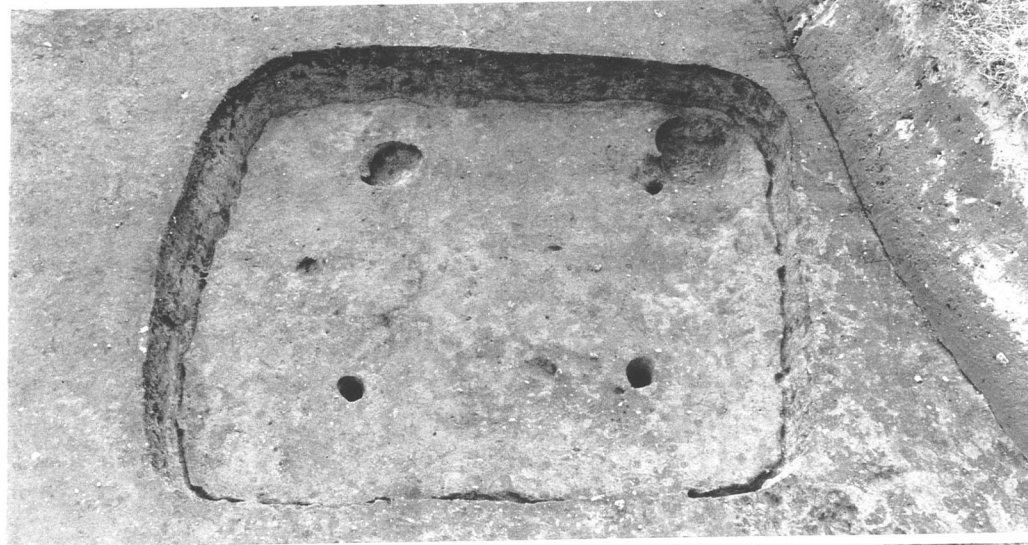




1 H 4号住居址  
遺物出土状況



2 H 4号住居址  
遺物出土状況



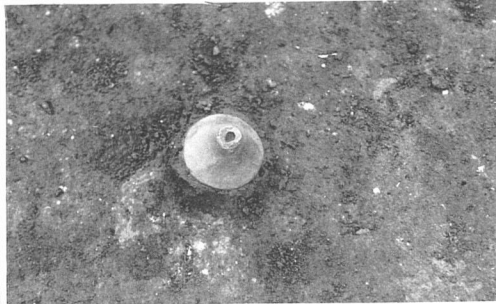
3 H 4号住居址



4 H 5号住居址



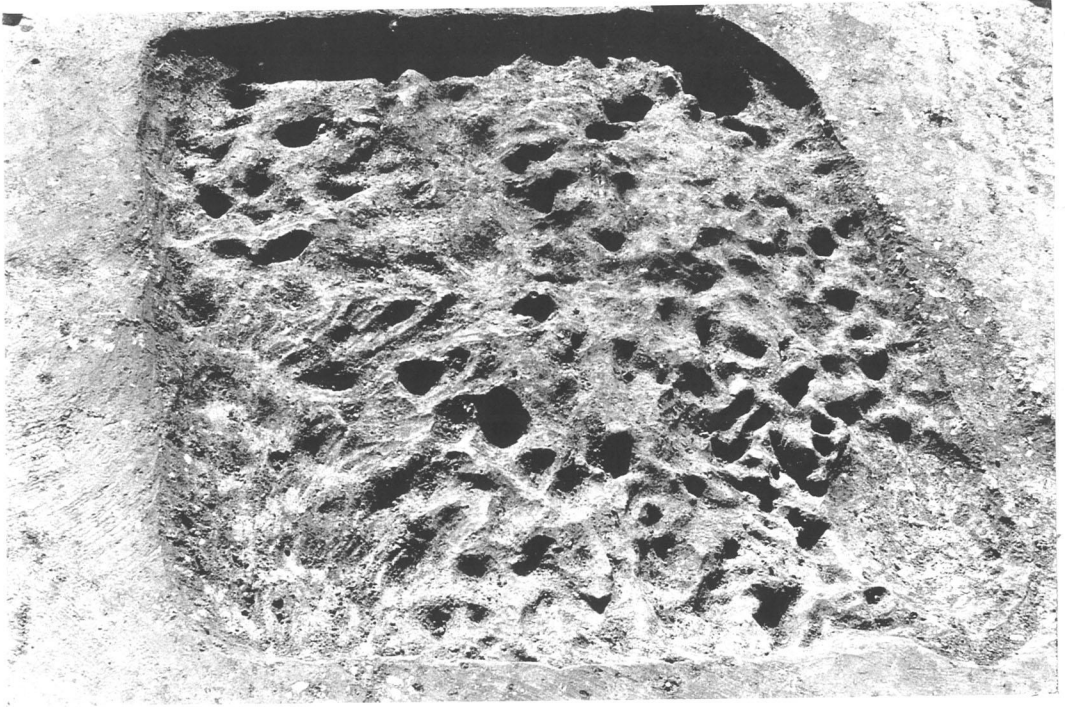
5 H 5号住居址  
遺物出土状況



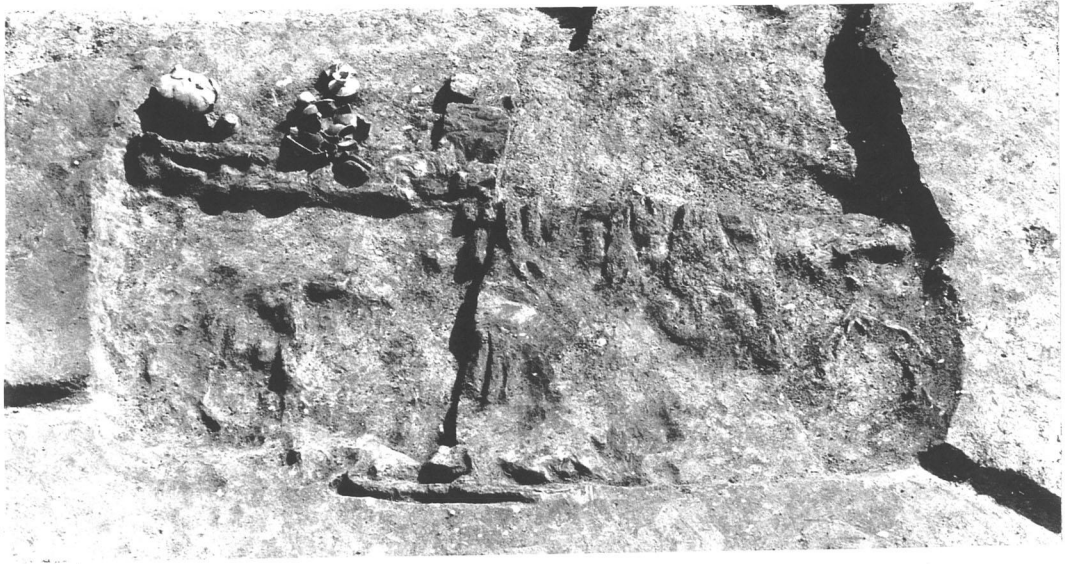
6 H 5号住居址  
遺物出土状況

図版 20

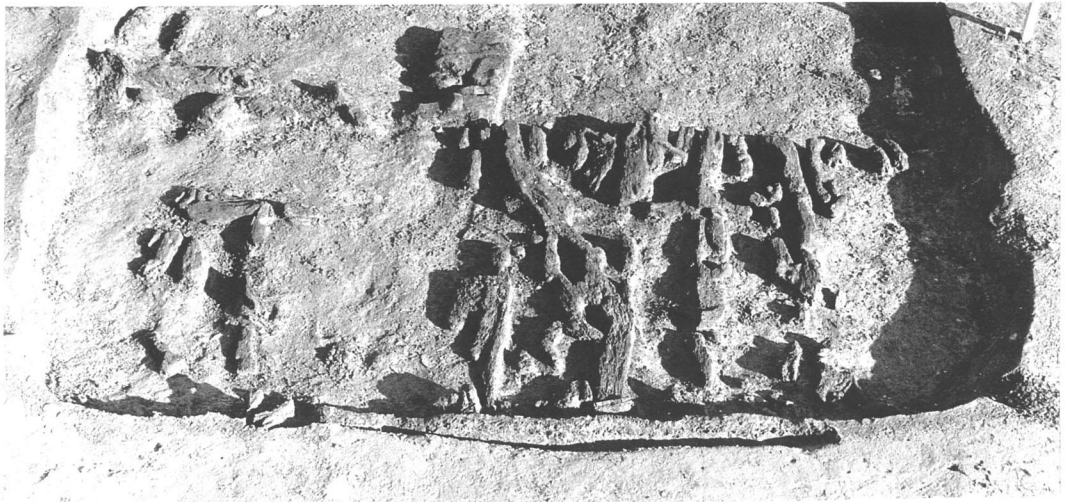
1 H 5号住居址  
掘り方



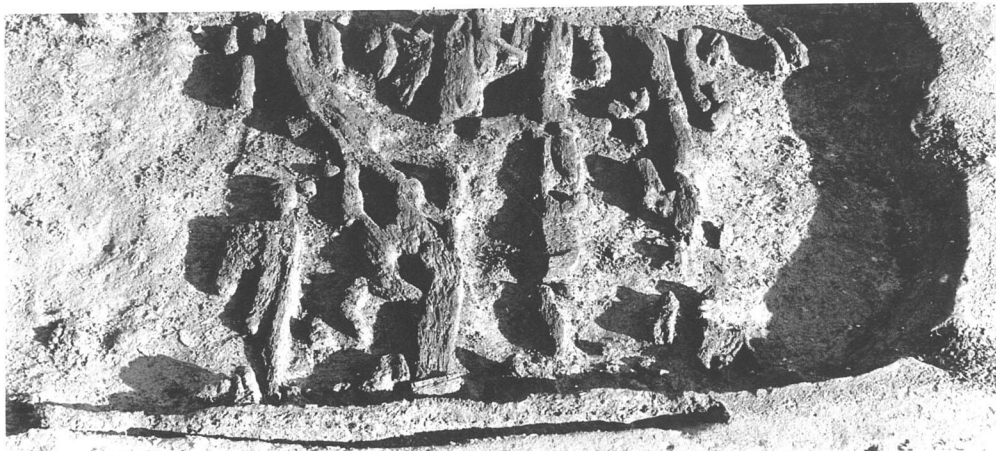
2 H 6号住居址  
炭化材出土状況



3 H 6号住居址  
炭化材出土状況



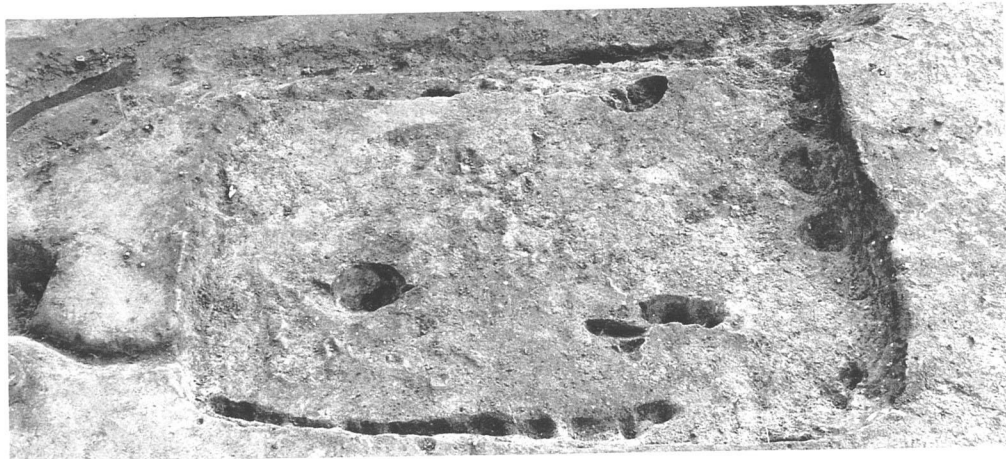
1 H 6号住居址  
炭化材出土状況



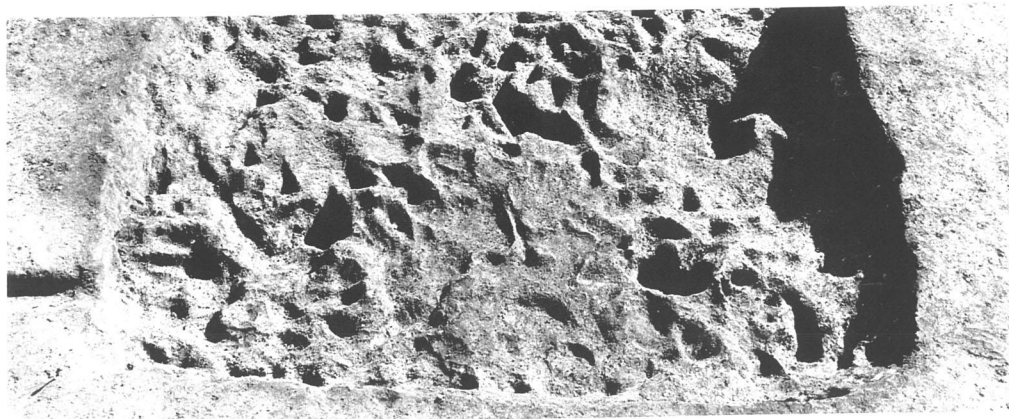
2 H 6号住居址  
遺物出土状況



3 H 6号住居址



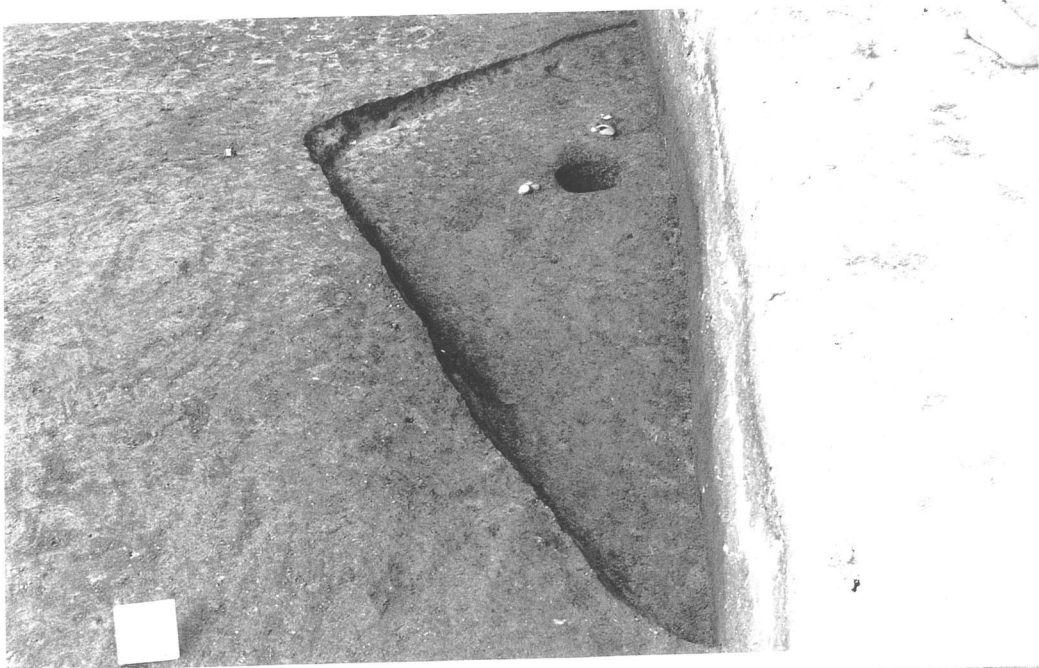
4 H 6号住居址  
掘り方



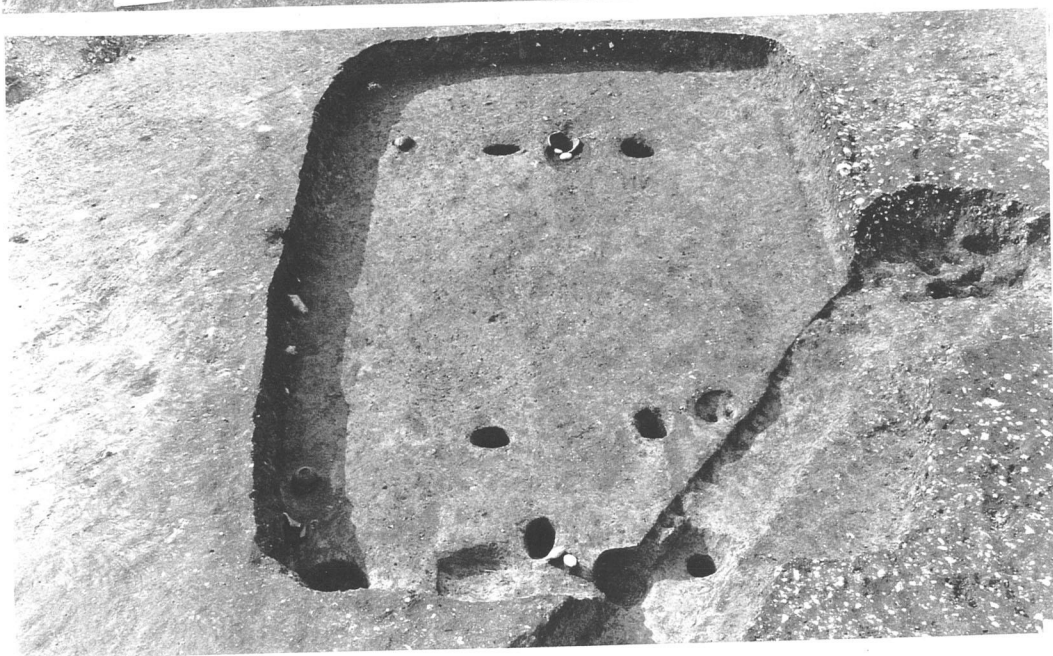


図版 22

1 H7号住居址



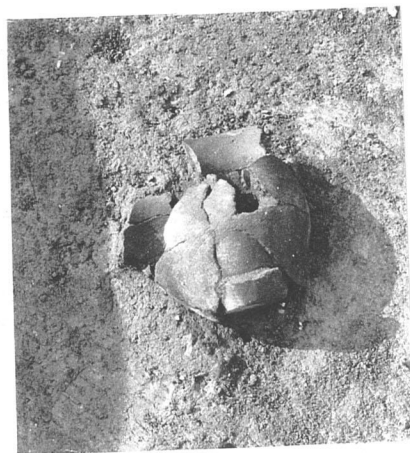
2 H8号住居址



3 H8号住居址  
遺物出土状況

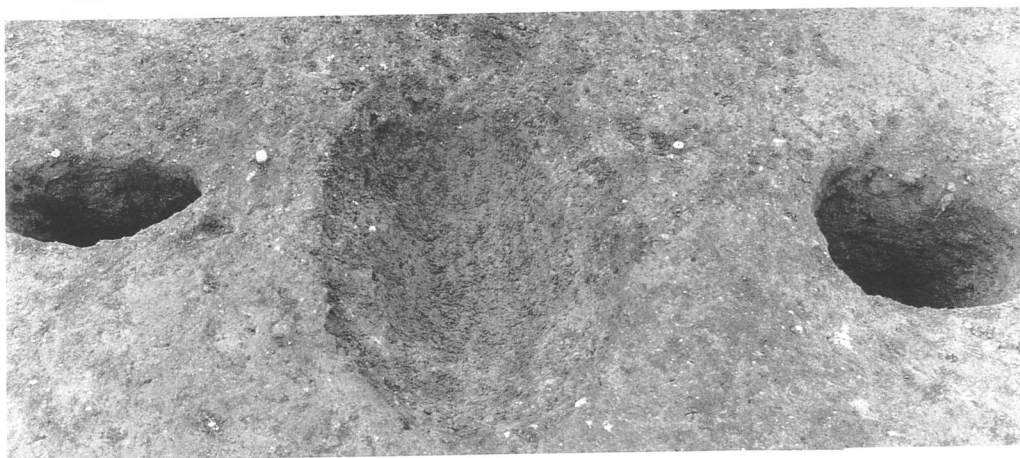


4 H8号住居址  
遺物出土状況





1 H 8号住居址  
炉



2 H 8号住居址  
炉



3 H 9号住居址



4 H 9号住居址  
炉



図版24

1 H9号住居址  
遺物出土状況



2 H9号住居址  
掘り下げ



3 H9号住居址  
掘り下げ



4 H10号住居址  
炭化材出土状況



5 H10号住居址

